

あるが、各地を旅行したので、實は悪路で自動車の後押しあとおしの苦しい経験を知つて居るのである。ルツサンピラ驛るつさんぴらえきから勝田醫師かつたにいしの所まで、四十五軒約十里の道だ。それが驛からダラ／＼順じゆんに上つて行く道であるから、大雨が降れば道は河になつて、石の少い所は砂が皆流れて谷になつてしまふのである。その上に雨後には善く大木が自然に倒れて道を塞ぐ事もあるもので、雨期になると、マツシヤードまつしやード（鉞）とエンシヤードえんしやード（鉞）とは必ず自動車に積み込まねば田舎の山道は通れないのである。

案の状、自動車は十七軒邊りあそびで悪路に陥ち込んで、前にも後にも動かぬ様になつて、大雨中にいよいよ引上工事をしなければならぬことになつてしまつた。費した時間約三時間、挺と埋木を作る爲に切倒した木は七本、運轉手と共に四人大雨で濡鼠、赤土で餛ころよろしくの態になつてしまつた。

それから先は、少し堀れて居る所へ來ても、直ぐ下車して豫め道普請をして車を通すと云ふ用心振り。斯くして勝田醫師の所へ着いたのは夜の十時近くであつた。

レインコートはもとより、洋服もシャツも全部洗濯をしなければならぬ有様。こんなことから引返すのだつたとは後の祭であつた。

アリアンサの生活

（寫眞は原始林を切開いた道）

アリアンサの生活、それは確に香氣な恵まれたる生活である。

日本で十アルケルじゅうあるける（約廿五町歩）の土地を買ふ可く約束して、その代金約七コント（一コントは二百五十圓）の三分の一を拂込んで、渡伯する、そして、十分資金を有するものは人を頼みさもなくば家族だけの手で四アルケル程度を切開く、これは働手如何にも依るのであるが、

男子の大人二人を含む家族なら三ヶ年間に四アルケルの伐採と、その跡へ五六千本の珈琲の植付けは困難でない。

珈琲は高地程が品質が善いので、土地の地割も高地と低地が含まれる様に、十



五米に五百七十米とか、二十米に四百三十米とかに切つてある。それで高地を開いて珈琲を植え、最低地から約三四割方登つた邊を屋敷として、その附近も切開き、殆ど素人手で、自分の山から取つた材料で家を建てる。そしてその附近に、豚小屋や鶏を飼ふ所を作り穀物を入れる様な納屋も一つ作る。そして家の廻りへは、バナナやパイナップルやマモン(パ、イヤ)等果實の苗木を貰つて来て植えて置く、これらは一年後には一家族では食べ切れず豚にやる程成る様になる。豚も鶏も一年後には家だけではたべ切れない程ふえて来る。

一方、切開いた山には珈琲を植付けると同時に(大概八九月頃)米、豆(フエジョン)玉蜀黍(ミリヨン)等を間作として蒔き付ける。この中、米や豆は家でたべ、玉蜀黍は豚、馬、鶏の餌とする。普通の出来でも十分使用して餘る程出来る。珈琲は植付けてから、四五年目頃から實入がある。儉しくするものは間作だけで十分生活費が得られるのである。中には間作物の賣上げで、土地代の年賦を拂つて居る人さへある。善い働手で四五年、遅い人でも七八年の後には十アルケルの土地と一本一圓以上に見積もられる珈琲を五六千本所有する事が出来る。

兎に角二千圓足らずの資本と健全なる身体とさへあれば、五六年にして二十五町歩の土地を持つ裕福な自作農となり得るのである。

アリアンサの日常 (寫眞は開墾後二年目の畑)

アリアンサに土地を持つて生活して居る人達はどんな日を送つて居るか。
先づ主なる仕事は珈琲畑の手入れ、主として草掻きと間作物の手入れである。

日曜を除いて毎日コーヒー畑へ出て働くのである。朝早く起きて珈琲とパンとで軽くお腹をこしらへて、アルモツサ(朝飯)を持つて出掛ける。そして十時から十一時頃の間山の中



に作つてある小屋でアルモツサを食べる。畑には程よく、マモン(パ、イヤ)やアバカシ(パイナップル)やバナ、等を植えて置き、畑の仕事の徒然を慰める様にしておき、夏季等には、よく水瓜を作つて置き等してあ

る。

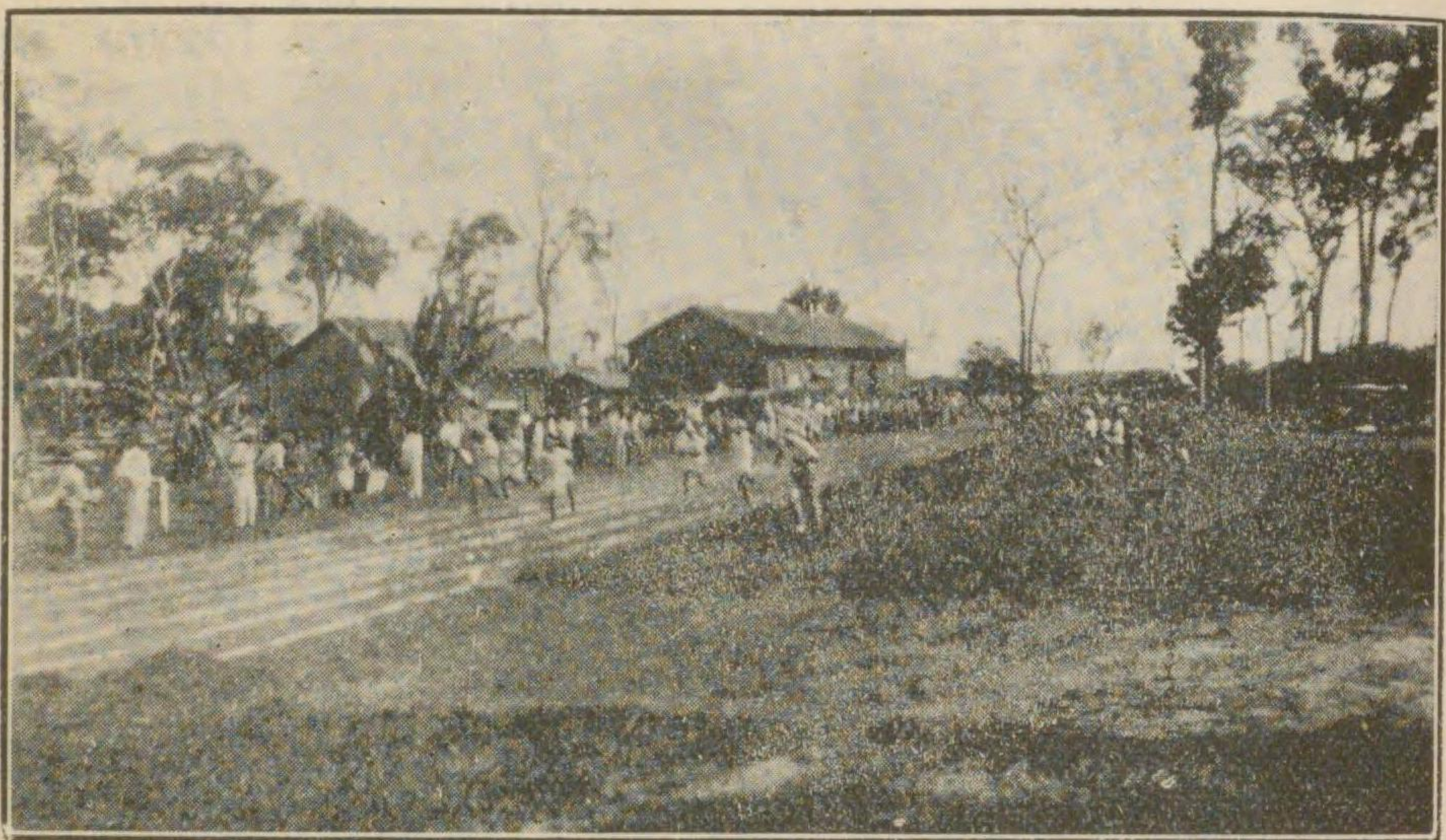
三時頃珈琲とパンとドーナツなどたべ、又一頻働らいて六時頃家へ歸る。七時頃にジャンター(夕飯)をする。一日續いて雨が降る様なことは珍しいのであるが、左様な場合には、家でミリヨン(玉蜀黍)を手廻し機にかけて實を取つたり、屋根板を作つたりする。女の人も天氣が善ければ男の人達と一緒に畑へ出るのであるが、雨の日には家で縫物でもする。

料理も大凡一週間分の獻立を作つて置いて入用のものを日曜日か、閑を見て、アルマゼン(賣店)から買つて來て置く、鶏を潰す日等も豫め定めて置いて毎週の様になべて居る。

鶏は廣い所へ放し飼ひにしてあるので捕へる時には大抵犬に取らせるか、さもなければ鐵砲かピストルで射つて居る。

日曜日には家畜類の世話を朝の中に済まして置いて終日休養するのである。

好きな者は碁を圍み、笛を吹き、馬に乗り、山へ鐵砲を持つて入るなど、皆思ひ／＼に樂しく送つて居る。



異境を忘れる運動會

(寫眞はその運動會の光景)

アリアンサには十二月十三日から翌年正月四日迄居たので都合足掛二年になつた譯である。

クリスマスも、正月も此處で迎えたのであるが、日本の正月とは違つて、汗をふき／＼水瓜を食へながら年を迎えたものだから、馬年であるのに馬齡が加はらず、牛齡が加つてしまつて「モウ／＼何でも分りました」と言つて引上げたのであつた。

然し、アリアンサに居ると、全く日本に居るのと少しも變らぬ様な氣分がするのである。取り分け、クリスマスの日の青年會の運動會には全くブラジルに居るのを忘れて居た位であつた。

第一、第二、第三、とに分れて、優勝旗の爭奪戰

が演ぜられ、各区の物々しい應援團が、日本に於けると同様の賑かな應援振りで、郡青年會邊りの運動會を見て居る様な氣がした。

信州健兒を過分に含んで居るアリアンサは、ノロエステ沿線の聯合青年會陸上競技會にも、常に優勝し、野球に於ては全ブラジルの覇權を握つて居ると云ふ素晴しさである。

私は運動會を見て居てこう思つた「同じ棒高跳をするのならブラジルの空で、亦同じ走幅跳をするのなら南米大陸で爲す方が男らしいものだ」と、そして「少しは宣傳に乗つても善いから信州の青年男女半分位は、一つ團結して南米へ押し渡り

信濃の國は十州に

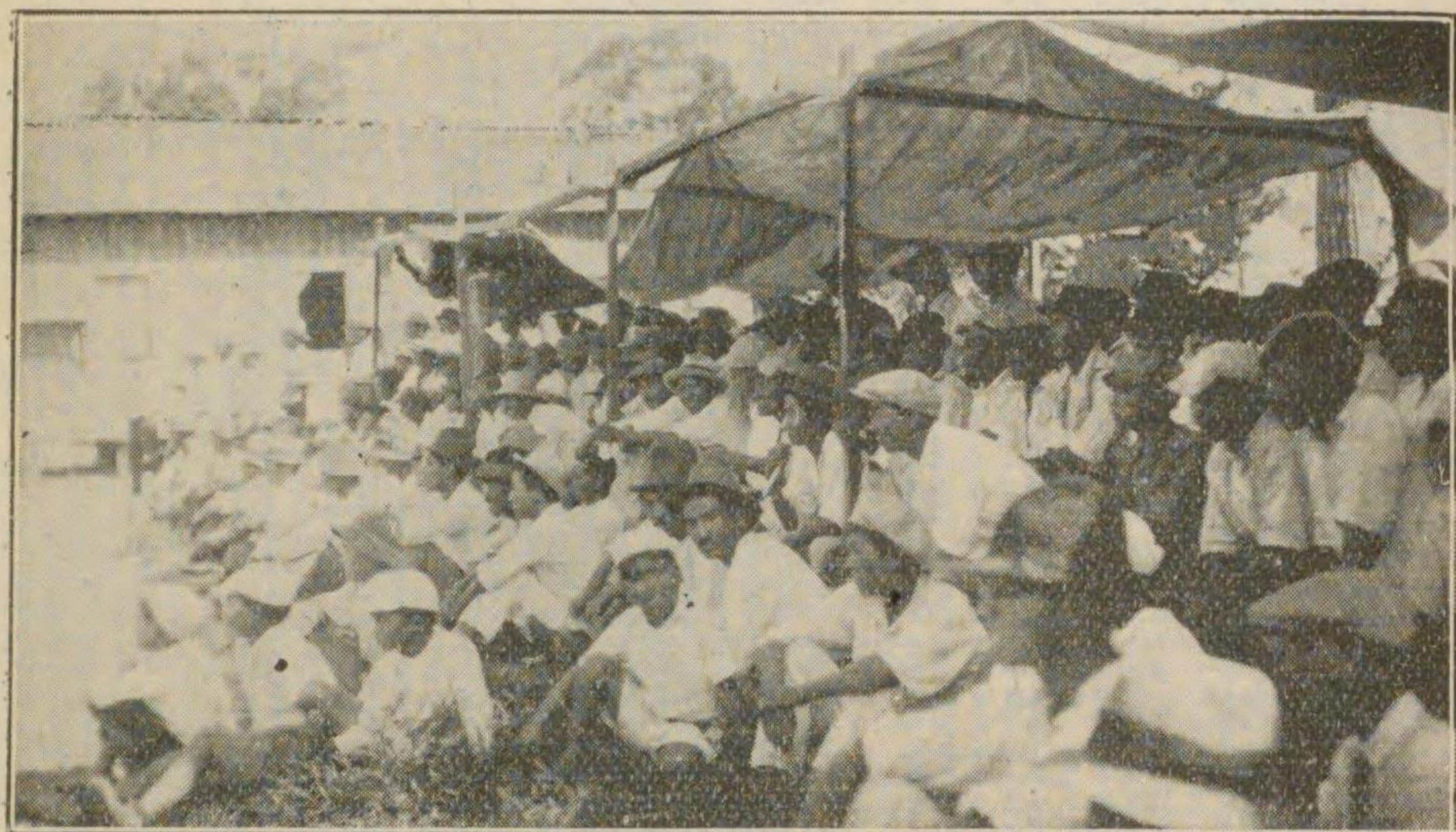
境つらなる國にして

聳ゆる山はいや高く

流るゝ川はいや遠し

でも歌つて見てはどんなものであろうか」と。

その時、忘れてならない事は、信州人であるからには、養蠶道具と糸取り釜とを持つて行くことである。ブラジルを世界第二の蠶糸國にするには蠶の國、信州人の手に待つより外仕方があるまいと思ふ。



アリアンサの變り種 (寫眞は運動會の應援團)

ブラジルへ渡つた人達は南米大陸に蠶を入れ様と云ふのだから、家の系圖から見れば、豊臣秀吉や、山田長政や、間宮林藏や、小笠原貞頼等の様に名を中外に擧ぐ可き人々であるに違ひないと思つて居ると、左様ばかりでもないらしい。

然し、小秀吉や、小長政はないでもない。こつそりアリアンサの變り種を紹介すると仕様。アリアンサには信州人が多いのであるが、元來信州人は智慧が細く廻る賢人が多く、世間離れした名物男と云はれるものが少い。従つてアリアンサの變り種にも信州人は少い。

第一の變り種は、廿才の時單身廿五町歩の原始林

の中へ飛び込んで、悪戦苦闘(殊に土地が低くて草の多い所に入つた爲に)しつゝ六百株の珈琲を植え付けた、信州諏訪の豊田村の笠原忠義君である。當歳正に廿五歳、自から釜の下の火を心配し乍ら、方丈の小屋に立籠つて既に五ケ年、現在、新築の家を作りつゝあるから、一つ信州の「私こそは」と云ふ娘さんを探して嫁に世話したいものである。

次は栃木縣の人で東京で會社の重役をして居たと云ふ遠藤源吉氏、草を掻く手を省く爲に、コーヒー園に夏季南瓜を這はすことを發明して、都人の農業振りを發揮して居る。續いて、新潟縣の人、帝大を出て臺灣總督府の地方課長までした澁谷信吾氏、飛行大尉で南米まで飛んだ北海道の中澤治平氏、兵庫縣の資産家の息子で早大卒業後獨逸に留學までして南米の草を掻く榎並武市氏、牧師の偽善振が嫌になつたとかで、十五の娘を頭に五人の子供と弱い妻を連れて居る前牧師の茂村徳太郎氏、工學士で鳥羽造船所の技師長までした武田三三氏、之も同じく工學士で新潟水電の技師であつた木村貫一郎氏、從兄弟二人で一家を持つて營々として働く平島及大久保兩青年、最近一時に日本と、ブラジルとで、同時に嫁が決つて婿一人に嫁二人の果報者の與謝野詩人の甥と云はれる與謝野青年。

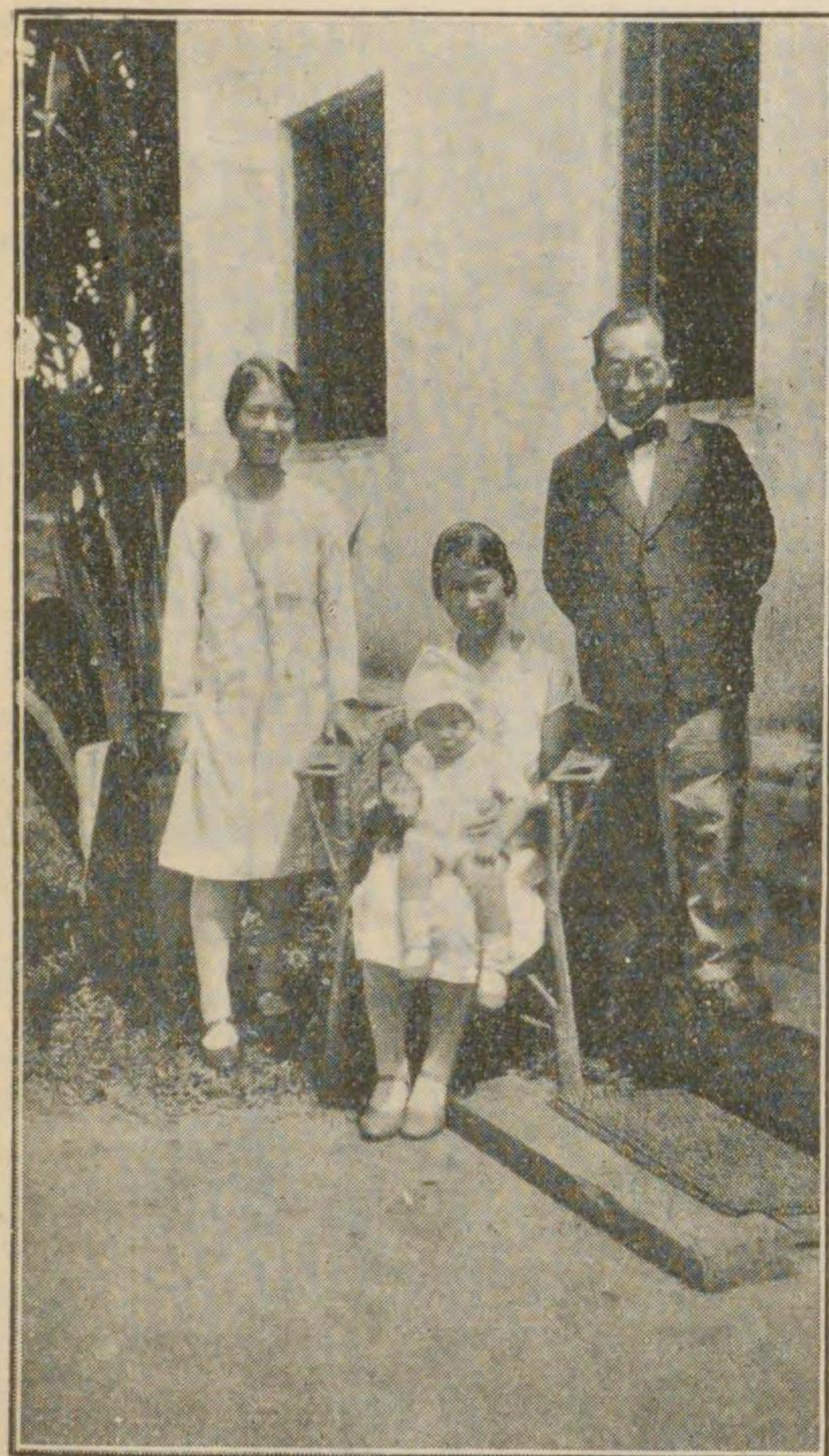
この邊で後は内證々々。

珍らしい病氣

(寫眞は勝田醫師とその家族)

ブラジルの田舎へ入つて、農業に従事する人達の一番恐れることは病氣である。實際日本と比べて、甚しい不健康地ではないが、未開地には確に病が多い。そして、又氣氣や食物が日本のそれと變化があることも、病氣にかゝり易い原因にもなつて居る。

アリアンサには信州諏訪出身の勝田正道氏が居て、毎週二回づゝ移住地を順に廻つて居る。私は同氏の所に厄介になつて居て、その活動振りを見たのであるが、實に涙ぐましい程であつた。



アリアンサに於ける病氣の主なるものは、アミーバ赤痢(日本から來ると十中八九まで罹るが軽い。しかし慢性になると厄介である)、マラリヤ熱(之が爲死ぬ様なことはない)、眼病(四

五十%)、腸チブス等である。

又、ブラジル特有の珍しい病氣を挙げると、

フェリダ・ブラボーブラボーの一種に刺された跡が、大きくなつて梅毒の原虫と同じもの爲に、梅毒と同じ症状を呈し、タルタローエメテコの注射二十回以上百回位しなければ治らぬ膿疱疹のうぼうしんに土まけと稱し、日本から来たもの、中中四五までは罹る。然しヨードチンキを塗布して置けば治る。

ビシヨ・デ・ペイペイ俗に蚤ビシヨと稱し、丁度蚤の如きものが足の爪のまわり等に喰入つて産卵して化膿せしめる。之は掘出して跡へヨードチンキを塗布すれば善い。

ペルネペルネ俗に毛ビシヨ又は一匹ビシヨと稱し、小さな蛇の一種が、人体の不潔な所に卵を産み入れ、それが孵化して人体にて蛆が育つもので、二三十分まで大きくなる。これも切開して蛆を出しさえすれば善い一四四頁参照。

ビシエーラビシエーラ之はペルネに似て小さな金蠅で人体、主として耳や鼻に多数の卵を生み付けると三四時間後に蛆となり、小兒を死に到らしめる事がある。之は發見次第エーテルで蛆を殺す。他にギラシユードと稱する血を吸ふ蠅や、毒蜘蛛もあるが毒蛇同様(八一頁参照)少く且治療法も研究されて居る。

青年と學究心

(寫眞はアリアンサ)

ブラジル在留邦人間の最も重大なる問題は、教育と衛生とである。

恐らく新しく開く耕地へ入れば、學校は無きものと思はねばならない。従つて、日本人が多くなれば協力して學校を建てる。學校と云ふても二三十人位の生徒を收容するのなら小屋でも事足りる。次いで、醫者なり、藥劑士なりを置く事に努める。

この二つの不足はブラジルへ渡つた邦人の誰もが物足ぬ思ひもし、時には失望、落膽せしめる現實の悲哀でもある。——なる程、それは移民の人達にも、幾分の考へ所の悪い所があるかも知れない。大體南米に骨を埋める決心なら、子供や孫をブラジル



入にする決心がある可きである。又衛生は各戸、各自が爲す可きものであるのに、不衛生極まる生活を乍ら醫者がないと悲しんで居ると云ふかもしれない。——がしかし、人間の二大欲望たる自己保存と種族保存とは如何なる情態に於ても、附いて廻るものであり、満足され得ないものではある。

この點に於て、アリアンサは恵まれて居る。立派な小學校もあり、醫院もある。そして又、青年の爲には、日曜學園が出来て居て、木村、武田兩工學士や、岩手高等農林出の高橋善導氏等が先に立つて青年教育をして居る。

又、信州諏訪出身の小川林君を會長とする青年會では、アリアンサを訪ふ名士をとらへては講演會を随時開いて居る。

私も青年會の爲にも、アリアンサ自治會の爲にも數ヶ所で講演をした。

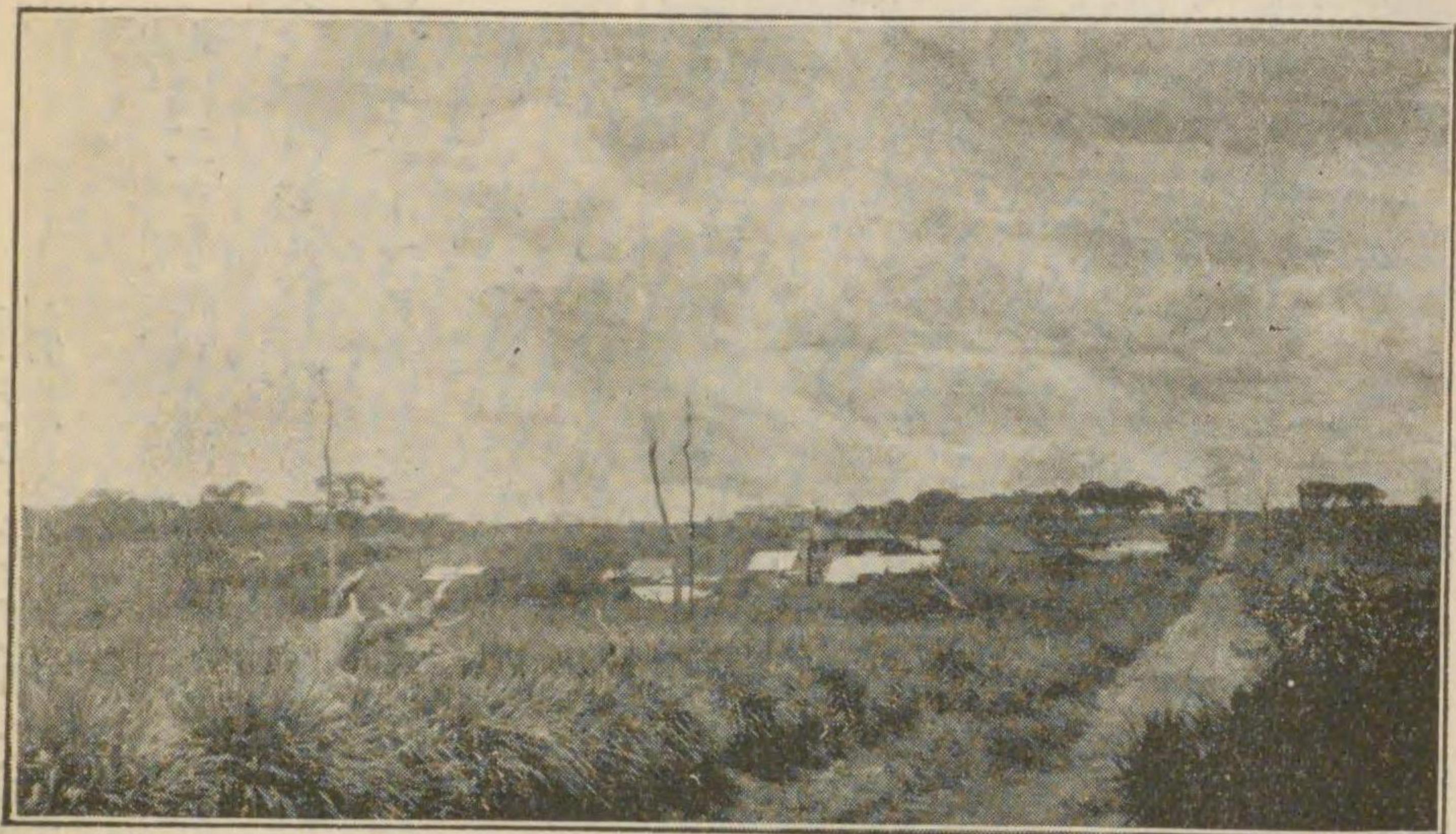
第一アリアンサの第三區に於ては大雨の後で自動車か思ふ様に動かなかつた爲に夜八時開會のものが十一時になつて、真夜中一時半頃まで講演を續けた事があつた。それ程、ブラジルの山奥でも日本青年の學究心は旺盛なものである。

アリアンサの現況

(寫眞の中央部は小學校、醫局、製材及製米所、旅宿等)

アリアンサは第一移住地より第三まで分れて居る。總面積七千二百アルケルス、總入植者數三百五十四戸一千六百六十三人、その中自作農百八十五戸、小作農百五十一戸、其他十八戸である。又總開拓面積は七百九十五アルケル、總珈琲樹數百二十四萬二千八百餘本に及んで居る。(一九二九年末)

アリアンサは元信濃、鳥取、富山の三海外協會に依つて設立經營されて來たもので、所有面積の割合は信濃四千七百、鳥取千二百、富山千二百アルケルスである。尙千二百アルケルスを所有する熊本海外協會設立の移住地も、第一移住地より僅か離れた所にある。之等は皆最近移住組合に肩代りしたのである。



權威者矢崎節夫氏

(寫眞は矢崎氏一家、夫人はブラジル人)

私は二ケ年に亘る滯伯中に、邦人の主なる人々を問ひて、或は語り或は論じた。そうした結果、ブラジルに於ける邦人農場經營の第一人者として、サンパウロ州の模範農場たる海外興業のアニューマス農場を育てた矢崎節夫氏を挙げたいと思ふ。

信州人が持つ豊かな熱情と、強き理性とを以て高き理想に邁進して行く矢崎氏は、丁度同じ型の人であつた東京府立第五中學校長故伊藤長七氏とは諏訪中學の同窓生であつたと聞く。

今、ブラジル拓殖組合に主事としてチエテに、アリアンサに、バストスに其の抱負經綸を傾倒せんとして居る。之移住組合が持つ誇でなくて何であらう。



開拓の戦士たりし

我が學友は逝きて空し



噫！亡き我が學友
吉川 武君

（寫眞は君有リし日の
吉川氏一族—武君は—
後列三人目）

小學校の同級生に吉川武君と云ふのがあつた。單
に同級生であると云ふだけでなく、クラスの野球チ
ームで私が投手で武君が捕手であつた。こんな事が
只同級生だと云ふ以上に親しみを持たして居た。

丁度私が中學校を卒へて受験生時代に入つた頃、
武君は新妻を迎へ、弟を連れて、雄々しくも南米ブ
ラジルの地を目指して出發した。それは確か大正八
年の五月のことであつた。私は神戸に居てその報を
得、長崎の宿に船を待つ武君に激勵の手紙を送つた
ものであつた。

ブラジルへ着きモジヤナ線の支線に沿ふピラコス

チーナ耕地に入つた武君からは、その後度々便りがあつた。

その後大正十二年に世界一周の途に登つた私は、その翌年、紐育から道を廻して南米に出様かとも思つて、武君の所へ手紙を出したのであつたが、當時ブラジルは大統領選挙後革命が勃発して居り、又その頃武君はモジヤナ線からノロエステ線に移つた間際であつたと見えて、何等返事がなかつた爲、私は歐羅巴を廻つて歸つてしまつた。(しかしその時の手紙は今も亡き武君の手文函の中に大切に保存されて居るのを見た。)

南米旅行の志も漸く叶つて、十余年前に別れた我が學友武君に合ふのを唯一の楽しみにして、ブラジルに來た。そして、會ふ人毎に武君の所在を尋ねたものであつた。適々アリアンサに成功者の一人として在るとの事で、雀躍りしつゝ訪ねたのであるが、それは令弟利君であつた。噫何ぞ、我學友吉川武君は已に昭和三年三月五日新天地開拓の第一線に立つ拓人の犠牲者として、淋しき黄泉の旅路に立つて、呼べど答へぬ苔むす墓標となつて居たのであつた。

私は或る日、唯一人我が學友吉川武君が最後の日まで闘つた新天地、そして永遠に魂の憩ふ地と卜した原始林の中の墓場を弔ふて、雨に風に朽ち行く墓標に手を掛け、生ける君に物言ふ如くに語れば、涙は頬を傳ふて留度なく南米大陸の地を潤すのであつた。

アリアンサの模範

吉川 徳彌氏

(寫眞は珈琲の間作
稲の手入)

亡き學友吉川武君が、數年間の経験から、ブラジルに於ける珈琲園經營は、家族の手で十分足りる程度にして、餘作を努めてすれば、非常に有利なることを知り、信州伊那、座光寺村にある兩親及弟妹等に一家を擧げてブラジルに移住する事を勧めたのであつた。

當時已に六十才に達して居た父徳彌氏も、兼ねてより、現下の日本の急務は海外發展にあるとの信念を持つて居たので、全財産を悉く片付け、ブラジルを永住の地とし、骨を南米の未だ名のなき山の麓に埋める決心をして、一家を擧げて渡航したのであつた。

そして、一先ずノロエステ線のウニオン植民地に



コロノとして入り、ブラジルに於ける耕作法、習慣、言語、禮儀等、一通り心得べき事を習得して後、アリアンサの第一移住地に三十アルケルス(約七十五町歩)の地を買ふ可く契約して入つたのである。

一家族中老夫婦二人と、子供二人を除いても尙男子三人、女手二人を有する大家族で、而も皆相當にブラジル農業に經驗があるので、非常な成績を擧げて居るのである。山伐りも、山焼きも皆家の者だけで済ましてしまつた程である。今年は三農年日である。今返の開墾の大略は

第一年

山伐り及開墾

屋敷の設定

珈琲植付

米(粳)取高(六十疋俵)

第二年

山伐り及開墾

珈琲植付

米(粳)取高

四アルケルス

三アルケルス

七千五百本

百七十五俵

四アルケルス

七千五百本

三百五十俵

等であつた。他に現在所有する家畜は、馬二、豚三〇、鶏約百、家鴨十等である。而して、土地を規定通りに支拂ひ、又アルマゼン(賣店)に少しも借りのないのは全アリアンサを通じてこの吉川徳彌氏あるのみと言はれて居る。同氏は現在第一自治アリアンサ會の會長でもある。

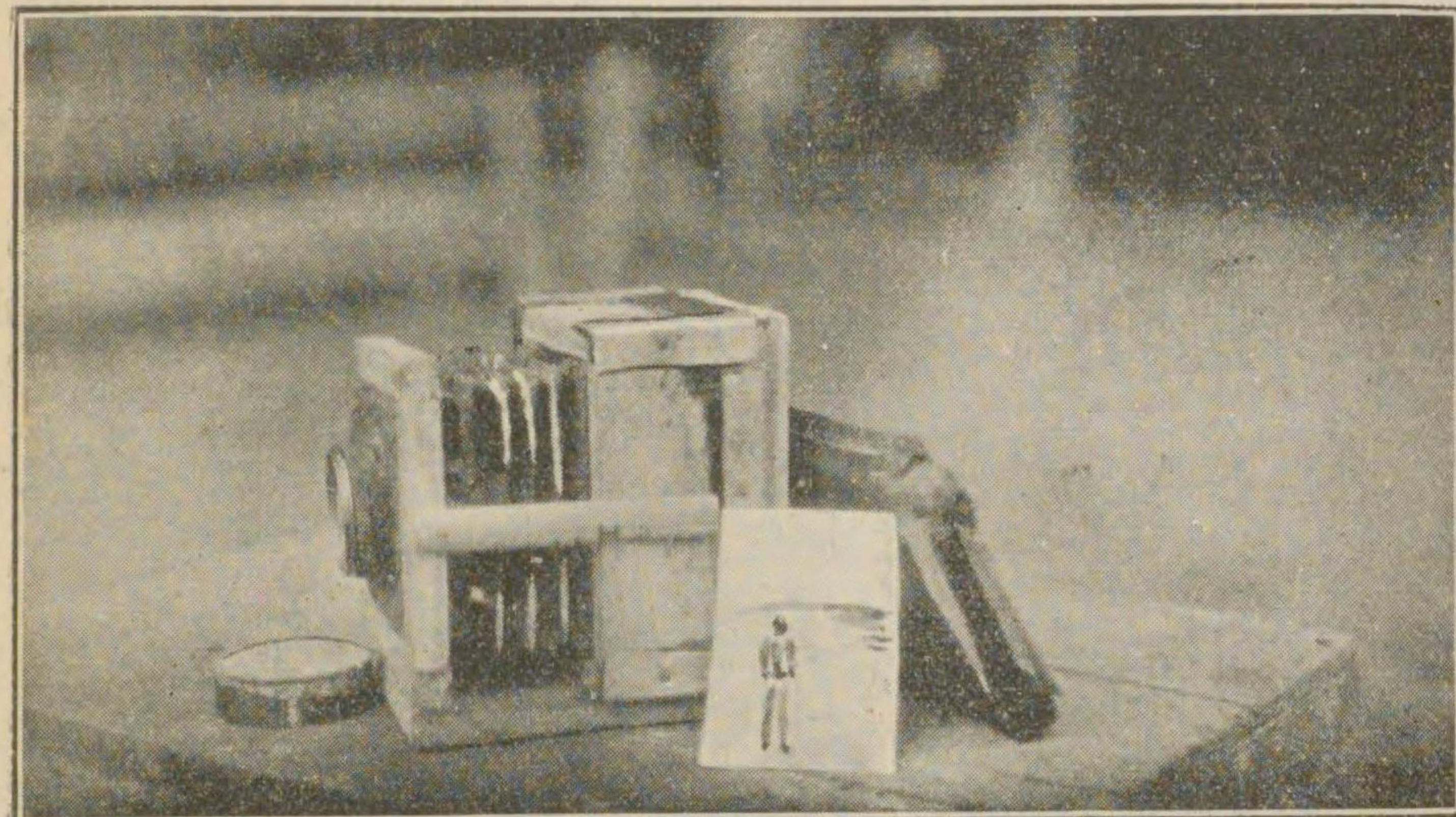
自給自足

(寫眞は手製の寫眞機)

大体ブラジルに於ける農業は、大都市の郊外の野菜栽培以外は、全く原始的な、粗放的農法に依るのであつて、日本に於ける如く、寸尺の土地を云々して居る集約的農法とは全然異つて居るのである。

従つて、農村の人口は粗、交通は不便、工業製品は云ふ迄もなく、一度商人の手に渡つて賣られるものは、何でも想像以上に高いのであつて、農家の經濟は農業生産品の安い現今の如き時には自給自足の程度如何に依つて、餘裕あるか窮迫するかを決して居るのである。

吉川徳彌氏一家が、アリアンサに於て唯一の成績を擧げ得たのも、實にこの自給自足が遺憾なく發揮



されて居るが爲である。

例へばブラジルに於ける常食品の米、豆、豚、鶏、野菜等は自から得る他、味噌も、醤油も砂糖も、菓子も、煙草も、石鹼も皆手製のもので満足し、買ふものとは鹽と石油を除いては年に一度か二度買ふ着物の布地と靴位のものであると云ふ。殊に味噌や醤油の如きは、注文を取つて作つて賣出す程であると云ふ。これなるが爲に、穫入れた米や豆の自家使用外の物は皆賣つて餘裕ある金として、土地代の拂込みに廻し得るのである。

實際、アリアンサ在住者の經濟的方面を窺ふならば、日本から有り餘る現金を持つて來たものは別として、自給自足の出來得る極く少數の者を除いては、相當に苦しい状態にあるのであつて、それが原因して、海外協會から移住組合に肩代りをし、一先づ窺狀を脱さねばならぬ結果になつて來たのである。

これは單に一アリアンサだけの事ではなくて、自給自足を爲し得ない邦人農家は全部、今日のブラジル財界不況の大打撃を受けて四苦八苦の情態にあるのである。

寫眞は吉川氏の令息が双眼鏡のレンズを利用して作つた寫眞機と、それで撮影して見事に出來た寫眞とである。斯くの如く娯樂器具まで自給自足をして居るものである。

農場の正月

(寫眞は元日の朝撮つた)
(午歳に因む牧場の馬)

私の幼い無邪氣な頃をも知つて居る吉川老夫妻は

「死んだ伴が歸つて來た程嬉しい」と云ひ乍ら、

眞實こめて心から歡待して呉れるのであつた。私も

二三日は厄介になつて、變つて行きつゝある日本の

話や、信州の故郷の事等話して上げる心算で居たの

であるが、留められるまゝ、三日五日七日と延びて

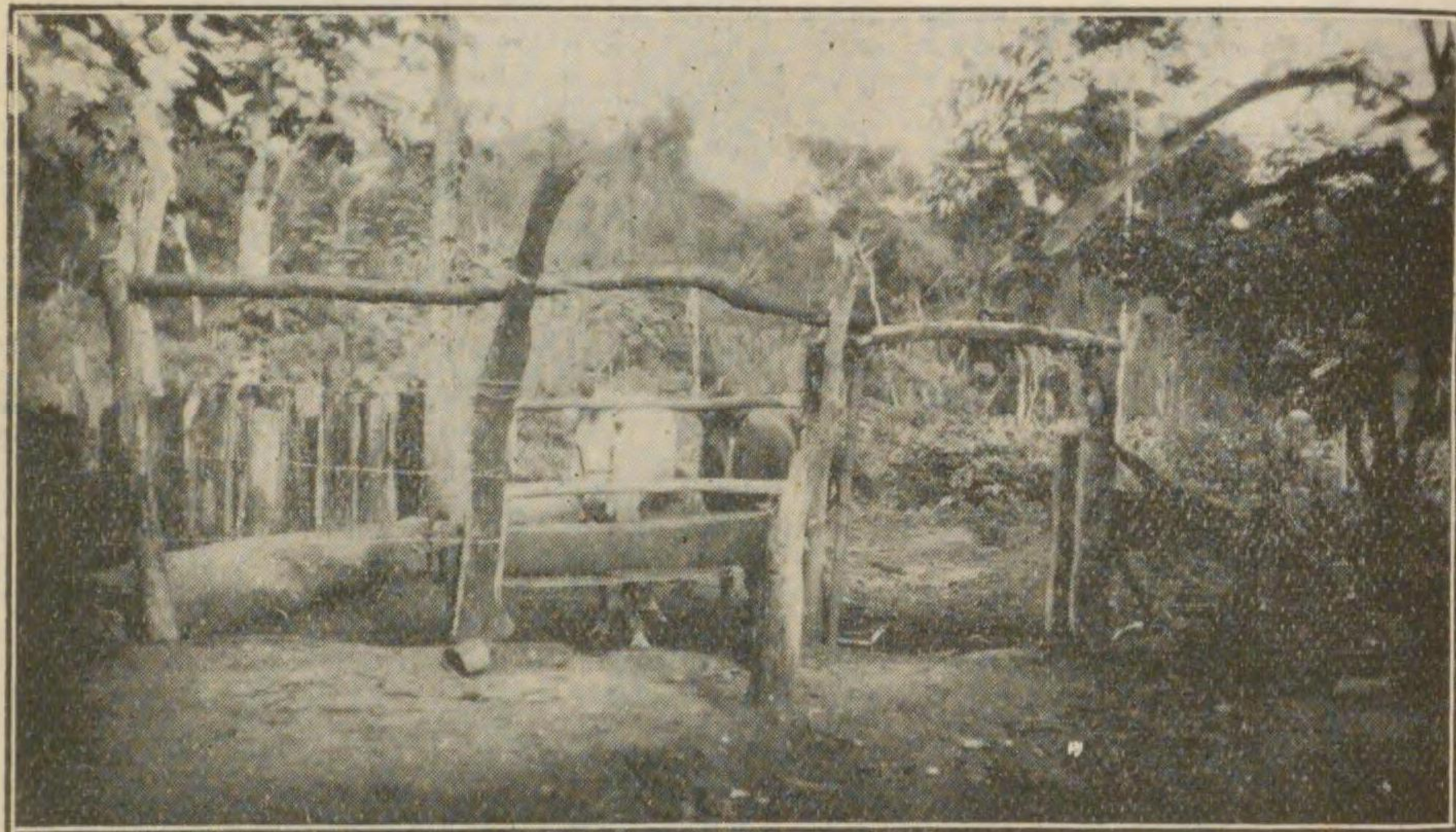
到頭正月を迎える事になつてしまつた。

正月と云ふても、ブラジルでは夏の眞盛りで、汗

だく／＼で西瓜でも嚙らうかと云ふのであるから、

砂糖の代りに鹽を入れた、軍隊の御汁粉みたいなも

ので、少々見當の違つたものではある。



それでも、尊い高價な數の子や、田作や、魚の干物等遠く日本から來たものを取揃へて、新春を迎へる祝をするのである。陸稻の餅で、粟おこしを柔かにした様なものであるが、元旦の餅と思へばことの外有難くも思はれる。

又、元日の晝には、組合の集會所に皆集つて、持寄つた肴でビンガを傾け、都々逸も出れば浪花節も出、淨瑠璃の一句切も出ると云ふ賑さである。

勿論山にはジージー蟬も、カナ／＼鳴く日暮し蟬も合唱して居て、元日とても遠慮はしない又仕事が出来て鐵砲を持出したブラジル人のカマラダ(日雇人)が獲物追かけて、彼方の山でも此方の谷でも時折ズドン／＼と響かして居る。

若い人達が遠く離れた家々の人を呼び集めて、歌かるたを始めて、聲高らかに讀んで居るのを聞けば、山に蟬の音はあるにしても、正月らしい気分にもなる。

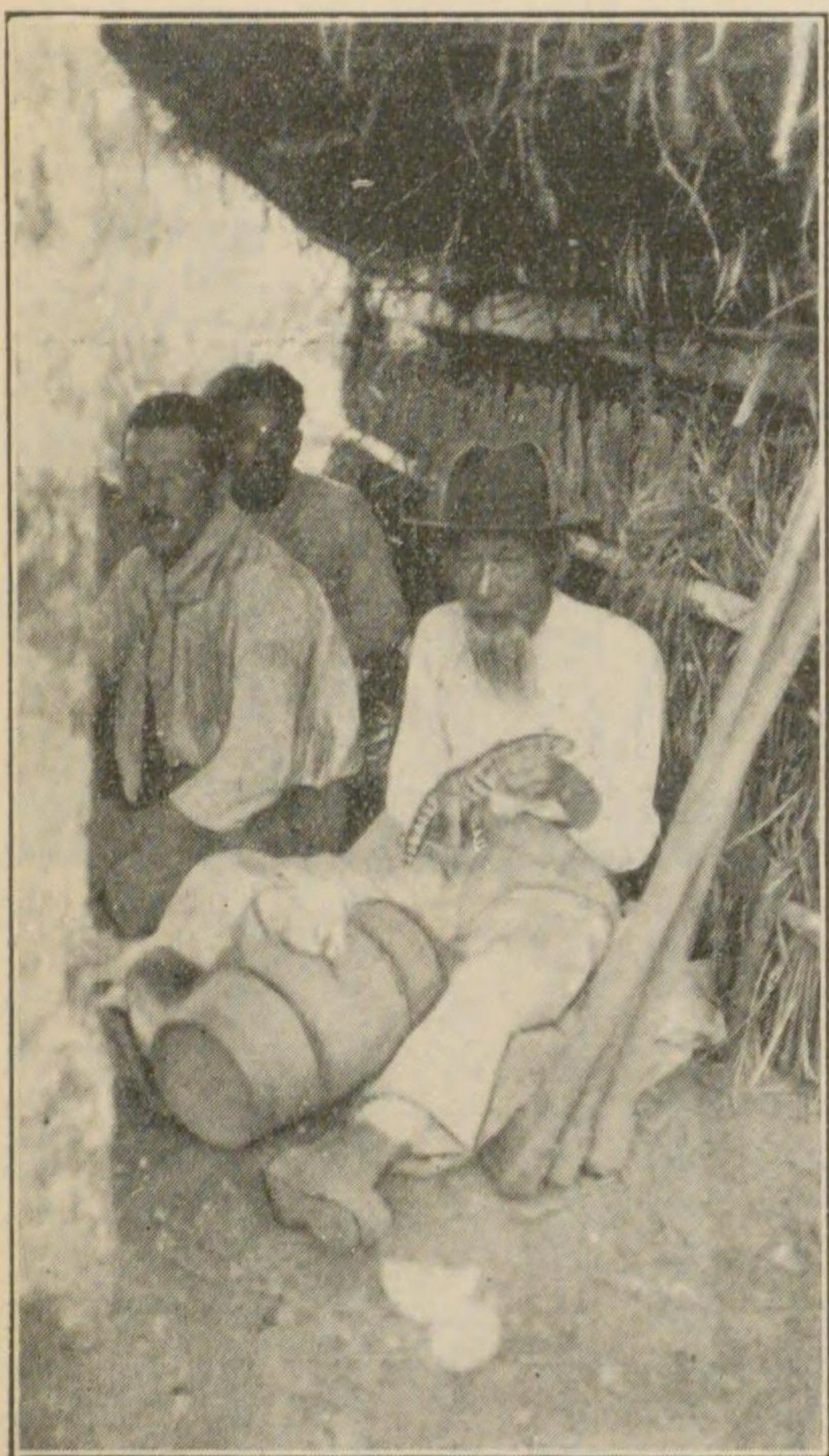
考へれば私も外國で正月を迎えるのがこれで三度目になる。一度は中華民國で、一度は米國で、今度はブラジルで迎えたのである。寒い青島の正月、スチームで暖かい紐育の正月、今度は暑いアリアンサの正月ではあつた。

ラガールト

(寫眞は私等が食べた蜥蜴を持つ吉川老人)
その前の丸い樽は畑へ持つて行く水入)

吉川老夫妻は、努めて何かと珍らしい物を見せても呉れば、食べさせても呉れ、又話しても呉れた。

私が訪れると云ふ報を得てから、唯二つしかならなかつたシャポテンの實を、子供に取られぬ様に、小鳥に食はれぬ様に大事に見守つて置いたのだと言ふて、私に御馳走して呉れた。生



れて始めてのシャポテンの實、上等の葛湯を氷で冷したかの様な味で、二度否一生味はれぬ所のものであるかもしれない。又、時機が早すぎるが、若しやと探し廻して見付けて呉れたゴヤバの實、それは柿と、無

花果と、梨とを一綺にした様な色と味で、一生の思出になるものであろう。

それより、何より、一生一代の珍味は、ラガールトと呼ぶ蜥蜴の一種を味噌煮にして呉れたその美味さ、丁度、鮫と鶏とを一緒にした様で、最う一つの確に云ふなら、河豚を味噌煮にした様な味で、何とも云はれぬ美味さである。出来るならラガールトを飼育して、全世界へ賣出したいものだと思つた程である。

他の珍らしいものでは、雨が降り出し想になると、必ず鳴き出す、狸々の群のガウ〜と云ふ呻き聲、聞くだけでさえ首筋の邊りが涼しくなるのを覺えた。次に尾に丁度セルロイド製の幾段にもなつた鈴の様なものを付け、怒る度にジャラ〜と鳴らすカスカベロ(八二頁参照)と呼ぶ蛇、一抱へもある大木であり乍ら、中が大根の如くで、日本人が大根の木とか、豆腐の木と呼んで居るジャダカチャと(四〇〇頁参照)稱する珍木。大木の樹からブドウ酒に似たものが出て、實際土人の好飲料とされて居ると云ふデヤボチカバと稱する木。

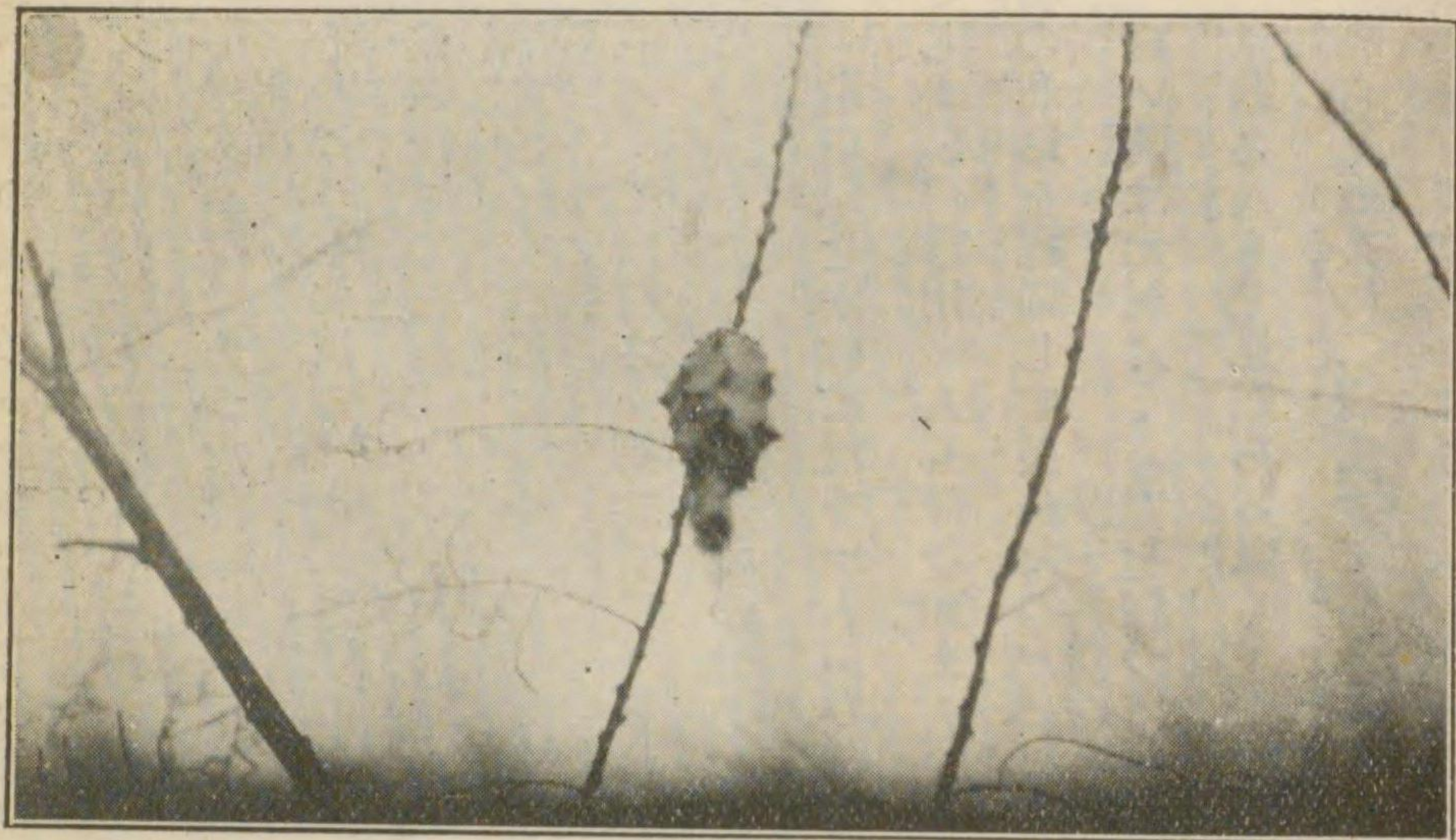
他にも、生薑や里芋に花が咲いたり、二年目の茄子の木や、赤唐辛子の木に實がなつたり、日本から持つて來た丸い南瓜が二三代經つと、瓢箪の様になつてしまふと云ふ珍らしい話等であつた。

別れの日

(寫眞はブラジルの
原で見た袋虫)

吉川老人が毎日の様に案内して呉れるので、二人で馬に乗つて、各方面の農場を見たり、人を訪ねたりした。又、泊りがけで、熊本海外協會の移住地の方までも見に行つた。

赤い夕陽が、日本のそれより尙一層眞赤に焼焦げて、大陸の原始林の中に沈んで行くのを、丘の上馬上遙かに眺める時の美しくさ、雄大さは、勝ち誇つたインデヤアの酋長が、大陸に沈み行く夕陽に見とれて、深い溜息を吐いて居る映畫の一場面を思ひ出さしめた。——それと同時に何十年と住みなれた日本を去つて、老の身を以てこの大陸に渡り、聽てあの夕陽の入る森の中、うら若くして父より先に悲



しい永遠の眠についた學友武君の墓のある傍に安らげき眠りに入るであらう所の、前に馬を進めて居る吉川老人の雄々しき拓人としての最後の日を思ふ時、人々れず手綱持つ手の甲で涙をそつと拭ふのであつた。

そうこうして居る間に二週間の日は過ぎて、いよいよ吉川さんにも、アリアンサにも別れる日が来た。

用意された白馬に乗つて、

「それでは皆さん御達者に」と云ふ言葉の後の濁る時、吉川老夫妻は鞍に手を置いて、無言のまゝはらくと涙を落すのであつた。

「道中氣を付けてなう」と云ひ終るか、終らぬ中に、老母は流れる涙に咽せて家へ飛び込んでしまひ、吉川老人も手を顫えく高く上げて呉れた。それは無言のまゝであつたにしても、私の前途を祝福して呉れたのだ。

白い駒は元氣よく鬣を振つて歩み出した。

見送る人も、見送らる私も、たゞ涙と涙との別れであつたのだ。

恐らく永久に二度生きて會ふ日のないであろう吉川老夫婦、幸あれ。又、學友吉川武君の永眠の地アリアンサに住む人々よ幸あれ。と私は馬上で祈つたのであつた。

原始林を開く (寫眞はアリアンサ原始林の大木)

アリアンサ一帯は云ふまでもなく原始林であつた。北パラナ等で見受ける程の大木も、繁もないが、ノロエステ沿線中では流石に一番肥沃の地と思はしめる大森林が今もある。

原始林の伐採は多くブラジル人の手に依つてなされるのであるが、中には自分の手でした人もある。非常に愉快な男らしい仕事であるが、この爲に犠牲になつた人も、アリアンサに一人



二人あつたと聞いて居る。寫眞の様な原始林が僅か二三年の間に見渡す限り伐り開かれて、立派な畑が出来、美しい家が建られアゼンダらしくなるその心地快さは拓人のみが味はひ得る特權である。

ブラジル漫談 (一)

恐ろしい勇敢な乞食

乞食とは讀んで字の通り憫みを乞ふものだと思ふて居たが、ブラジルの田舎を旅行中屢々免許状を見せて、恐ろしい元氣の善い乞食に金を要求されたことがあつた。彼等は乞食をする権利を獲得して居るのである。

窓首

ブラジルへ旅行して一番最初に氣の附く一つの事は、何處の窓からも善く女の首が出て居る事である。と云つて切落した首ではない

生きて居て邊りを見廻して居る。

之は、婦人が家庭の人ではあるが、餘り仕事をしない（寧ろ仕事がない）爲なのであらう。

戀愛苦業

之も善く見る情景であるが、夕方から夜にかけて、窓の下へ立つて、窓へ出て居る若い娘と好く話して居る青年を見受ける。

聞けば三四ヶ月はかうして窓下に立つて交際し、御意に召すと、家の中へ入れられる様になるのだと云ふ。

黄色の花禁物

ブラジル人は黄色の花を贈られるのを大變に嫌ふ。黄色は『ヤケ』

(自暴)を意味するのだと云ふ。

十字の握手

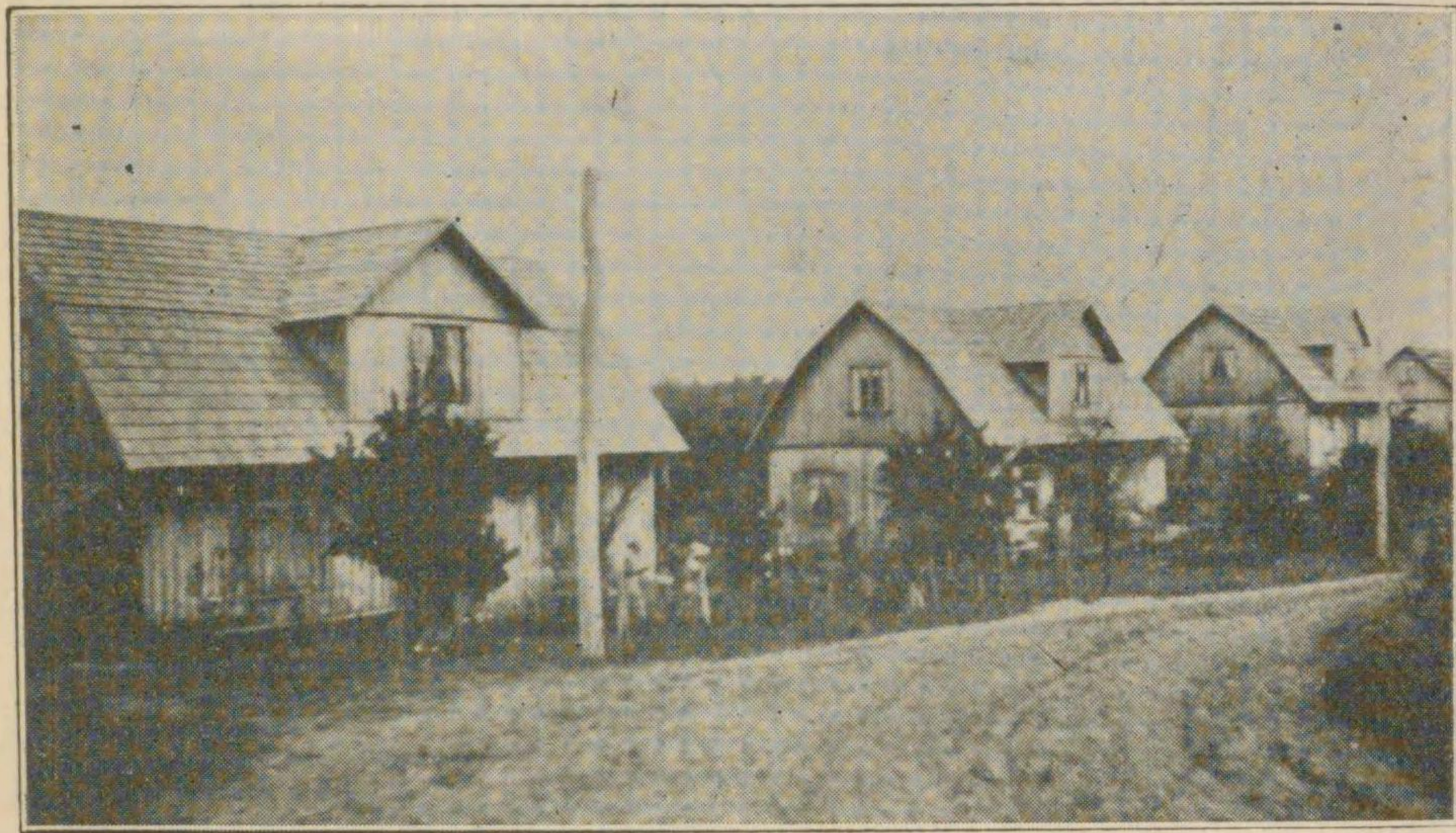
人の大勢居る時等に、握手を交す時、四人の人が同時にする場合に、十字に交叉する様な事がないでもない。ブラジル人はこれを非常に忌み嫌ふ。

ベツトに帽子

これもブラジルでは好く見るところであるが、客の帽子を一寸ベツトの上へ置くことがある(特に一間借の獨身者に)。ブラジル人はこれを非常に嫌ふ。殊に内伏にしたのは飛上る程嫌ふ。

X X X X

レトニヤ共産村



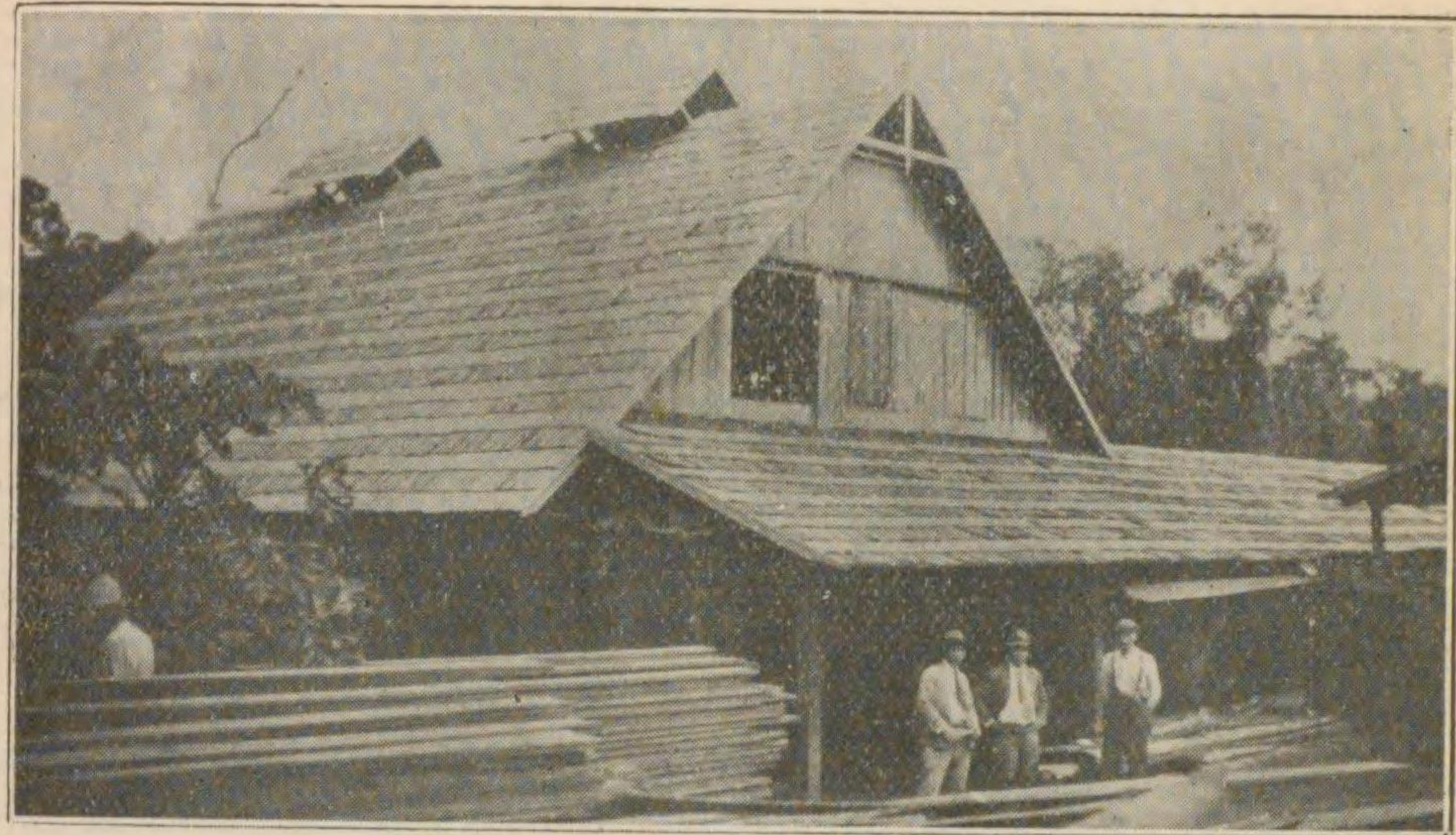
レトニヤ共産村(一)(寫眞は共産村の住宅)

ブラジルのサンパウロ州の名所の一にレトニヤ共産村と云ふのがある。

此處は診らしいものを求める旅行者が、必ず杖を入れる所である。

レトニヤ共産村はソロカバナ線クワタ驛より三十六軒、移住組合のバストン移住地より三十八軒の所にある。可成不便な山奥で、原始林の中を通ずる道を自動車で約二時間程を要する所である。

このレトニヤ植民地は一九二三年にレトニヤ國で迫害を受けた約五百家族のレトニヤ人が、團体的に移住して、この新天地を安住の地と定め、自由の村を建設したものである。



レトニヤ共産村(二) (寫眞は共産村の製材所)

レトニヤ人の植民地は總面積二千三百アルケル(約五千八百二十町步)であつて、これがバルパ及バルマニ植民地に分れて居る。

バルパ植民地には約四百五十家族が入植して、各々三アルケル乃至八アルケルの地を所有して、他國の植民地と何等變りなく、自給自足の農業を営むで居るのである。

共産村と云はれるのはバルマ植民地の方であつて約二百アルケル(五百町步)程の所に五十家族約三百人の人々が入り、共産的生活を爲して居るのである。即ち私有財産がなく、數名の選ばれたものが、共有財産を管理し、労働の指揮をして居るのである。

レトニヤ共産村(三) (寫眞は共産村の職工住宅)

共産村の人達は適者が適業に就き、一定の労働をなし、共同の收支をして居るのであつて、農作、製材、精米、製粉、發電、土木、建築、織物、裁縫、製靴等の諸業に分れて従事して居るのである。

村の中央部には共同食堂、娛樂場、裁縫場、製靴所、製材所、精米場等の諸建物があつて、一つの街を爲し、住宅等も二階作りの立派なものである。

教育は完全な設備を爲した學校もありレトニア語に依つて爲されて居る。

村から他へ賣り出されるものは材木、繭、棉、鶏玉蜀黍等が主なるもので、前に記した通り自給自足を基準として珈琲等は必要以上作つて居ない。



共産村は永續するや

私は共産主義にも共同的倫理的な或る特長を有して居ることを認めもするが、果して欲望を際限なく持合せる人間に、何の程度までが生活化されるかと興味深く見て居るものである。現にレトニヤ共産村に於ても、宗教的な團結力をも過分に含むんで居る今日の村の人々には平和な、楽しい村であるかも知れないが、若い萌え立つ心を持つて居る男女を満足させるには、不十分であると思えて、村の青年子女は都會に憧れて出てしまふと云ふ事である。従つてこの共産村の第二世代が果して今日の如くに持續されるか疑問である。こうした疑問は、ベルギーを訪れてゲントの新しい村の話聞いた時にも、九州日向の新しい村を訪れた時にも均しく危ぶまれた點であつて、同時に露西亞の共産主義の將來にも残されて居る暗い影であると思ふ。

マルクスが曰ふた如く、資本主義が最極頂點に達した時は、確かに共存共榮の倫理的觀念の欠乏した時であるから、それから先は個人主義的資本主義の行場は共同主義的共産主義の他に無いであらうと云ふ理論には、理論としては必然性があるかも知れないが、私は人間本來の性質を共同主義的共存性であるとは信じられない。否個人主義的利己性と比較して果して何れがより自然性であるかとの議論にも先ず個人主義を擧げねばならぬ。

螢飛ぶ北パラナの

野村農場を見る

州境を越えて

(寫眞はパラナ州の税關吏と巡警)

丁度地球の上では日本の眞裏に當るブラジルでは、氣候は日本と全く反對で、日本に冬が訪れる時、夏を迎え様として居るのである。そして、夏季は即ち雨季で、連日雨が續くのである。「雨季になつたらとても田舎の旅行は出来ませんよ」

と河西領事は勧めるし、京都の南禪寺の別荘で、關西實業界の重鎮、野村徳七氏に會つた時

「是非ブラジルの農場を見て御批評を願ひ度い」
との話もあつたので、十一月の末遠く北パラナの野村農場を先づ雨期に入らぬ前に見て、順にノロエステ、及モジヤナ方面をも見る事にした。



ルス驛の近くにあるソロカバナ線の發車驛から夜行に乗つて、翌日正午頃には州境近くのオリンニヨス驛に着く、こゝで汽車を捨て、自動車雇ふてカムバラ一町に向ふ。走ることに三十分にして、サンパウロ州とパラナ州の境を爲して居るパラナネマ河に出る。この河の鐵橋の所に税關と警察とがあつて、通過するものを一々調べて居る。殊に、最近には珈琲の密移入が多いので嚴重に取調べるのだと云ふ。

これはブラジルの珈琲調節局が各州にも珈琲の輸出額を規定してあるので、サンパウロ州の生産は規定額の二倍以上にも達して居るので、生産額が輸出規定額に達してないパラナ州へ移さねば、輸出が出来ないのである。そこで、サンパウロ郡からパラナ州へ密移入もやれば、税關破りまでして、生産過剰の珈琲を金にすると云ふのである。

同じ國內での之騒ぎは、一寸日本人には變に思はれるが、それが大國の聯邦制度が如からしめる點であるから仕方がない。

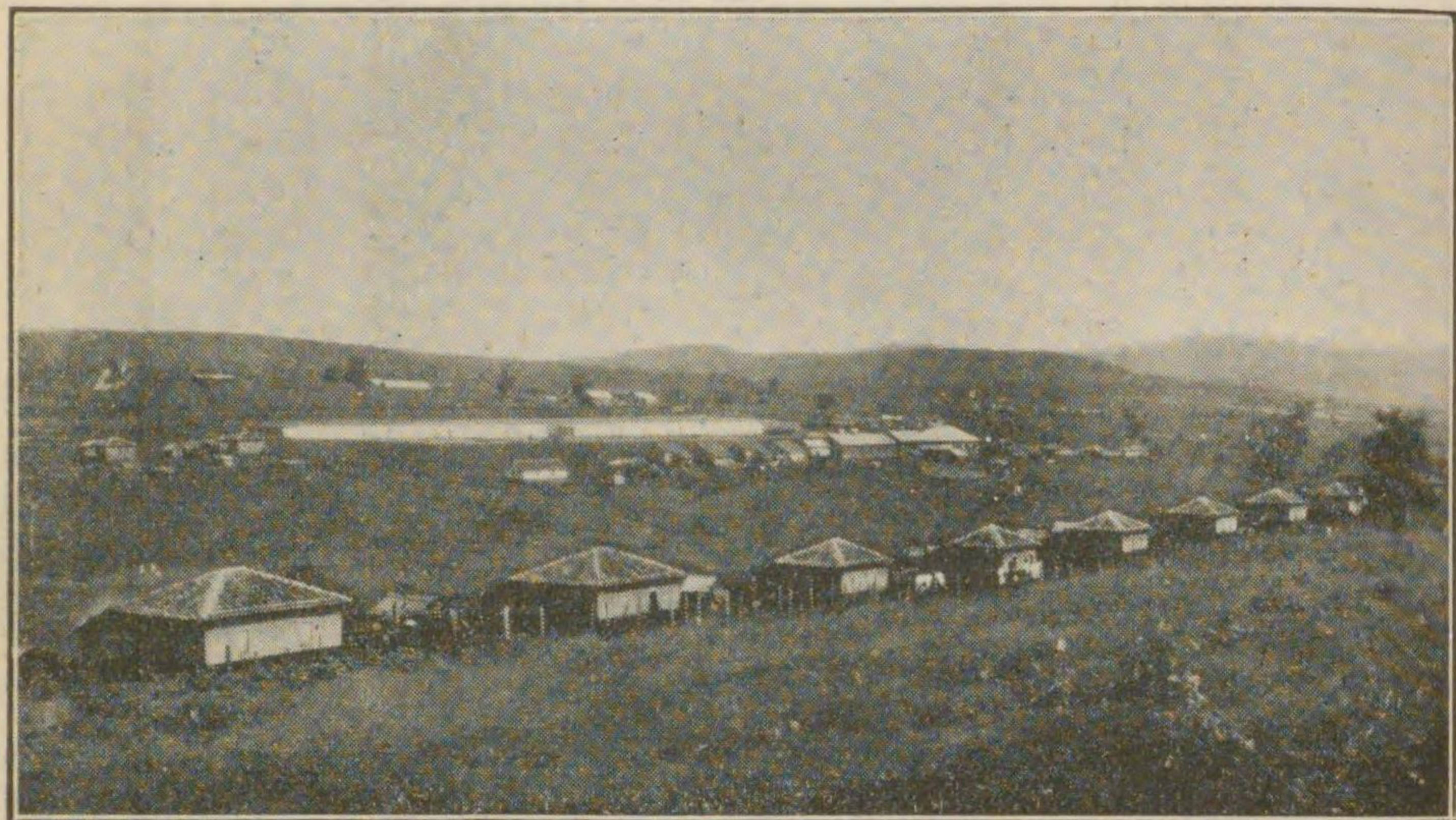
自動車の中を調べられてから、伊太利系らしいのと、ポルトガル系と黑人系らしい關吏、巡警等を竝ばせ、その上に希望もあつたので警察の犬まで竝べてこの記念寫眞を撮り、それから約一時間、家數六七百軒はあろうと云ふカムバラ一町へと走つたのであつた。

バルボーザ大農場 (寫眞はサンタマリヤ農場白線は乾燥場)

カムバラ一町には日本人の家も三十五六軒はある。此處で中食をしたり、初夏の眞陽を避けたりして、これから四十五軒、自動車で約三時間の野村農場まで一走りしたのである。

この附近から、最早ソロカバナ沿線の砂氣の多い土壌と違つて、赤味の粘土質となる。又、路傍の雑草の繁みにも、地味の豊さが現はれて居る。

鱈の居そうなジャカレ河(鱈河の意)を渡ると、先づサンタマリヤ農場がある。コロノの家が美しく建並んで居て、ブラジルでなければ見受けられぬ大農場の雄大さが現れて居る。



これから姑くの間、珈琲園が打ち續いて居る。小高い岡の上に自動車が出た時、見渡せば、全く珈琲樹の海原みたいなので、眼の力の及ぶ限り總て珈琲である。

それから半時も走るとバルボーザ大農場へ出る。珈琲樹數約百万本、樹數に於て、ドウモン農場及サンマルチニオ農場の各三百萬本には遙に及ばないけれども、品質の善いこと、一株當りの生産高の多いことは、前記二農場に遙かに優れて居ると云ふ。

それより面白く思はれる事は、バルボーザの若主人がピストルの名人で、農場で働いて居る何千と云ふコロノの中にも、彼に及ぶものが一人もないと云ふ。それが爲、どんな悪たれのコロノでもこの農場では決して亂暴なことをしないと云ふ事である。

何んでもその若主人は、空高く投ぐた銀貨を美事に射止める位は何でもないと云ふのであるから驚かざるを得ない。

ブラジルの農場では金の事や、理窟で片附かぬことがあると善くピストルで射合ふ事があるのであるが、この點、バルボーザ若主人は考へたる哉である。

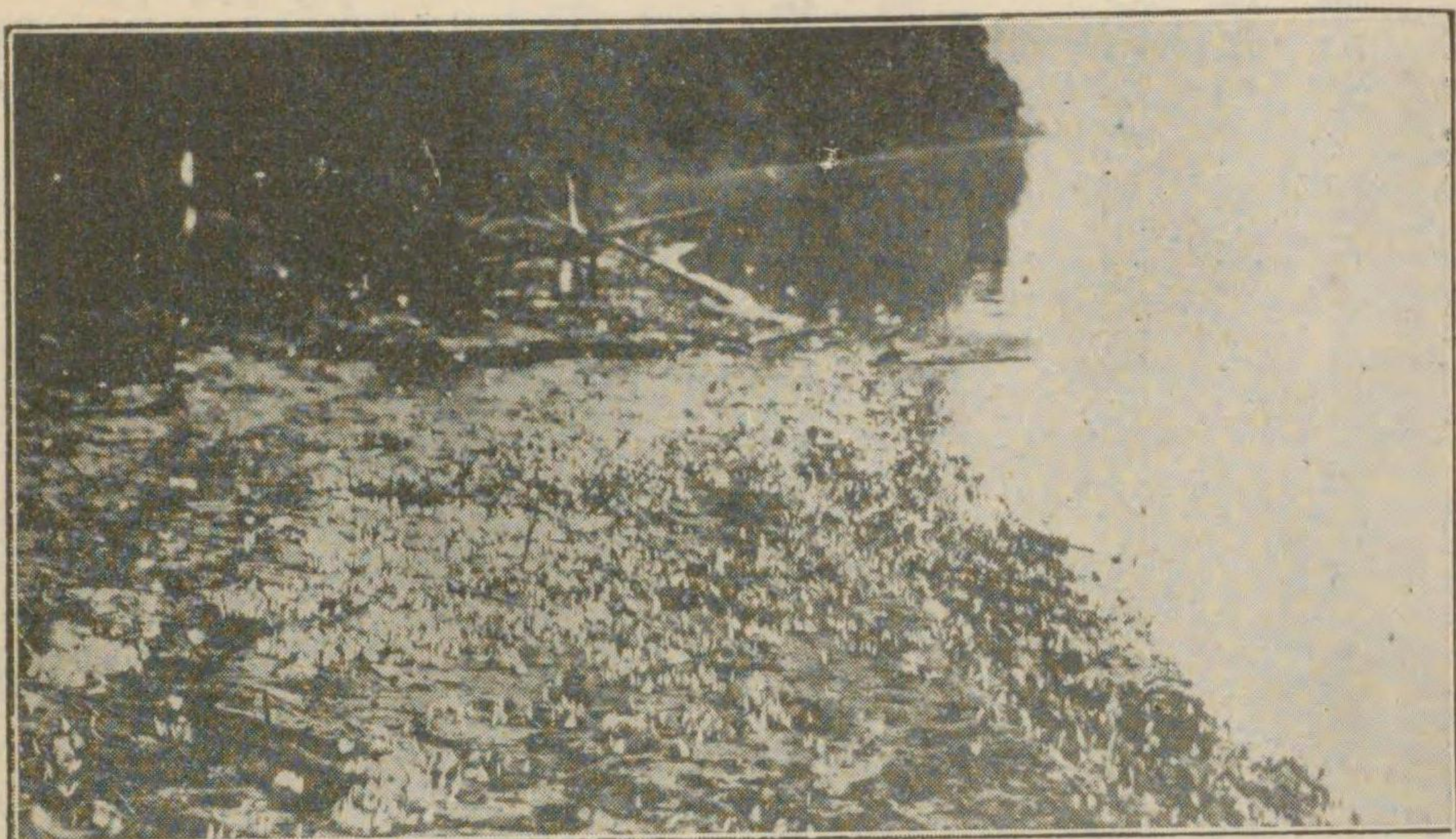
シンザ河 (寫眞は河邊に憩ふ蝶の群)

バルボーザの農場を通り抜けて、姑くすると、シンザ河(灰の河の意)に出る。

この河には最早橋がなくて、カノア(獨木舟)を幾つも結附けて、その上に板を敷いた渡舟があつて、自動車ごと渡して呉れる。

渡守は餘り外來の血を混へて居ないインデヤン人(この附近のはブーグレと呼ばれて居る)の母親と、その娘らしい十二三の娘であつて、何くれと世話をして呉れる。

「寫眞を撮らして呉れ」と請むと母親は承知したのであるが、肝心な娘が承知せず逃げ出してしまつた。



渡り了つて岸に着くと、天國かアデンの園ならでは、到底も見受けられまいと思ふて居た、何百種、何千、何萬と云ふ蝶の群が、人の足音に木の葉が風に飛び散る如く、或は又、五色の雪が亂れて舞ふが如く、現世で見受けらるゝ數のうちのものではない。夢か現か我が身を忘れ子供心になつて、蝶の群に戯れたのであつた。

此河から先は原始林の中へ、僅かに道を通じたと云ふのみで、山奥深く入つたのだと云ふ感じが強くなる。

所々、伐採された所があるにしても、一二年この方のことで、まだ珈琲が大きくはなつて居ない。中には間作の玉蜀黍が、自然を征服した人間の誇の象徴かの様に、美しい列を見せて居る所もあつた。

肥えて居る土地でなければ見受けられぬと云ふ、オルテイカと呼ぶ桐の葉程もある大きな葉の附いて居る、草とも木とも見分けの付かないものが、雑草の繁みの中に此方彼方に見える様になつて來た。又この木の存在は單に土地の肥沃を物語るのみではなく、霜の降らないのを證據だてゝ居るとも云はれる。それ程霜には弱い木なのである。

この木の存在こそ、先づ野村農場土地決定に於ける理由の一であつたのであると云ふ。



材木置場さながら（寫眞はその農場、己に珈琲の蒔付がしてある）

「野村農場は材木置場の様だ」と云ふ。之は決して、悪口から云ふのではなく、土地の肥沃を證する自慢であり、賞賛でもあるのである。

原始林を伐採して、山焼きをした後二三年間は、何所でも大木の焼残つた幹がごろ／＼して居るのであるが、取り譯、北パラナに陣取つた野村農場にはモジャナ沿線やノロエステ沿線には見られぬ、人七八人で抱へても手の届かない程太いのがあつて、どう見ても材木置場の様だと云ふのである。

話に聞いて居ると、實際に來て見るとは倍増し驚く所の見渡す限りの材木置場で、而も己に珈琲が蒔付けてあると聞いては再驚せざるを得ない。

その農場の中に二夫婦四人の邦人が男はマツシヤード（鉞）を、女はフォイセ（長柄の鉞）を揮りかざして、頻りと働いて居る。

丁度震災の後の東京が、昔の武蔵野になつた様に、大森林が伐り倒されて焼かれ、見渡す限り蜿蜒と続く焼野原である。その中に灰と炭とに紛れて終日働き續けて居る拓人、彼等の心の底に何が仕舞はれて居るのであるうか。

自然を征服して行く愉快さは、到底、金や物質で、その價値は計り得られるものではない。詩人が詩に生き、作家が創作に生き、畫家が畫に生き、彫刻家が彫刻に生きると何等變る所があらうか。

詩の世界は詩人にして始めて知り得べし、畫の世界は畫家にして始めて知り得べし、拓人の胸中誰が計り得る。試む可からず、詩人に非ずして詩の世界を計らんとするが如き、拓人に非ずして拓人の心の世界に入らんとするが如き。

原始林が斯くして、數年ならず、立派な農園と化して行く、愉快さは遠く南米へ押し渡つた拓人のみが味はひ得る所であつて、到底日本に於ては、想像し得られる所のものではない。

大資本の襟度（寫眞は日雇の）

外國人が日本移民を批評して、

「日本人はブラジルに来る時には、立派な姿をして来るから、あんな恰好で働けるものかと思はれるのに、入植すると何時の間にかポルコ（豚）の様になつてしまふ」と云ふて居るが、實際、百中九十人から九十五人迄もが、その批評の通り、身装も、生活も忘れて、唯働き、唯喰ふ様になつて行く。それは農事への忠實さが然らしめるものであるかもしれないが、兎角端で見る外國人には、愉快的な生活、楽しい日常とは思はれないらしい。成功（それは金を得る事に）する爲には左様したことが苦痛でもなく、寧



る尊い忍従であるのかもしれない。然し生活そのものを味うて行く外國人から見れば、「ボル
コ」の様にか見えなないのかもしれない。

左様した話を聞いて、日本人のファゼンダ(農場)である野村農場を見に行くと、非常に意を
強くするものがある。それは外國人のファゼンダと同様に、白ペンキを塗りたてたコロノ(契約
耕作者)の家が列を作つて、美しく立並んで居る。そしてその中央に、アメリカ邊で見受ける
バンガロー建の事務所が広いベランダを見せて居る。また、大きな製材所もあれば、珈琲の精
選や、精米のマキナ(機械)等が据ゑた建物もあつて、その周りには材木を運ぶ大きな角のブラ
ジル牛のたりく歩き廻つて居る牧場も見えて居る。

農場から他の農場へ、コロノのカーザ(家)の列から、他の所にあるコロノのカーザの列へ
大きな道路が縦横に通じて居て、自動車もカミニオン(貨物自動車)も、自在に通れる様にな
つて居る。

これ等が、開墾後僅かに、四五年このかたの施設と聞くと、流石に大資本の襟度と領づかれる。

夜になると珍らしや、この北パラナの奥深い山谷に赫々と電燈が輝いて楽しい一家團欒の集

ひが、どのコロノのカーザにも見出されるのであると思ふ時、資本は斯く使はれて、始めて意
義と價値とを有し得るものとさへ思はれた。

外人の非難的になる、邦人のシユチアンテ(中地主)の施設——電燈のない、ペンキを使は
ぬ粗末な小屋、床さへもない——とは到底比較にはならない立派なものである。

野村農場は、カンピーナスにある東山農事や、アニューマスにある海興の農場と共に日本人
經營珈琲園の代表的なものである。

資本が、より大きな資本を作り出される爲にのみ使はれて居るのであるならば、往々、その資
本に使はれる人々は奴隷も等しい立場に置かれることがある。そして、それは確かに過去の資
本主義制度の舊弊であらねばならない。また、未開地に於ける投資に左様した事が心置きなく
出来得ることを一つの特點の様に思つて競うて投資した時代もあつた。けれど、それは最早、
今日のブラジルでは許されぬ事實とされて居る。

この點に於て、時代の思潮に最も理解を有する野村徳七氏のブラジルに於けるこの農場經營
の方針及態度は、利に來り勝ちな在伯邦人に取つて模範とするに足るものであると思ふ。

自動車で農場廻り

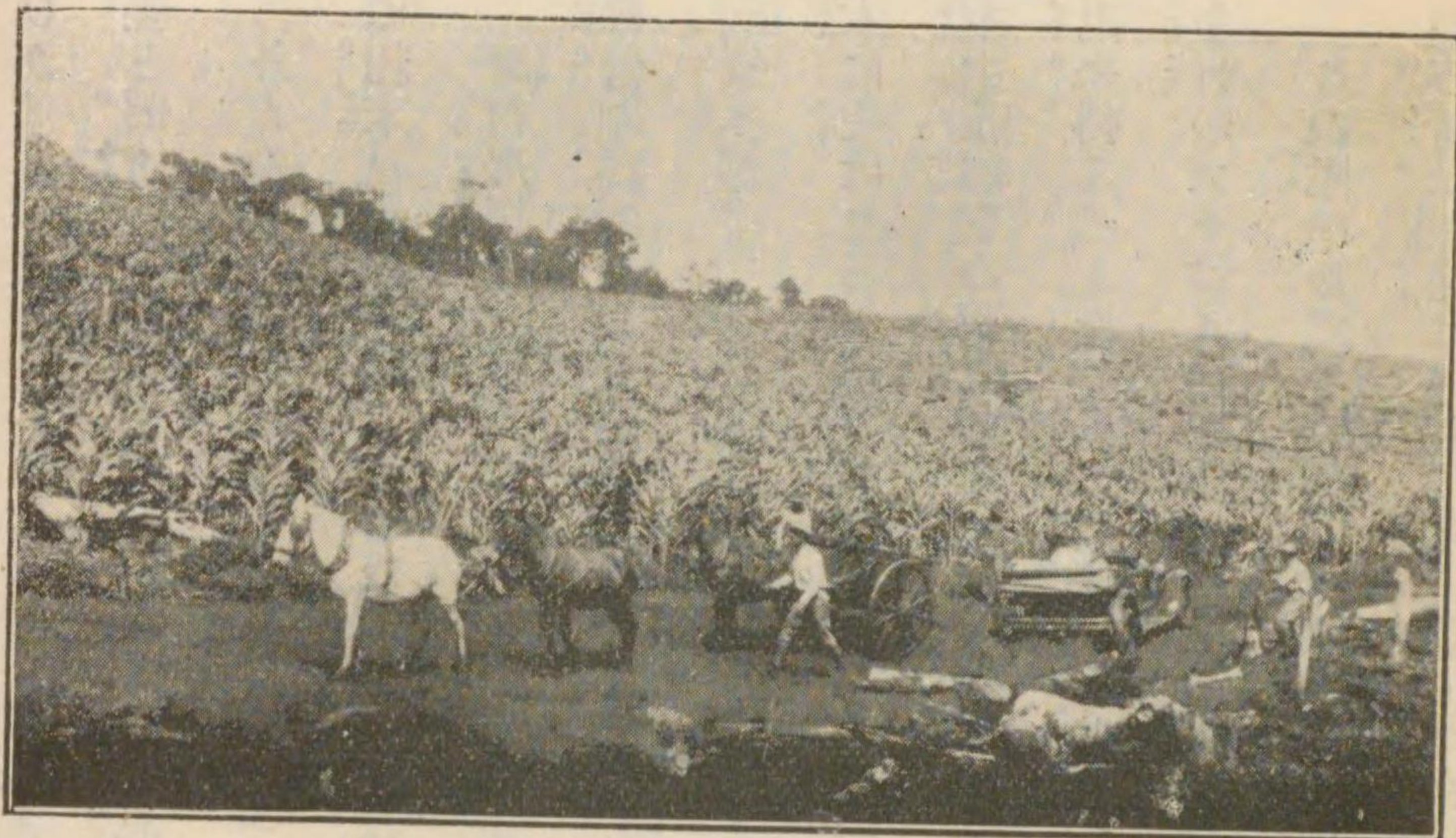
(寫眞はその自動車を馬で泥中より引出す所)

先年北米に旅して、キング、オブ、ポテトの名を
勝得た故牛嶋謹爾氏の農場を同氏の義弟江岐氏の案
内でモーターボートで一巡視察したことがあつた。
又今南米ブラジルに於て、千二百五十アルケルス約
三千三百七十五町歩の野村農場を自動車で廻つて、
それと、これとを比較し乍ら、島國日本、殊に信州
の山國に育つた私には、何とも云ひ得ぬ愉快さを感じ
たものであつた。

前者は嶋に芋を作り、後者は山に珈琲を植ゑる。

前者はボートで、後者は自動車で、北と南のアメリカ

大陸で、我が同胞の發展振りを見る。憶！ 何た



る快事ぞ、嶋國日本に鼻突き合せて、首縊りの脚さえ、引合ひ兼ねぬ態の有様、その國外へ雄
飛し得ぬ意氣地無しに、この雄大な氣を吸はせ度く思はれる程である。

先人未踏の地、北バナナ、猿さへ足踏み入れ得ぬ南國の大密林、それを切倒して、焼いて僅
かに數年の中に、脚ではとても歩き廻り兼ねる一大農場が作られて行く有様は、山の裾の芝原
を一年がかりで掘起して開墾する日本の開拓と日と同じうして語り得るものではない。そして
木の葉が枯れ落ちて、霜の朝、鳥の聲に一入寒さに震へる、北國日本では、常夏の國ブラジル
の、播き、刈取り、植付け、採收することが連続的に一年を通じて行はれるその豊さを想像す
ることさへ難いことであらう。況して、大森林が伐採されて、數年ならず、僅か六七十家族
の手で、四百アルケル約三十萬本の珈琲が栽培されて行く事實は、その現實に解れなければ到底
底領づかれるものではないであらう。

ミリーヨ(玉蜀黍)やフェジョン(南米豆)や、アロース(米)が無造作に作られて、尙且つ莫大
な収入を得て居る天然の氣候の順調さと、地味の豊さとは、肥料と手入れに全力を注いで尙且
つ充分の收穫を期し得られぬ日本の農業とは、甚しく趣を異にして居る。

農場は第一と第二とに分れて居て、それを一巡するのに半日を要した。野村農場を見て先づ

感ずることは、地味が相異なる爲でもあらう。モジヤナ沿線やパウリスダ沿線や、ノロエステ沿線の珈琲と枝の張り様が違ふ。野村農場の珈琲樹は四角になる様に枝が伸びて居るが、他の地方のは草箒を立てた様に圓錐形になつて居る。この點では信濃海外協會のアリアンサの農場に類して居る點がある。標高と云ひ、地味と云ひ、相似たるものがある爲であらう。

最初に開墾した所は、已に六年目になつて一枝に二百粒近くも、珠数をつないだ様になつてゐる。こうした若木から今年も千數百俵の收穫があつたと云ふことであるから、次農年には相當な俵數に達するであらう。

それから一年づゝ若く、今年播付けた分まで合せて約三十萬株になつて居る。將來は四十萬株位までにする豫定であると聞く、これは四十萬株がフアゼンダ(大農場)とシチュアンテ(中農場)との境ひで、一通りの精選機や、乾燥場等を設備するとすれば、四十萬株位を有する事が經濟的に有利である處から打算されたものである。監督の大久保農學士と助監督だと云ふ伊太利人とが一つ自動車に乗つて、第一農場から、第二農場まで焼きつける様な炎天を案内して呉れたのである。



野村農場の理想

(寫眞は遠方は珈琲畑、手前は稻田)

珈琲は値がないまでに下落した。それは豊作が續いて居るのを、珈琲調節局で買上げ輸出を制限して値の下落を防いで居た爲に、調節局の倉庫に千二百萬俵と云ふ恐ろしい數の珈琲が買蓄へられた上に、休み年である筈の今年が亦意外に多くの珈琲を生産した結果である。それに亦次農年も豊作は最大や疑はれない。よしんば外債が成立して、調節局に幾分の資金が出来たとしても、珈琲の値は甚しく吊り上げる方法はない。このブラジルの生産過剰の品が安い値で市場に溢れ出で、ジャバやコロンビヤの珈琲園を潰して、その安い値にて尙且つ生産し得られ

る農場のみが適者生存の理に依つて残るのであらう。ブラジルでもモジヤナ沿線の二十五年乃至三十年の珈琲經濟年限を越えて、施肥を要して居る舊珈琲園や、品質の悪い生産量の少い瘦地や低地の珈琲園や、資金に行詰つた無考へに擴大した農場等が倒れて、品質の善い、生産量の多い、然も生産費の比較的少くすむ、資金の潤澤な農場が、自然淘汰に依つて残るのであらう。そして調節局が輸出額に對して、サンパウロ州とパラナ州とに現在通りの制限を與へて居るものとすれば、パラナ州の珈琲園は甚しく有利な立場に置かれる。收穫しても賣るのに制限されて思はしく賣れぬサンパウロ州の農場は一層資金の廻轉に苦しんで遂に農場を閉鎖するか、パラナ州に移すより仕方があるまい。

野村農場の伊藤(陽三)農場長は、確かに、珈琲生産に對して一つの慧眼を持つて居た。パラナへ土地を選んだ事が、單に地味と、珈琲の品質の上に善かつたのみではなくて、調節局の輸出制限の厄に全く會はずに濟むことである(將來は分らぬにしても)。それに伊藤農場長は珈琲は一つの嗜好品であるが故に、出来るだけ品質を善くする事が、嗜好品としての需用價值を高めるものであるとの信念を持つて居る。これは確かに、唯々多く作つて澤山取り入れさへすれば善いと思つて居る多くの無考へな耕作者と選を異にする所であつて確かに慧眼である。殊に生産過剩になつて、値が安くなればなる程、品質の問題が厳しく需要者に詮議される様になるであらう。尙伊藤氏は生産珈琲の品質を善くする爲に左の様な事を實行しつゝあるのである。

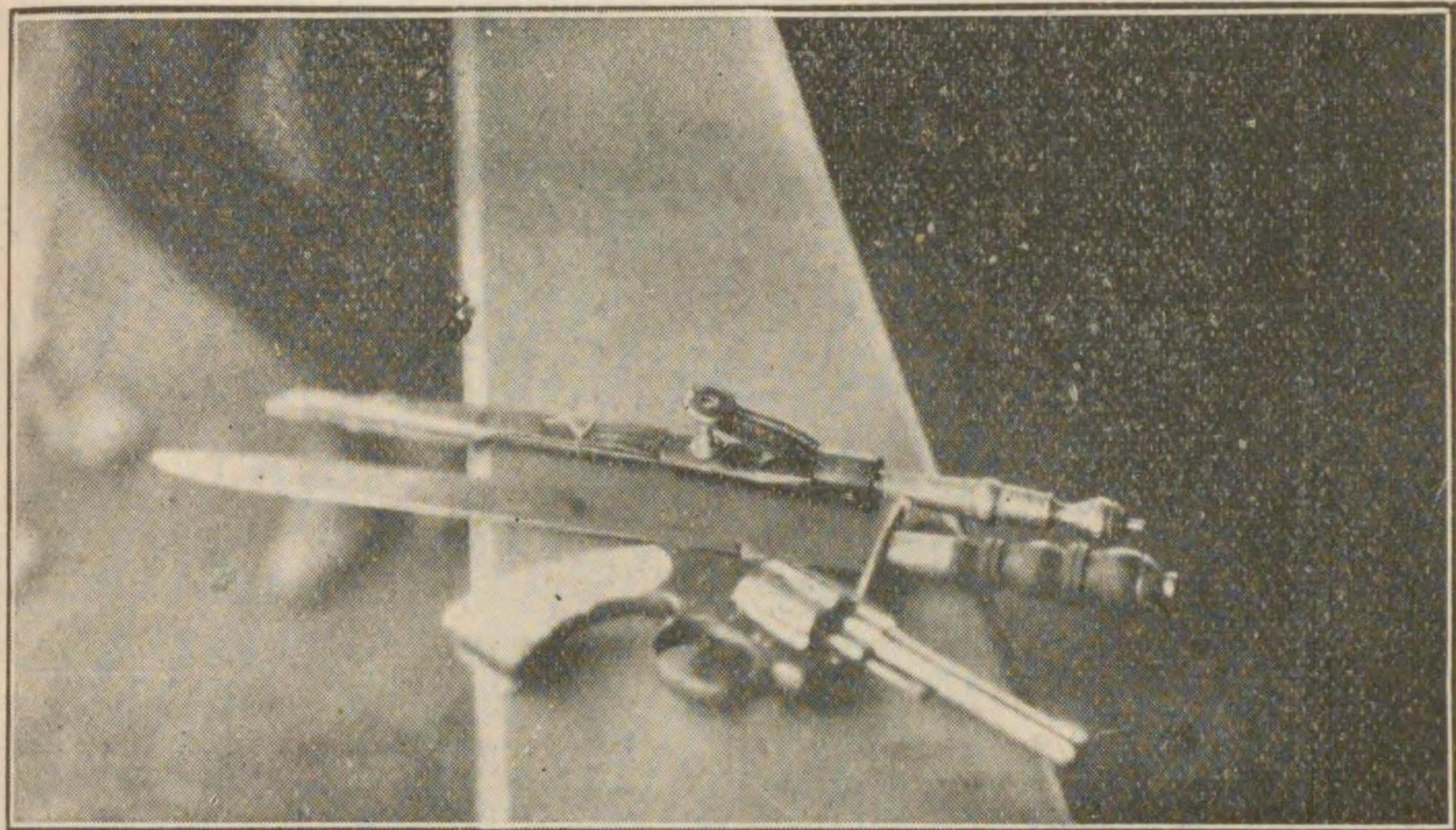
第一、播付く可き種珈琲の厳選(これは小農場では實際に行ふて見ても余り多くの意義を有しない。何故なら少しばかりの物が品質が善いからと云ふても買手の方が區別して買ふことが甚だしく煩はしいから) 第二、他では多く實が着くからと尊重して居る下枝を切取つて、その精力を全般の枝に與へて、實の品質を一樣にする。第三、成り年の花を薄めて、休年へ木の精力を送り越す様に努めて、毎年の生産量を一定にすると同時に、品質も例年均等に保つ様に努力する。第四、他では、珈琲を採取する時、労力を省く爲に、成不熟如何に拘はらず、一時に取つてしまふのであるが、努めて成熟せるもののみを選び採る様にする。その上、袋に入れる前に今一應、不熟のものを選り抜く様にす。第五、珈琲の香と味は地味と、標高と成不熟と、今一つ採取したものの乾燥如何に待つ事が多いのであるから、乾燥所を作るにも十分に注意すると共に、乾燥場主任をも厳選して、その適任者を得ること等である。

螢飛ぶ宵

夏に入らうとする十一月の末、夕陽が丘の上に赤々と沈んで行く時、近くの林の日暮蟬が一頻鳴きたて、暮の薄幕を引き下ろす。

此處北パラナの山谷の、白い建物のどの家にも明々と電燈が光り出して、大資本に開發された原始林が、僅かに黒い森に跡を留めて居る。

その頃からどこからとなく、大きな螢（大人の小指の半分程は優にある）がピカ／＼光りながら飛び出して来る。この螢は日本の螢の様に尻が光らず、首の兩側二ヶ所が光る様になつて居る。その上に、日本の機おり虫の様に仰向けにして置くと、首の力



でパチンと跳上つて起きることが出来る様になつて居る。勿論、尻の光る小さいのも居るが、それは印度で見たのと同様に日本の如く黒くなく、一体に赤味を持つて居る。

この螢の飛び出す頃が一日中で一番に愉快な時なのである。日中の暑さと打つて變つて、丁度信州の白骨温泉の夏の夜の様に、冷え／＼と肌に染みる冷氣が下りて来て、おのづと心がさわやかになるのを覚える。

その頃庭の芝原の上に、寄付け椅子を出して、家の人達が團樂の幕に入るのである。昨日會つた人もこゝ南米では十年の知己の様な親しみがある。時には色の黒いブラジル人もまじつて、腰のピストルやファツカ（大ナイフ）をガチャ／＼させながら、ピストル上手の自慢話や、深山で大獲物を取つた手柄話などに花を咲かせるのであつた。そしてそれは、明日分れて永久に會はぬ人々であるといふ様なことは少しも考へられない様に思はれる程親しみのあるものであつた。

ブラジル漫談 ㊦

蝗の大群

大正六年の五月サンパウロ州へ
パラナ州から襲来して来た蝗の大
群は實に恐る可きもので、一兩日
中に全作物を喰盡して飛去つたと
云ふ。而も被害區が日本の北海道
以上の廣範圍に及んだとは嘘の様
な話。

ブラジル土人の豊年ジャス

豊年ぢや、萬作ぢや！
隣の娘に婿が来た
おらが嬢は子を生んだ
ツング ツング

春戸の島で

唐黍かいて居たら
ヒヨットコ面の猿が出た！
ツング ツング

椰子の葉風は

野づらをなで、
何と鳴いたかバ、ガイヨ！
ツング

豊年ぢや、萬作ぢや

隣の娘に婿が来て
おらが嬢に子を生んだ
ツング

(註)バ、ガイヨはブラジルの
オームのこと)

土人は僕等の親類

ブラジル土人の優秀な部類の者
は、新石器時代にベーリング海峡
を越えて南下した蒙古人種の末孫
だと稱する學者がある。

廣い歡骨、偏平な顔、丸い頭蓋
骨、斜めに傾いた眼、濃い厚い眉
毛、大きな口を蔽ひ被せる髯等が
どう見ても蒙古人種に似て居ると
云ふのである。

しからば、日本人とも遠い親類
位にはなりさうである。

パウリスタノ

サンパウロ州で幅を利かして居
るのは、純然たる白人でなくて、
土人の血の雜つた人達である。

サンパウロ州以外の州



パラナ州 (寫眞はパラナ杉)

パラナ州はサンパウロ州の南に續く州であつて、北パラナの野村農場や後宮農場を始め邦人の農場が次第に増加し、在住邦人も已に三四百家族に及んで居る。

首府クリテイーバ附近には、上塚周平氏と共にブラジル移民の先覺者たる水野龍氏があり、又アントニーナ港附近にも四五十家族入つて居る。

氣候はサンパウロ州に似て尙善く、珈琲、マテ茶の栽培に適し、パラナ栗と邦人に呼ばれて居るカスタニヤを多量に産出して居る。海岸地方の漁業も亦邦人の手に開拓されんとして居る。

サンパウロ州に次ぐ邦人發展の好適地であらう。



リオ・グランデ・ド・スール州

(寫眞はブラジルに珍らしいスール州の雪景色)

パラナ州より南のサンタカタリナ州及リオ・グランデ・ド・スール州の三州を「南三州」と呼んで、獨逸人の發展地とされて居る。殊にスール州は一八二五年に百二十六名の獨逸移民がサン・レオポルドに入植して以來各地に植民地を建設し、何れもブラジルの模範農村として知られて居る。

この州にはブラジルでは珍らしい雪が、何十年間に一二度位はあつて、他州で作られぬ小麦が善く出来るのである。

教育の普及して居る州、産業組織の進歩して居る州、その上に今次の革命に勝つて州統領たりしゼツリオ・バルカス氏を大統領領に送り出した州である。



マトグロツソ州

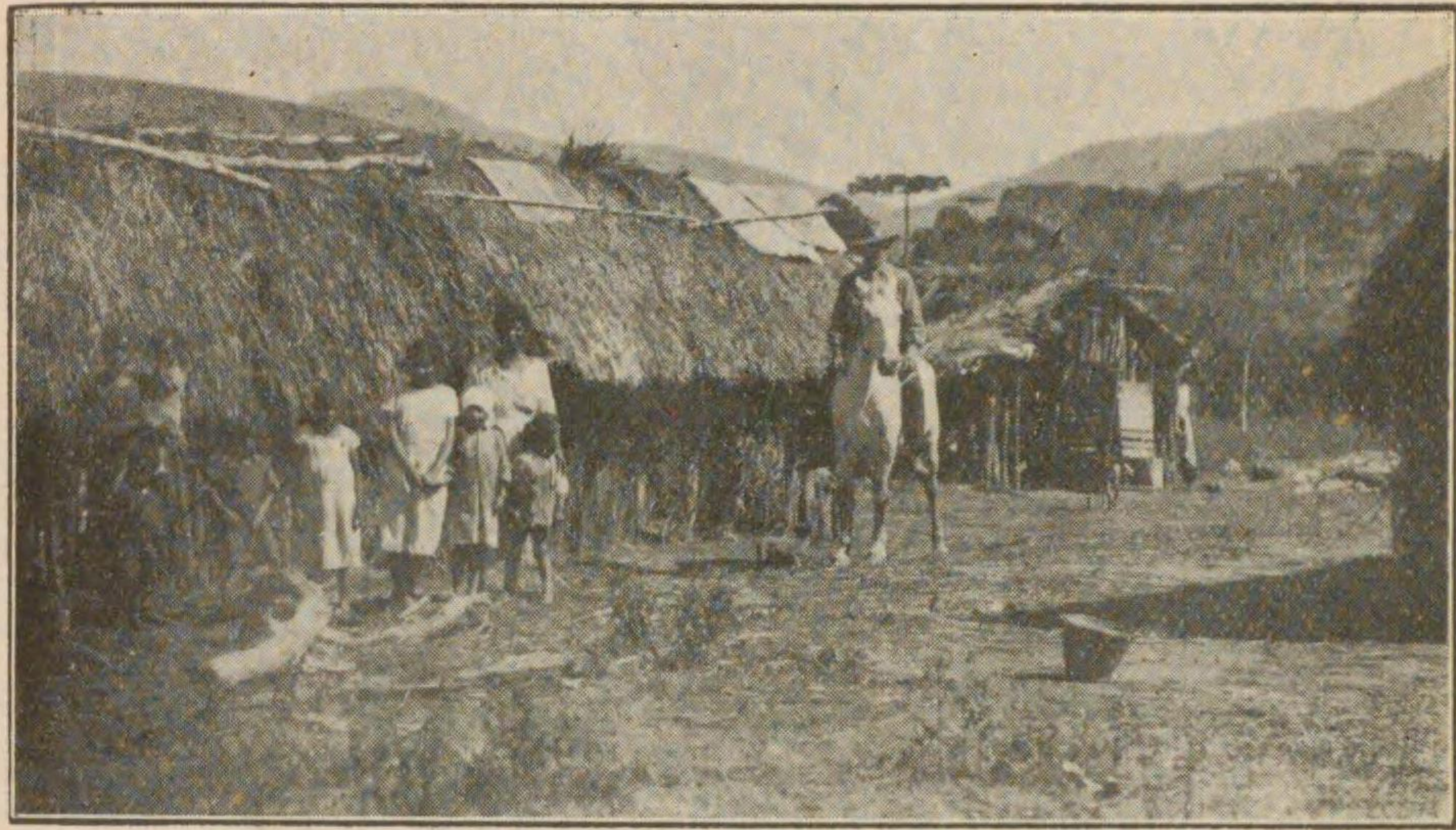
(寫眞は牧牛の去勢)

マトは森林、グロツソは厚いとか深いと云ふ意従つてマトグロツソ州はその意の通り大原森林の悠久そのもの、様な所である。

サンパウロ州の西北に僅かに堺を接して居る大州で、南米の中央に横たわる、未開の天地である。それでも南部にはポリビヤ國境まで通ずる鐵道も出來て居り、大きな牧場も作られ、邦人も順に入つて行く様になつた。

ダイヤ堀で知られて居る豊富發揚氏は、毎年の様に、ダイヤ堀隊を組織しては、この神秘境深く入つて行き、相當な成績を擧げて居る。

兎に角、未だ世界の探險隊の爲に取殘されて居る部分である。



ミナスゼラエス州

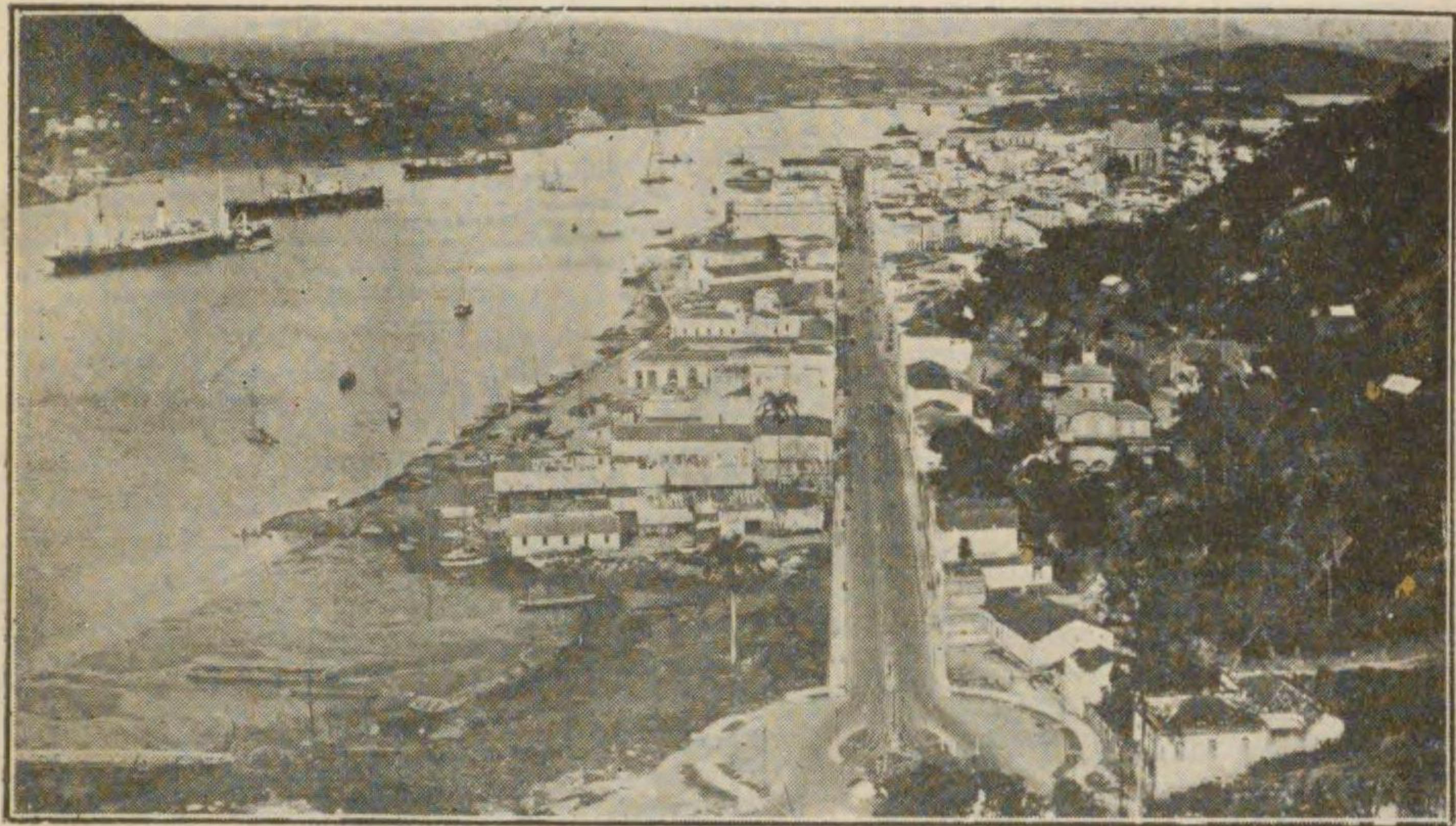
(寫眞は曾て奴隸たりし黒人の家及家族)

ミナス州はサンパウロ州と共にブラジル中で最も早く開けた州である。その理由は、その州の名が意味する如く鑛石の豊富なる州であつたが爲でもある。或英國人は、ミナス州から十九世紀世末までに掘出された黄金は、廿億圓に達するであらうと云ふて居る。

金の他、金剛石も、鐵も、滿俺も出る。

殊にポルトガル王の王冠の裝飾にされた百廿五カラットの「ブラガンザ」と命名されて居る金剛石や一八五四年に、發見された粗石二百五十カラットの「エストラ・ド・スール」と呼ばれる大金剛石等はこの州から出たものであると云ふ。

この州は亦農牧方面にも見る可きものがある。



エスピリットサント州

(寫眞は山から見た首府ビクトリア市)

エスピリットサント州はミナス州の東、海岸地帯を占める細長い小さな州で、全人口約六十万である。珈琲、コ、ア、砂糖等を僅かに出す位なもの有力な州ではない。

大阪商船の船は歸航の際に荷物があると、この州の首府ビクトリア港に寄港する。將來、移住組合のミナス州移住豫定地に移民を入れる様になつたら、一層日本人との關係も濃くなるのであろう、今では未だ街の人達も日本人が珍らしくて、それも多くは「シネース」(支那人)だと云ふて居た。

この州あたりより以北は氣温が高くなるのである



ビクトリヤ市を見る

(寫眞は仲善しの日本人の子供と
ブラジル人の子供)

船は一日淀泊し、船員も揃つて山に蘭を取りに行くと云ふので、私達も陸へ上つてゆつくり街を見た川に添ふた長い街で、小高い所に立派な州統領の官邸と教會堂とが目立つて居る位なものであつた。街を歩くと、子供達が物珍らしそうに私達の後について来る。決して侮辱の意味ではない、全く珍らしいので、寧ろ彼等には植民らしい親切さと、混血児が多いので、同じ様な皮膚の日本人にある一つの親しみをさる持つて居るらしい。街の珈琲店や雜貨店等では、日本人が善く買物をする爲でもあらう、仲々如才なく、歓迎して居る。この市の反對側の小高い山の上に古い城が見えて居た。

フォード氏のアマゾン開發

(寫眞は天然ゴムの採收)

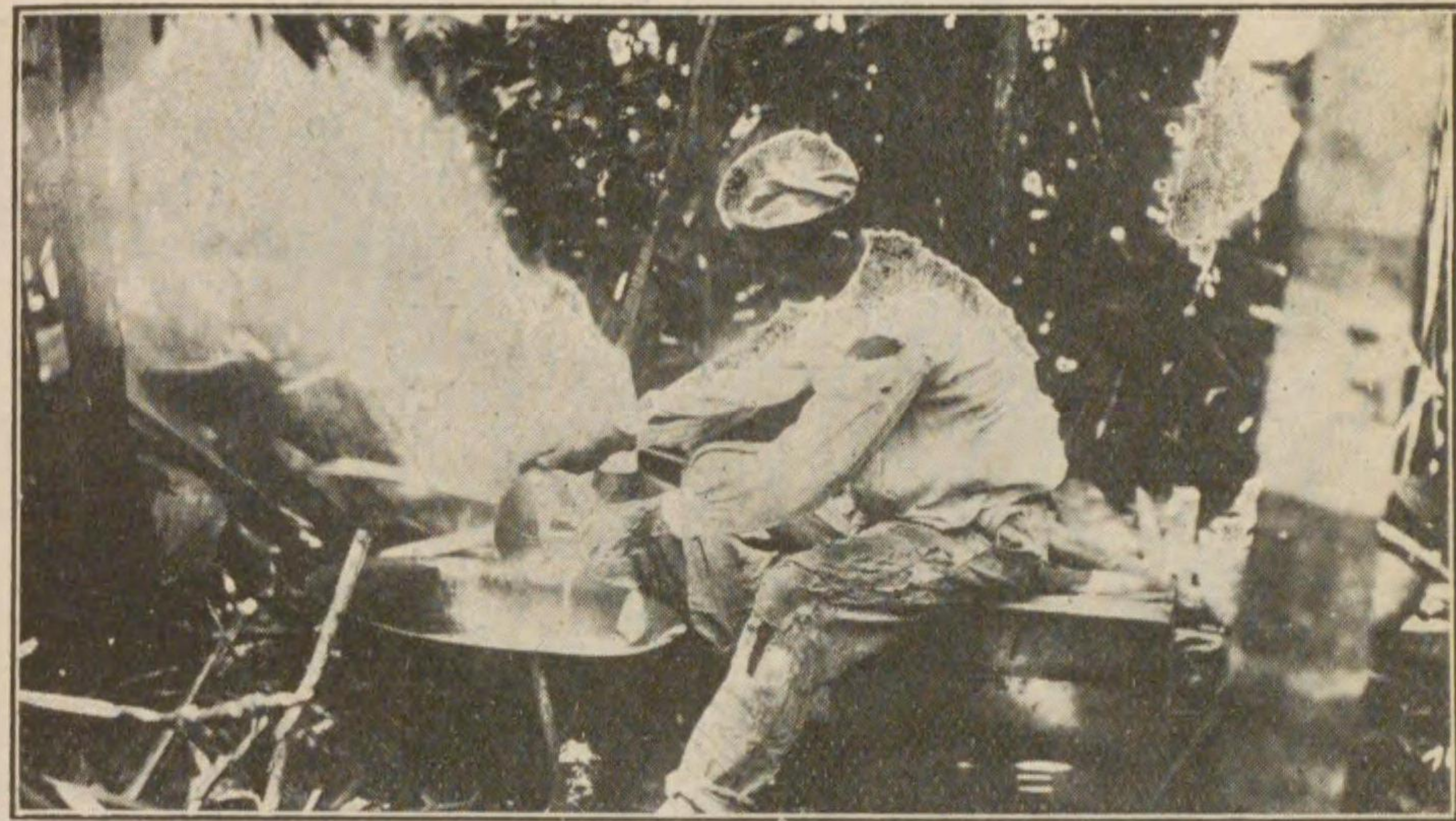
自動車王ヘンリー・フォード氏がアマゾンを開發すると世界に發表したのは、最う古い話になつた。

彼は自分の工場で用ふる護謨が、シンガポールの英人の手に依つて作られ、従つて護謨市場が英人に左右されて居るのを残念に思ひアマゾンに護謨園を作らうとした。と同時に米國の癌と云はれる一千万以上に及ぶ黒人をアマゾンのその事業地に送つて、米國を白人の天地として

保とうとの理想をも持つて居たと謂はれる。

しかし、アマゾンの開發は今日の問題ではなかつたあの不便な天地に事業を起すことは、フォード氏の大資本を以つてしても勝算が立たなかつたのであつた。





又、黒人を移民として送ることは、ブラジルの政府も法律を以て拒絶してしまつた。それが爲にフォード氏のアマゾン開発は中止されたものであると傳へられて居る。

アマゾン流域は赤道に近い割合に氣候は善いといはれて居るが、それは「割合に善い」と云ふ話であつて、決して、サンパウロ州や、パラナ州等には比較にならない。英國の軍艦上に於て一ケ年の溫度が平均幾らになつたにしても、原始林の大陸の中の溫度はそれとは同日に語られるものではない。

アマゾン流域の土人は、世界でも最も幼稚な姿をして居る。一つは氣候の爲、一つは文化を持ち得なかつた爲なのであらう。

フォード氏が黒人を入れ様としたのには確かに一理があつた。
(寫眞は天然ゴム採收人の生活)



アマゾン流域の開発に就て

(寫眞はアマゾンに住む土人)

小さい日本の地圖を擴げて過剰人口の處置に悩む日本人は、廣い世界地圖の上に尙棄てられて居る、經濟價値のない莫大な地域が、シベリヤにアマゾンに、或は其他の場所にあることを知つて、何とかならぬものかと考へもする。そして、その机上夢想の熱が一寸高いと「今日の文明文化を以つてすれば必ずしも不可能の事でない」と思つてしまふ。

シベリヤの大原野を農業組合を作つて大農式農場にしてしまふと思つた者に後藤新平伯があり、アマゾン流域の大原始林を切開いて新天地を建設仕様と思つたものに、福原八郎氏がある。——(その他に、澤柳猛雄氏、上塚司氏もある。)

何と云ふても氣候の善くない、交通の不便な、市場の遠い、經濟的何等の有利な條件のない大アマゾ

ンへ慌て、農業移民を送り込む事は考えものだと思ふ。少くとも、サンパウロの植民地や移住地を見た人々にはアマゾン開發は今日や明日の問題でなく、少くも五十年乃至それ以後の事であることを悟るであらう。

私は揚子江河岸を見た、ナイルの河岸も見た、ミシシッピの河岸も見た、それ等の河岸にも未だ澤山原野が棄てやれて居る。

シベリヤへ手を付ける前に滿州の八十萬の朝鮮農民を考慮し、アマゾンへ手を付ける前にサンパウロ州及その附近の十萬の同胞を指導助成せしめて、廿萬とし、乃至は卅萬とする事こそ

我が日本の今日の國策でなく何であらう。

但し日本も世界の三大強國の一つである、政府の費用で十年計畫位でアマゾンへ農事試験所の一位は建設して、その結果を世界に向つて發表する位の意氣があつて欲しい。



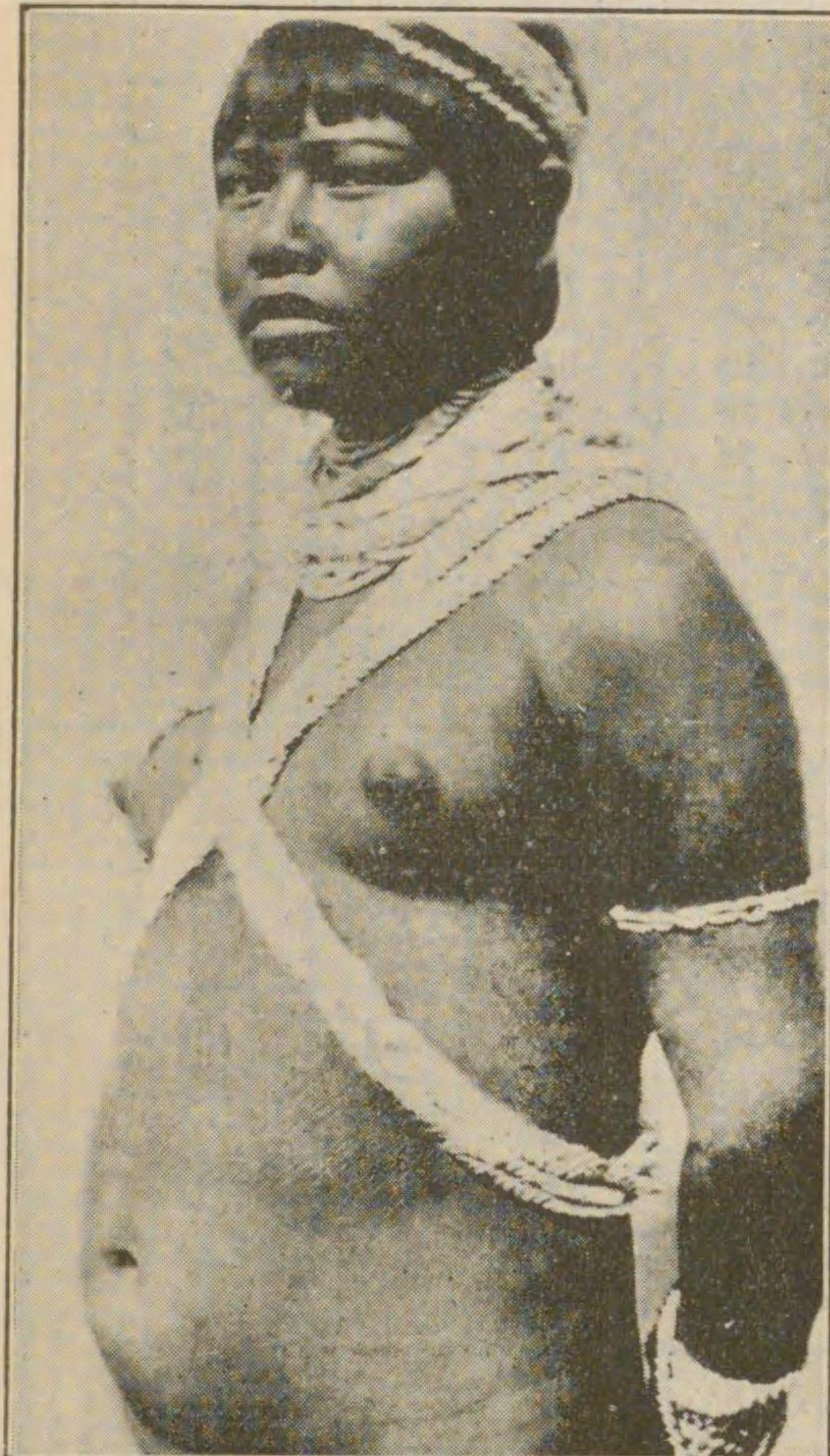
アマゾン (寫眞はアマゾンの勇婦)

アマゾン河は長さ約四千哩、河口二〇〇哩、水深二百四十呎乃至三百二十五呎、世界最大の水量を有して居る。そして約九百哩まで數千噸の海洋汽船が自由に上下を爲すことが出來得ると云ふ。實に「淡水海」の觀がある。

アマゾンと云ふ名の起原は、アマゾン河の支流のネグロ河附近に住む婦人が、常に婦人のみで隊を組み、決して男子を近づけず、非常に勇敢であつた、土人はこれを「アマゾン」(勇婦)

と呼んで居た。それが遂に大河の名となつたのだと云ふのである。

面白いことに、その勇婦等は年に一度男子を許し、男子が生れれば男に與へ、女子のみを自分の手で育てるのだと云ふ。



ブラジル漫談 (三)

所が變れば

拙著「世界遊記」で、雨が降つて居る時日光が射すと、日本では「狐の嫁入」と云ひ、米國では「デビル(悪魔)の結婚だ」と云ふ事を紹介して置いたが、さてブラジルでは何と云ふだろうかと尋ねて見たら、「寡婦の結婚だ」と云ふ所變ればではあるが、何れも結婚に結び附けてあるのが面白いと思ふ。

蛇紋樹

ブラジルの名木にスネークウツ

ドがある。

ステツキ等に蛇の紋が善く現れて居るものは、實に得難い珍品である。

兩頭蛇

兩頭蛇と云ふのは地中に住む蚯蚓の如き蛇で、皮は蛇の通りであり乍ら、形が蚯蚓の様に頭とも尻尾とも見分けのつかぬものである。従つて二匹蛇とか、盲蛇等とも呼ばれて居る。

ブラジルの山

大國ブラジルには世界一の大河アマゾンを持つて居る外、世界一と云はれるグアイーラ大瀑布がある(パラナ河に)。水力ナイヤガ

ラの二十倍だと云ふのだから大きな程が知られる。

さて、ブラジルの山、アグーリカス、ネグラス山(ミナス州)を調べて見ると二千九百九十四米一萬尺にはまだ程遠いと云ふ程度

雑婚

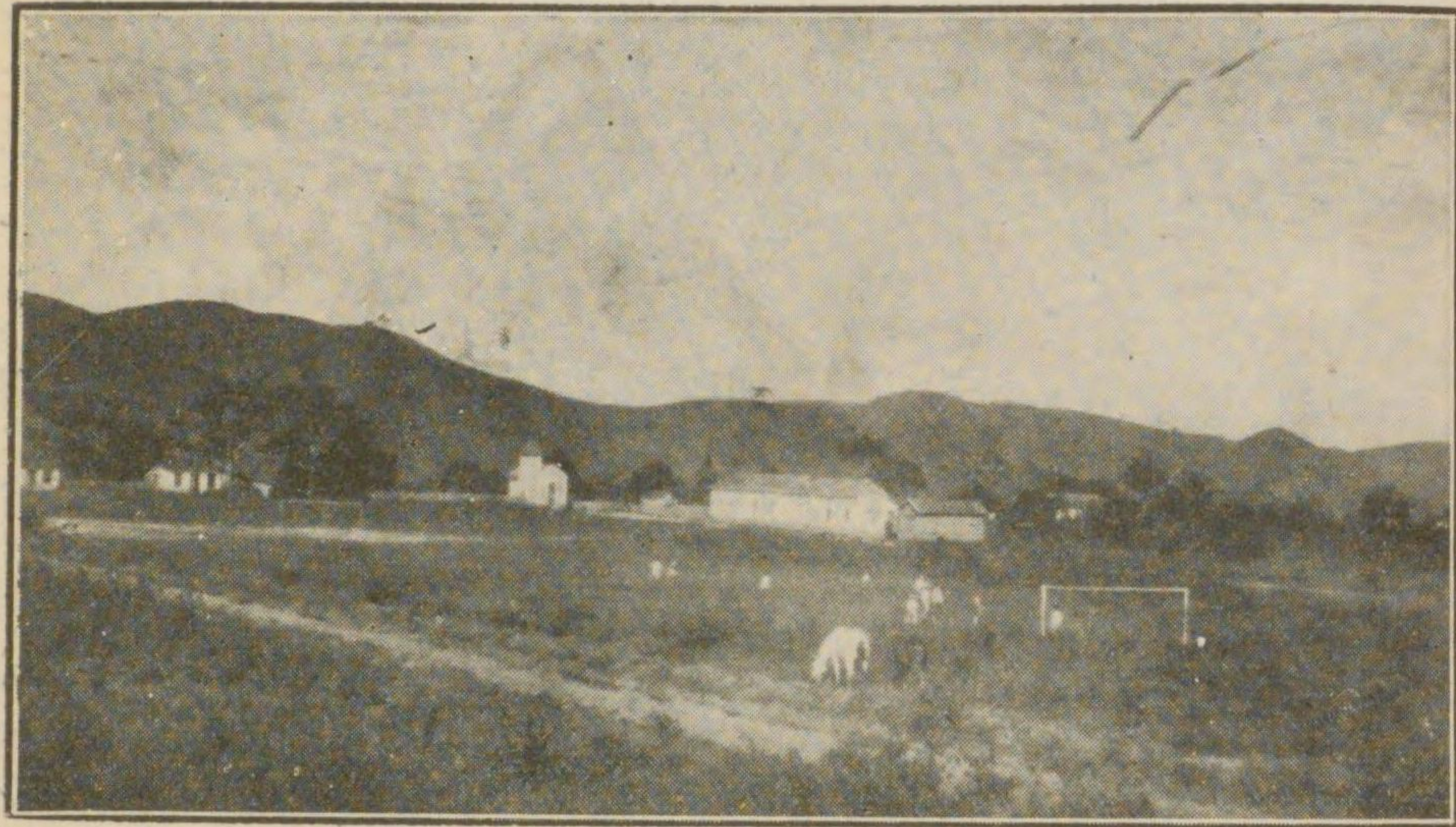
人種の坩堝ブラジルのことであるから、雑婚又雑婚、實にその複雑の程は計り知られない。

白人と印甸人の混血はカボクロ乃至マメルコ、白人黒人とのはムラト、印甸人と黒人とのはカフリス、カフリスと印甸人とのはカリポーカ、カフリスと黒人とはシバローと呼ばれて居る。

印甸人約八十萬と云はる。

常夏のパラダイス

リオ・デ・ジャネイロ市



セントラル線

(寫眞は同沿線の牧場兼
フットボールグラウンド)

十一月二日この日はブラジルでは盂ら盆とでもいふ年に一度の墓参の日なのだ。前日の内に墓掃除をして置いて、この日美しい花を抱へて家族揃つて墓参をするのである。従つて年中行事でもあり、宗教的祭日でもあつて、一般に休む。そして市の近郊に生家のあるものは日本の藪入りみたいに歸つて行く。

丁度その日、私は坂本代議士と共に墓参の人達に混じつてブラジル・セントラル鐵道で、首府リオデジャネイロへ向つたのであつた。

チエテ河に沿ふて兵陵の伏起して居る間を縫ふて

汽車は走る、この線はサントス、サンパウロ間のサンパウロ線と共に日本の東海道急行位の速力を出し得て、ブラジルの中での汽車らしい汽車の一つである。

沿線一帯、山焼きをしてそのまゝ捨て、雑木雑草の生えるに任してある處も多いが、大半は牧場になつてゐる。中に善く手が行き届いてゐる所は、牧草に包まれて、春、奈良の三笠山を見る様に思はれた。

休日なので、田舎の青年達が、樂しげにフットボールをしてゐる。集まつてゐる者は黒、白赤、黄等色々の人種を取まぜてゐるのも南米らしい氣分がする。しかもグラウンドは牧場の中に作られて居て、競技中は馬や牛が追出されてゐるのも面白い。

サンパウロの郊外は主として蔬菜類が、リオデジャネイロの郊外は主として柑橘類が作られて居た。この沿線の邦人は約二百家族程で、主として野菜の栽培次に米作であるといふ。

晝汽車に乗ること十二時間に及ぶのであるが、始めての土地故、好奇心に引かれて退屈もしなかつた。

三大美港の一

(寫眞は山から見たリオ市中央半卵形の山がボンデアスカイ)

ブラジルの首府リオデジャネイロ市は濠洲のシドニー、イタリーのナポリ等と共に世界の三大美港と稱せられて居る。私も實際世界を巡歴して居るが世界にも餘り見られぬ美しい港である。

市はリオデジャネイロ灣港の入口にあつて、幾つかの岩山に包まれた伏起、屈曲の多い街である。始めこゝを發見したポルトガル人がこの灣を河と間違へ、發見したのが一月であつたので「一月の河」即ちリオ(河)デ(の)ジアネイロ(一月)と稱したのだと



いふ。

船で灣口から入つて来ると眼前に大きな丸い長い岩山が眼につく、形が砂礫のかたまりの様である所からボンデアスカーと稱して居る。その右の大きな切立てた様な山がコンコパルドである。其間に家を建られる程度にゆるやかな山が幾つかあつて、白い建物が點在して居て一層美しくしさを増して居る。

四季とも、山は緑、それに外國婦人の脚の様に細長い曲りのない椰子の樹が、此所彼所に立ち並んで南國の情緒を増して居る。

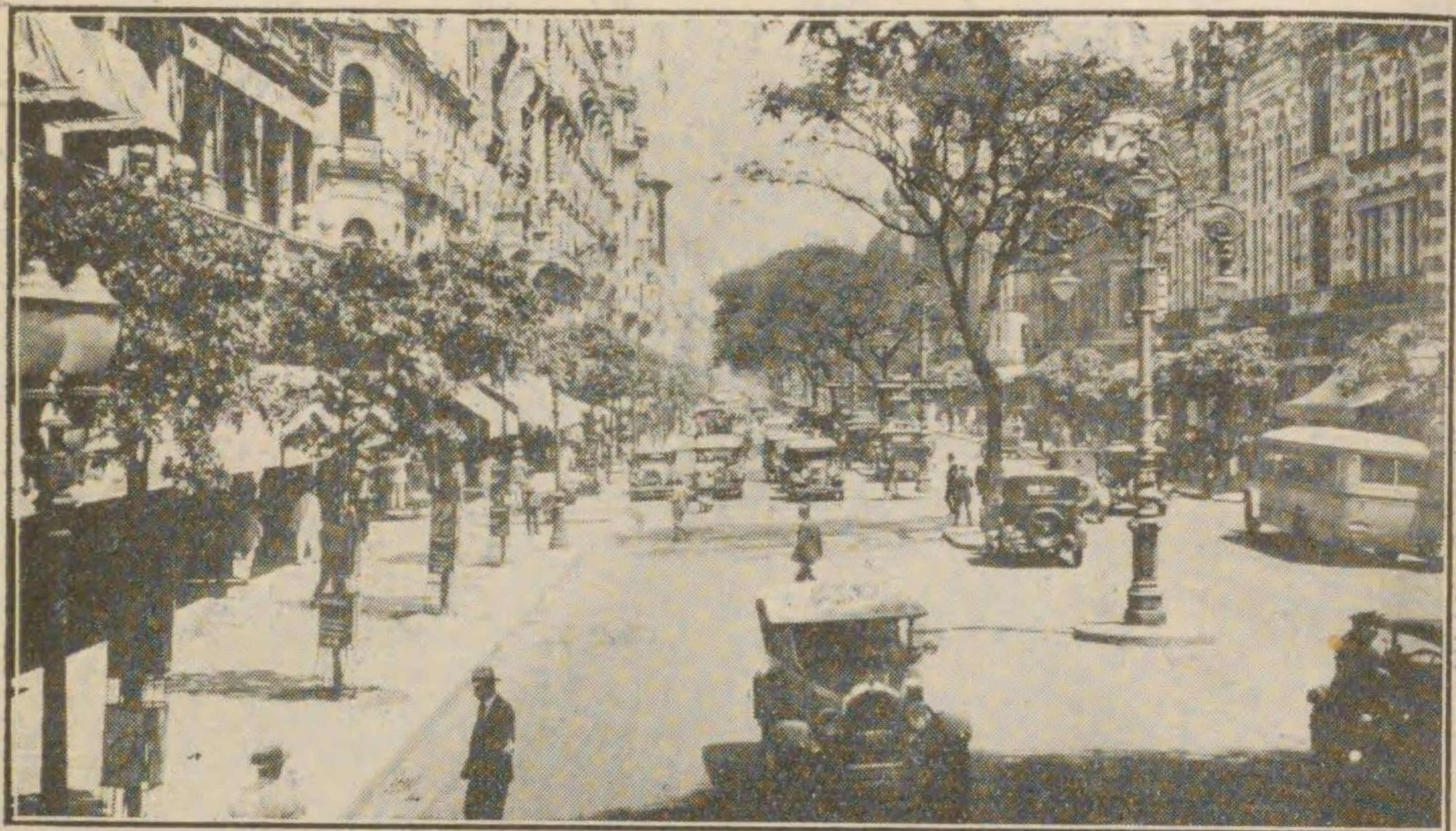
海岸道路の美しくしさは、恐らく他では見受けられまい。街路樹の繁み深く、百花は四季共に咲乱れ、色石で巧に詰め合せて模様をつけたる路面、所々に美しい藝術味のある鑄像をあしらひとなしたる邊り流石にラテン系民族の血を引いて居ることは争はれない。ことに海岸の砂まで細かい、ふるひにかけたパン粉の様に美しいのも天恵の美といふ可きであらう。

街頭に見受ける房々したブラウン色の髪と、チーク色の頬、それに濃い口紅さした美しい姫の軽げな足どり、確かに美しい自然にはぐくまれて、作られた肌と容姿とである。

リオ市の銀座 (寫眞はそのリオ市)

リオ市の銀座アベニダ・リオ・プランコ、直譯すれば「白川通」である。しかし調べて見れば、都市計畫の大家リオ・プランコ博士に依つて建設せられた大通なので、同博士の名に因んで附けた名であると云ふ。

市の西南隅を南から北に、海岸から海岸まで通して居る百十呎、長さ約一哩の大通りがそれで、此通に添ふて、大廈高樓が櫛比して居る。著名の俱樂部を始め、モンロー館(上院)市立劇場、市會議事堂大審院、美術學校、圖書館等の諸建物が皆藝術味豊かに立並んで、到底米國邊の街には見られぬ雅びや



かさがあつた。寫眞で見る通り電車を通さず、車道の中央に大きな街路樹が植えて、左側右側の境としてあるのも床しい。

又、人道はゴシック式の模様入りになつて居て華のパリーにも見受けられぬ企てである。

ニューヨークのフィフスアベニュー程の潑刺たる気分や、ロンドンのピカテリーの如き殷賑さや又パリーのシャンゼリゼー程の華やかさ等はないけれども、明るい、落ち着きのある街である。

特に日本人に取つては何ともいひ得ない風味のある街である。恐らく街の人達に人種的偏見が心の奥底にもないことが、いろ／＼の舉動から私の心の中まで響いて來るが爲なのであらう。

時折、新聞を賣る男や、富籤の札を賣る男が「いらぬか」と聞いて呉れるのも歐米には見られぬ親しさでもある。

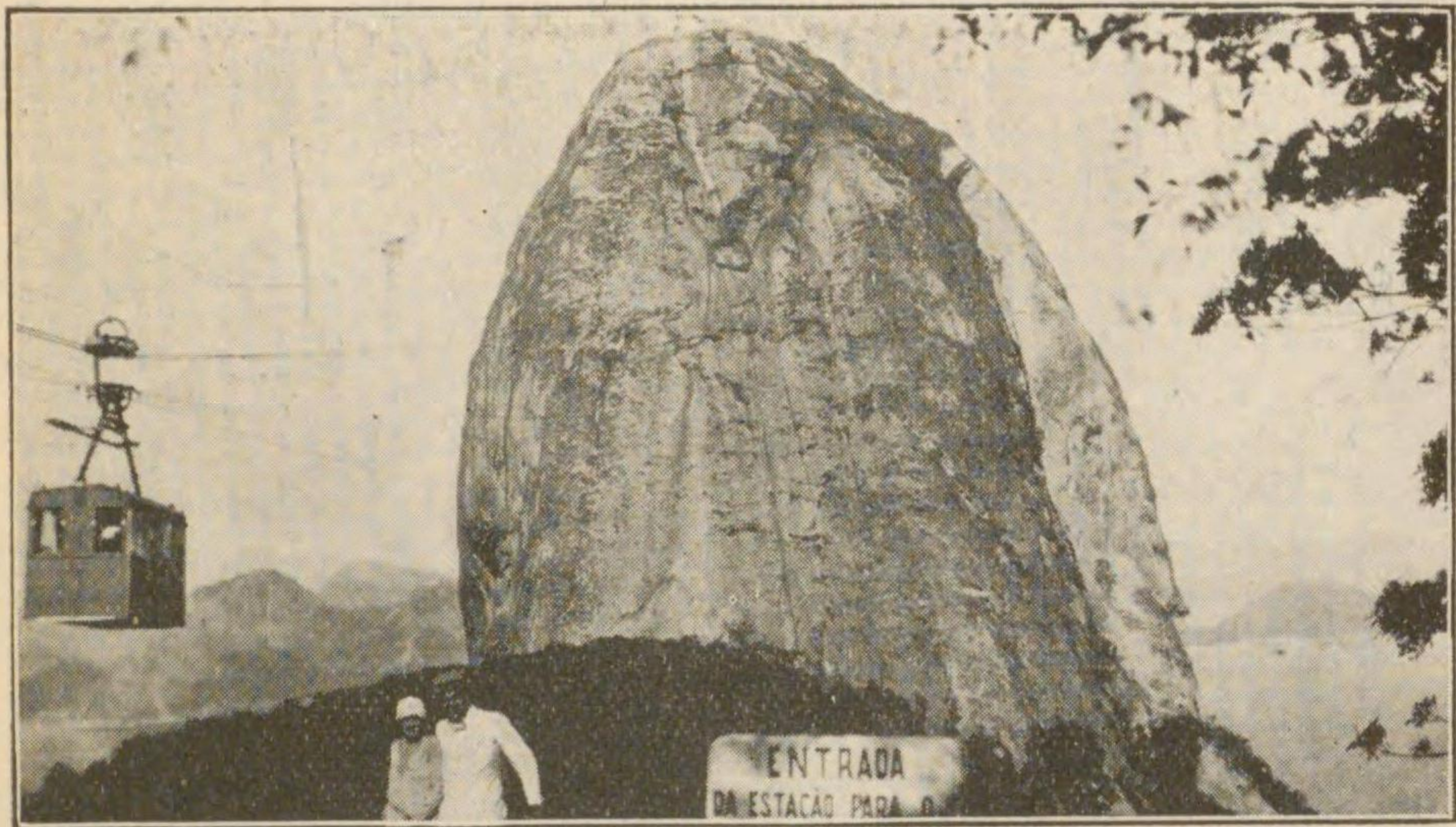
ブランコブラをして歩み疲れる時、程善い所にカフェーがあつて、盃位の小さな茶碗に一杯朝鮮人參のエツキス程濃い珈琲を啜る時の気分は、ブラジルならではの味はれぬものである。

砂糖の山 (寫眞はボンデアスカート それへ登る空中電車)

ボンデアスカート砂糖の塊と呼ばれる岩山へ、大使館の書記生金田氏の案内で坂本代議士と共に登つた。

上の寫眞に見える通り、砂糖の山の前に平たい万十の様な山があつて、ケーブルカー(日本のと違ひ空中電車とでもいふべきものだ)に乗つて先づこれに登り、次に又、砂糖山へ登る様になつて居る。多分直接砂糖山へケーブルを架けるのでは急勾配に過ぎる爲なのであらう。

坂本代議士は廿八貫といふ大男で柔道六段、擊劍免許皆傳といふ強のものであるが、生來至つて内氣



で女性の如き感じがする男である。第一の万十山に登る時から、目方が重いから鐵索が切れると命がないと計算をしたものか、空中電車は嫌だといふ。それを子供をすかす様にして乗せて万十山へ上ると、美しい街、海岸、港等の景色に見とれるよりは、いよ／＼高い所へ來たと怖氣出す。

次の砂糖山へ登る時には姿を隠して見えない。大使からの命令で案内して居る金田氏もこの名山に登らせなければ使命を果たさないとでも思つたのか、止めるのを聞かずに控し廻して無理に連れて來る。觀念したものが色を變へて登ることになつた。

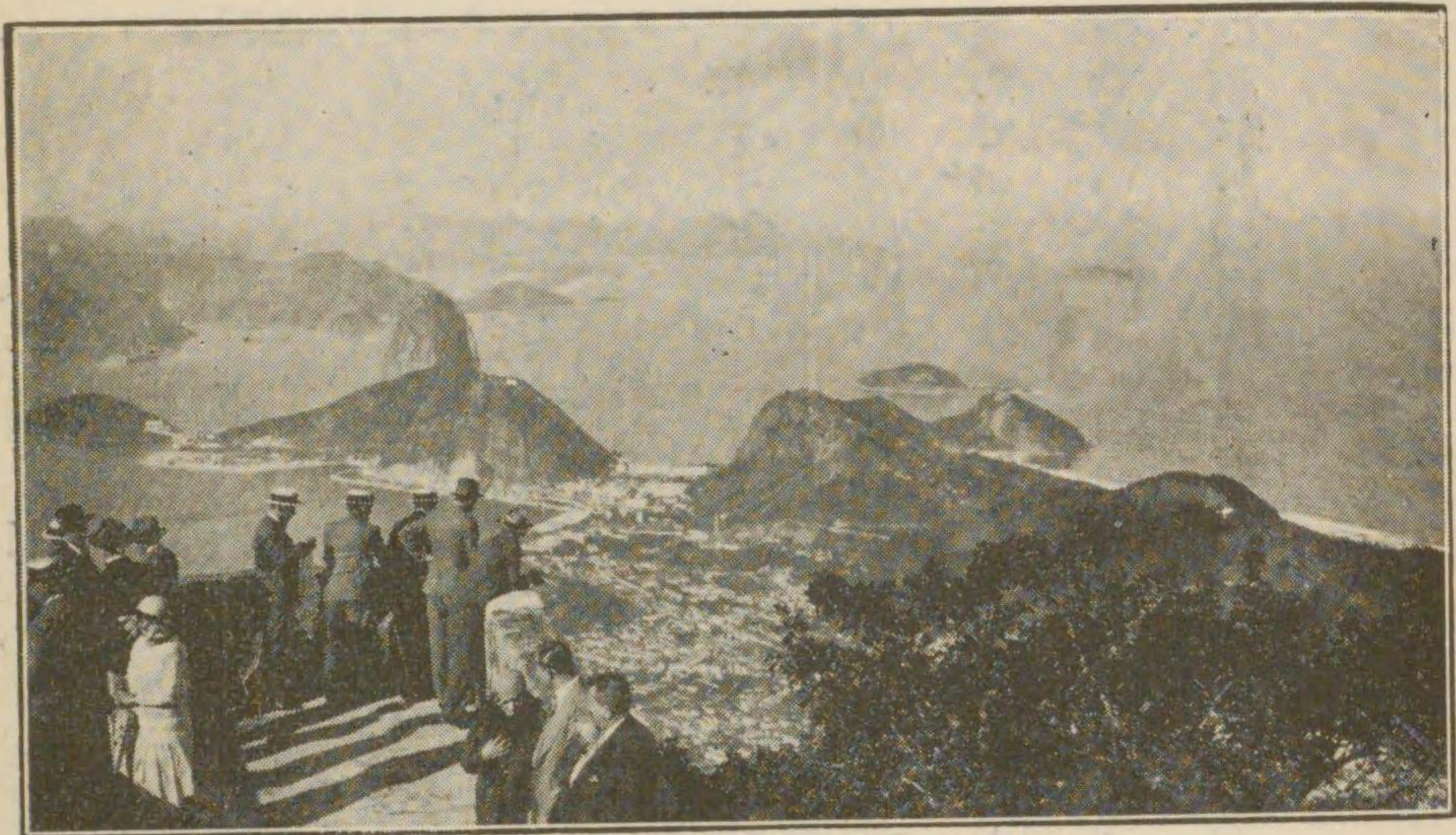
それ程ポアンデアスカは海の中から思ひ切つて飛び出て居る山である。此所へ登るとパラダイス宛然のリオ市が四方に展開して見えて居る。足下には左に陸軍の兵舎と日本へ來て以來大の親日家になつたモレーラ博士の病院が、又右には海軍の砲臺が見えて居る。

前面に相對してコンコバルト山があり、その左は白砂の濱が續き、右は山の伏起につれて點々と白い建物が大浪の中に踊る魚の白い腹の様に見えて居る。

コンコバルト (寫眞はコンコバルト山頂よりの眺望)

リオデジャネイロの眞の美景はボンデアスカへ登つて見るより、やはり一番高いコンコバルトへ登つて見るにある。丁度日本三景の安藝の嚴島の美しさは、あの須彌山の頂上に登つて見て初めて眞價を知るのと同様である。

リオのアベニダホテルの裏から出る電車に乗つて獨りコンコバルトに登つたことがある。この電車で小山の峰から峰へ順に登つて行く窓からの景色は又格別で、パラダイスを走馬燈に入れた様に、うねりながら走る電車の窓に、様々なリオ市の姿がころがり込んで來る。そしてコンコバルト山の中腹の所で



下から上つて来る電車（日本のケーブルカー）を待つて頂上へ登る。平日は日に二回しか出ないので、時間を知らなかつた私は三時間も待つて居て乗つた。

頂上に登れば一望よくパラダイスを眼下に見落ろせる。こゝから街の建物を見ればマツチ箱程にも見えず、港に入つて居る船は丁度玩具の船の様であり、海岸を打つ波が白い糸の動く様に見えて居る。そしてボンデアスカはこゝから見ると確かに砂糖の一塊程に見える。

この頂上には奈良の大佛が立つた位大きなキリストの像が今建設されつゝある。出来上つたら世界の名物を今一つ増すことにならう。

頂上の見晴台のある岩山には、日本では見受られない、シヤポテンや龍舌蘭等が、岩に附いて生えて居るのみで、他には木らしいもの、草らしいものもない。

街で暑い日も、この頂上に登れば暑さを取られてしまひ、時折雲に包まれて下界が見下せないことがある。

國會議事堂を見る

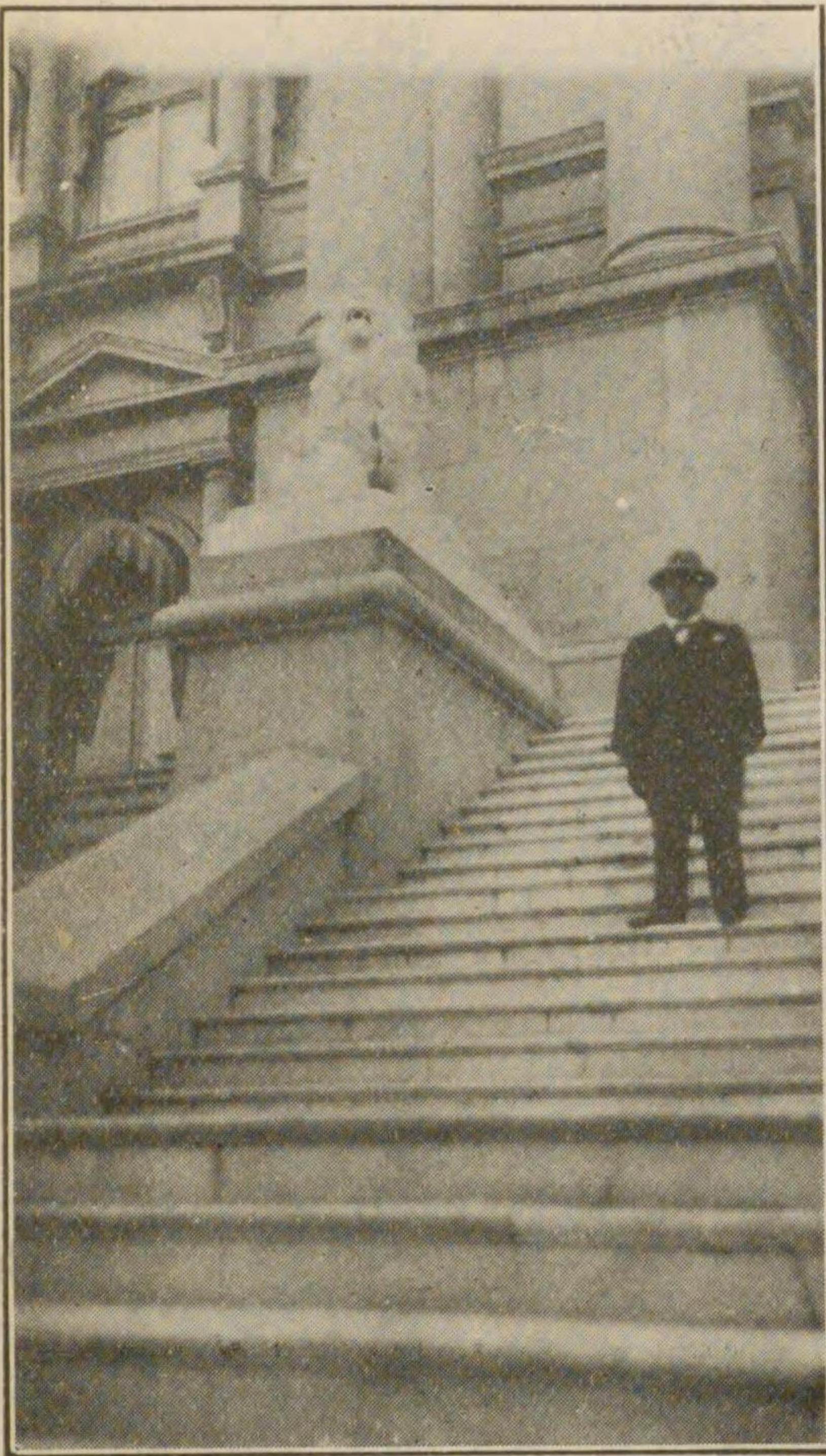
（寫眞は國會議事堂立てるは坂本代議士）

ブラジルは全國を二十州と一領土に分ち、行政權は大統領に屬し（任期四ケ年）立法權は普選に依つて選出されたる上下兩院より成る國會に屬す、上院議員六十三名（任期九ケ年、三年目毎にその三分の一宛づ改選）下院議員は二百十二名（任期三ケ年）である。聯邦司法權は十名の終身官を有する大審院を最高府とし、その下に控訴院、裁判所等があつて廣く陪審制度

を施行して居る。

先づ政治家を志す若人の血をおどらす國會議事堂を見る。

日曜なれど、番人が心善く案内してくれる。大きくはないが内部に圖書館もあ



り善く整ふて居る。

ただ代議士の演説する場所が議長席の前でなく一段下の兩側に出来て居て、議長席から見ると被告席といふ様な感じがする。日本の様に島國根性のない選良と見えてこの演壇で、長いのは六日も續けて演説しても野次らないのだといふ。何と大陸根性の呑氣さかと日本人の私は驚く。

それでも議長席について見ると右手に幾つもスイッチがあつてその一つを押すと破鐘の様な大きなベルがなる。之は議場を静める爲のものだといふ。日本でも眞似てこれを作るが善い。それに、珍しい硝子の圓錐形の尖を二つくつゝけた様なものがあつて、中に細かい砂が入れてあり、その砂が上の方から下へ落ちるのに五分、十分、三十分等、大きさに依つて違ふ様になつて居る。議長が時間を計るに用ふるのだといふ。

坂本代議士と代るゝ議長席に着いて、

「皆さんセイシコに願ましゆ」

と、日本の衆議院議長藤澤幾之進氏の東北辯を眞似て見る。

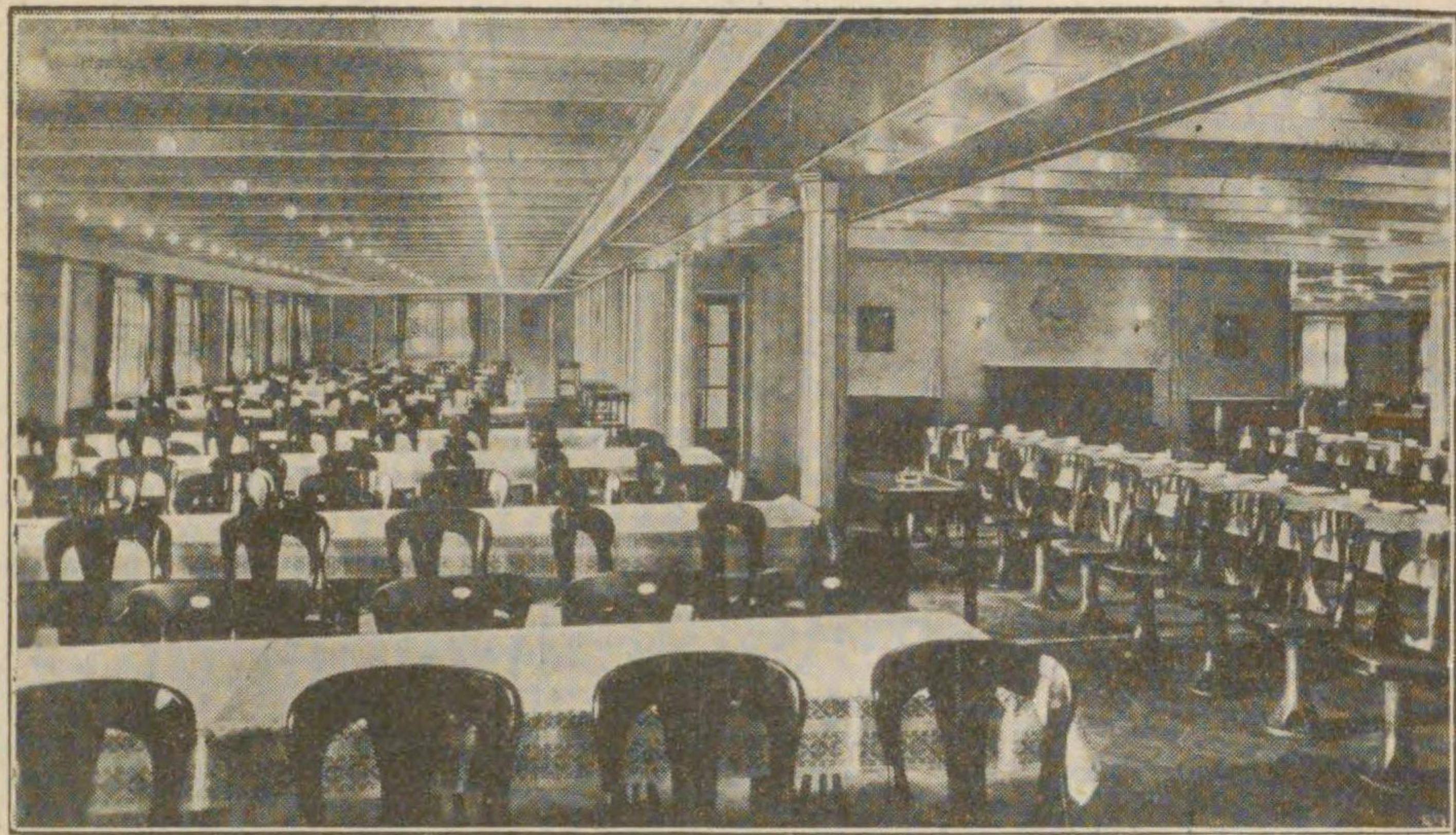
ドイツの移民船

(寫眞はモンテサルミ)
(エント號の食堂)

リオ市滞在中、新造のドイツ移民船が入つたと聞いて一人これを見に行く。

入口に立つて居る事務員に名刺を出して來意を告げると、特に英語の上手な事務員を呼んで案内役に付けてくれる。

案内役は先づ第一にこの船は移民の爲に作つたもので三等以外には室もなければ客も取らないといふ室は全部キャビンになつて居て、日本船の様に追込式のベットが球數つなぎにはなつて居ない。一室二人乃至八人に分れて居る。其ベットの數實に二千五

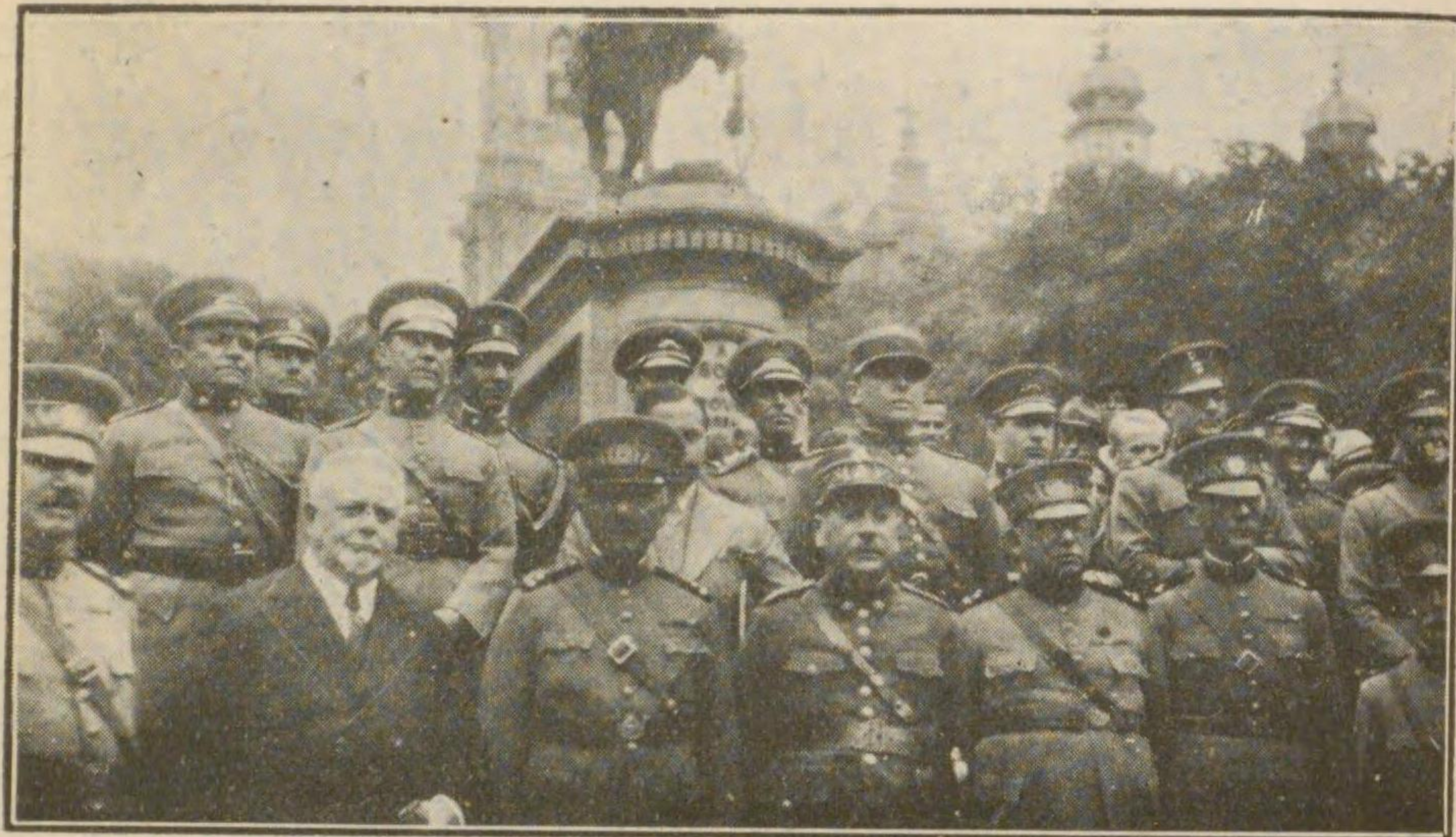


百、日本船の一番大きなものゝ二倍である。勿論このキャピンは甲板より下に出来て居る。甲板面は前部食堂、一脚毎に番號の付いた椅子が定着してある。二階は全部サロン、ピアノもあれば音楽場もあり、ダンスホールもある。又手紙を書く人の爲に一個づゝ板で圍つた机があつて人に見られずに戀文も安心して書けるやうになつて居る。

リオ市へ着いた夕方なので嬉しい爲か女や子供までビールを呑んで歌つたり踊つたりして居た。尤もビールは獨逸では御茶同様に使つて居て下戸の私は獨逸で大いに困つたことがあつた。

この船の噸數は一萬四千噸、獨逸のハンバークからブルジルのサントスマまで僅に十一日間、實に恐ろしい快速力を持つて居る。船賃は皆一定で日本金なら二百二十圓。

ブルジルの南三州、即ち、パラナ州サンタカタリナ州及びリオグランデドスール州が全く獨逸人に依つて左右されて居るとのも故あるかなである。



共和記念日

(寫眞はその日に集つた陸軍の巨星)

十一月十五日はブラジル共和確立記念日に當るの
で觀兵式が行はれる大國祭日の一である。これに參
列する爲に隣邦ウルガイからアーユチロー・オロ
ブといふ陸軍大將が來た。そして、その前日パラガ
イとの戦争の時に勳功をたてたオソリオ將軍の銅像
へそのオロブ將軍が花輪を捧げてなき將軍を弔ふと
いふ事を聞いて、大きな寫眞機をさげて見物に行つ
た。

オソリオ將軍の銅像の前にはすでに陸軍の軍樂隊
が來て、物視高い街の人が黒山になつて居る。

こゝぞと思つて奇智をめぐらし、大きな寫眞機を開いて人込の中へ割込んで行く。多分新聞記者とでも思つてくれたのであらう。皆道を開いてくれる。適当な地歩を占めると大將の來るのを待つ、來るはくは陸軍の金ピカの巨星が自動車の度毎に吐き出される。大將が都合三人中將、少將數知れずの盛觀の初め寫眞を撮らうとすると副官らしい男が來て

「君はバラガイ人か」と聞く

「左様じゃない」といふと

「支那人か」と問ひ返す

「いや日本人だ」と答へると流石に軍人だけあつて、日本人と聞いて敬意を表し寫眞を撮つてよいといふ。

なる程、見て居るとブラジルの大將でも大將らしい顔をして居る。身分が顔を作るものか、顔が地位を得るものかなかく堂々たるものがある。

大陸根性の一面 (寫眞機埋立てた海岸)

生物は皆その環境に依つて性質付けられて居る。ブラジルの馬は日本の馬の様に瘤高いことがない。馬のみではない、人間までが大陸的な、悠長な氣分の者が多い。氣の短い日本人もこゝしたブラジルに生活して居たならば、きつと應揚な、呑ん氣な者になつて行くであらう。

しかし三ツ子の魂百までだから、日本生れの日本人一代の中では、如何程ブラジルに居ても純粹なブラジル人種の悠長さは出來上らない。日本から取りよせた南瓜の種も二代位までは日本同様な形がして味もよいとの事であるが、三代目位から形が變りだして、遂にはブラジル南瓜の様に瓢箪形になつて味



もブラジル物の様によくはないといふ。日本人も同様二世三世となつたら、日本の嶋國根性が全く無くなつて、日本では見られぬ大陸根性になつてしまふだらう。

大陸根性の特徴は善くいへば應揚な、辛棒強い點にある。悪くいへば、呑ん氣な、間の抜けた、算盤勘定を知らないことである。

寫眞はブラジル人の大陸根性の一面を物語つてゐるものである。これはリオ市の一部を山の上からとつたもので、御覽の通りリオ市は山と山の合間に街が作られて居るのであるが、海岸を金かけて埋めたてゝも、街にせず、恐ろしい廣い道路——米國のシカゴやワシントンにある公園兼道路ともいふ可きブルバード——にして喜んでゐる。東京の宮城の濠を埋めて市營住宅を建様とした島國根性と比べて雲泥の差があるではないか。

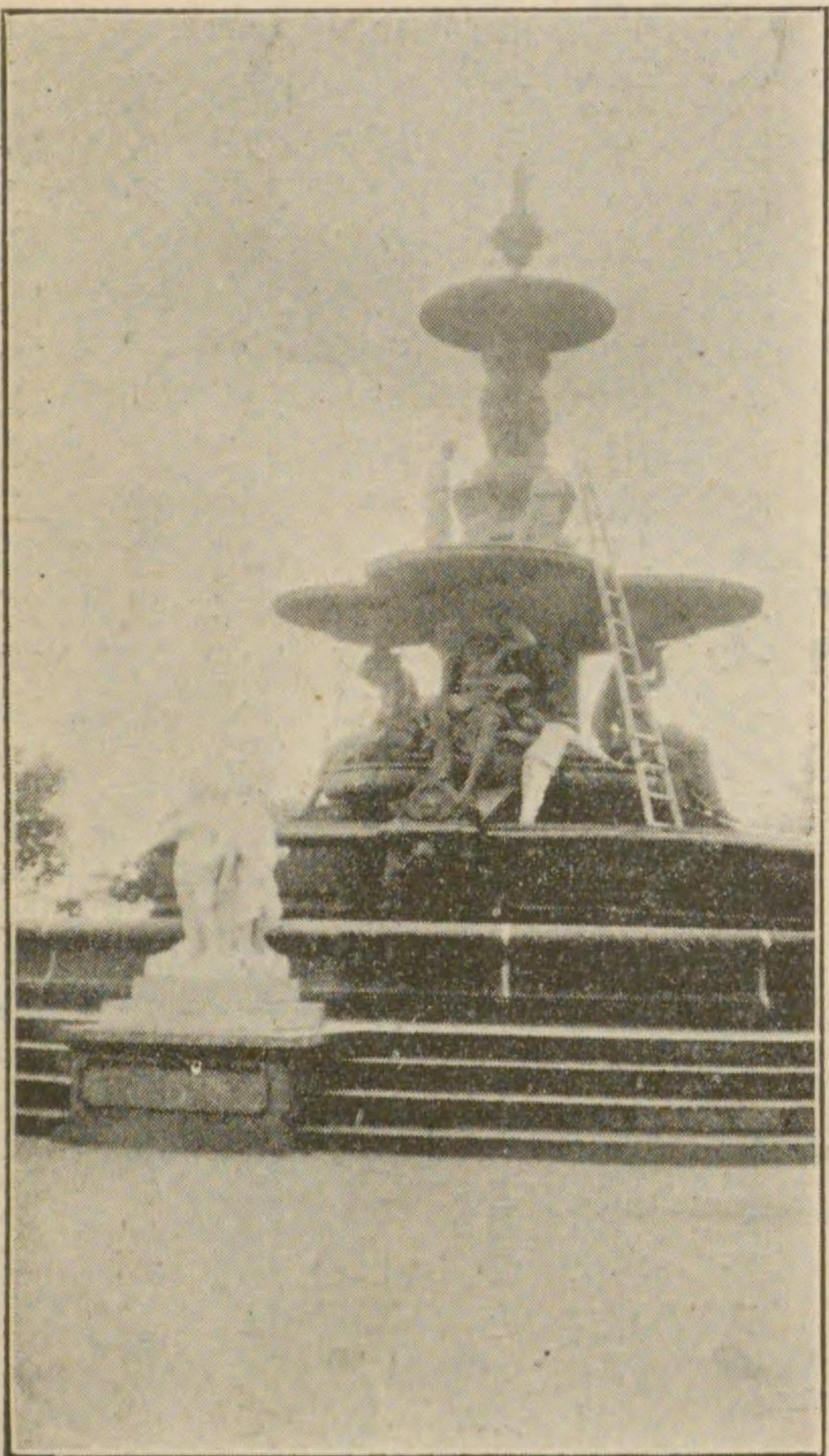
大陸根生と云へば、サンパウロでは、電車の車掌が停留所へ電車を留めて置いて、水呑や、御用を達しに行つて居る爲に、何台も後に電車が留つて居るのを何度も見受けた。客も日本の様に怒らず、煙草でも吹かし乍ら靜かに待つて居る。——日本國民にこれだけの悠長さが加つたら、日本も最う少し善い國になるだらう。

厄介な黄熱病

(寫眞は噴水の水を消毒して居る所)

日本に居てブラジルの話を聞いてゐると種々に傳へられて居て、果してどれが眞實かと迷ふ位だ。

實際に來て見ると、どの話とも違つて居る。それは第三者の立場になつてブラジルを見、且つ批評し得る者の渡航者が少かつた爲と見るが穩當であらう。



私は日本に居る時黄熱病はアマゾン流域へでも行かなければないと聞いて居たが、來て見ると、どうして首府リオ市の眞ん中で黄熱病騒ぎをやつて居た、しかし丁度日本のコンラ騒ぎと

同じ事で死体が道にころがつて居る様なものではない。

私もその時、リオ市を見物して歩いて居たのであるが、見受けるものは物々しい衛生隊員の活躍のみであつた。街に赤い十字を染抜いた小旗が諸所に立てゝあるので何の印かと、聞いて見れば、黄熱病豫防の爲に衛生隊が、ぼらふら退治をして居るのだといふ。何でも黄熱病を媒介する蚊は、下水や、溝ではわからない清水の中で育つといふのだから厄介である。

水といふ水は飲用水以外、一週間に二度何づつ衛生隊員が来て殺虫剤を入れるのだといふ。

寫眞は公園の中の噴水塔へ登つて衛生隊員が殺虫剤を入れて居る所である。

黄熱病の研究半にして犠牲になつた野口英世博士こそ、惜みて餘りある人である。現在唯一の治療薬は同博士發明の注射液あるのみといはれて居るが、それも尙未完成の物であるのとことである。

キ モ ノ (寫眞はリオ市に於ける吉永哲丈君)

一行の一人が一船おくれて、商船のラプラタ丸で来た。その頃丁度リオ市に居たので、この船で来て居ようとは知らずに海岸通りに向つて歩いて行くと、日本服の男が外國人に取りまかれながら歩いて来る、見れば一行の吉永君である。

案内かたくりオ・ブランコ通りを一緒に歩くと、忽ち人の黒山が出来て右にも左にも動か



れない。恐らく殆めて見るキモノなのであらう。サンパウロの邦字新聞は後でこの事を聞いて、着物で歩いたと非難して居たが、私はそれも程度問題で、相當な身なりをして居たら却つて親しみを付けるものだとい

ふことを、このキモノの男と一緒に歩いて悟つた。キモノが彼等の嘲笑の種になる以上に珍しく、而も皆絹で出来て居る事に依つて非常な驚きと羨ましさを持つて見て居た。

實際、日本から来る人が皆キモノでどん／＼サントスへ下りる様になつては大問題であるが、たまに来る訪問者が、日本風俗、日本文化を上手にブラジル國民に紹介することが出来たら兩國民により一層の親し味が付くと思ふ。

現に一昨年慶應義塾の大学生が十數名來たことが、一つの親しみを付けて、サンパウロの大學生が日本訪問を仕様として折角準備中だと聞いて居る。

服装の相異は文化の相異を物語るものであるが、キモノの文化が直ちに洋服の文化より劣ると思ふのは早計だと思ふ。

世界の人々は最近になつて、キモノ、パツピ等を知つて來たのみだ。未だ佛教も、儒教も知らない、日本の劇と音楽が繪畫につれて外國へ出様との機運が出来て來たのは嬉しいことだ。

若し實際に有のまゝに日本人の生活の善い部分を外國人に傳える事が出来たなら、日本人に對する誤解も排斥も少くなるだらうと思ふ。

廣告のいろいろ

(寫眞はリオ市所見
の果物店の陳列)

廣告とか、宣傳とかは確かに時代の武器になつてしまつた。

日本も可成り廣告の時代に入つて來たが、米國や英國に未だ比すべきを得ない。

廣告の方法には勿論種々なる方法がある。そして國民性に依つて幾分の相違もある。米國に於ては、主として繪を用ひ、英國に於ては主として文字を用ひて居る。今度ブラジルへ來て、然も首府リオ市を歩いて、この國民の廣告方法の特徴を求めて見るとやはり血は争はれぬもので、ラテン系をたどつて、佛國パリーのそれに類して居る。



繪も文字も用ひて居るが、最も巧なのは實物を生かして見せる陳列にある。

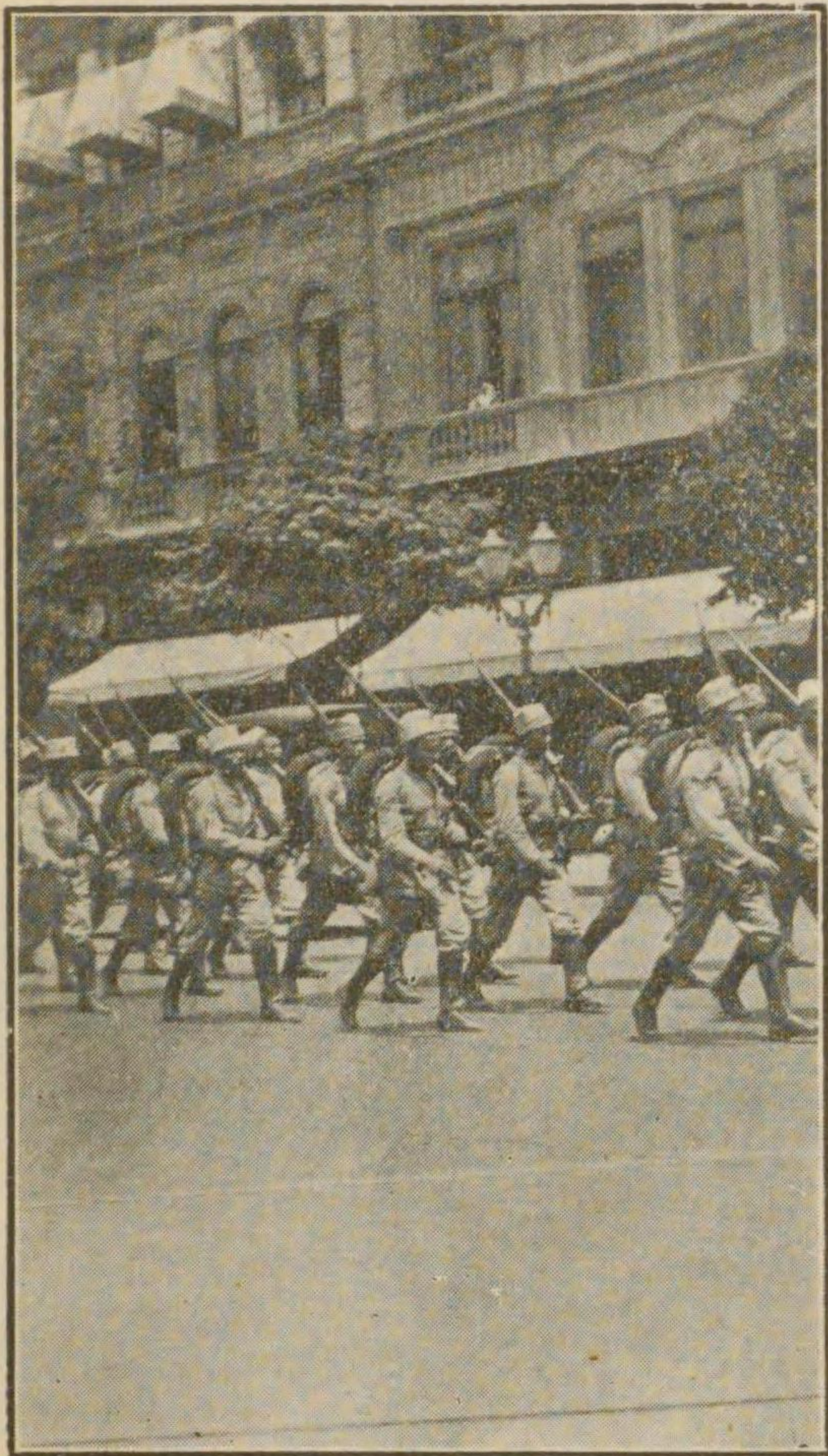
左様した方法は最る廣告とは見られないかもしれないが、しかし廣告が一つの記憶力を通じて目的を達するに反して、實物を上手に陳列し、より以上に心を引かせる如き方法に依つて同じ目的を達することは販賣の上に於ては同價値を有する。そしてその何れを選ぶ可きかは、商買如何に依るのであるが、その一面にはその國民性に依る所が甚だ多い。

なる程、實際に美しく上手に陳列されたのを見る時には、美しい繪、巧な文字で現された以上の魅惑を感じる、そしてそれが實質以上に及んで居る時之を廣告といはず、宣傳といはずとも同じ作用を起す表現たることを認め得られるであらう。

世界各都市の陳列店を覗いて歩いた私は、ニューヨークやロンドンのそれにも勝り、パリのそれに相似たるものゝあるのをリオ市で見出したのである。そしてそれは國民の天性の如らしむる所なのである。

兵隊さん (寫眞はリオ市街を行軍する歩兵)

或る學者は強國の要素をその國の富、軍隊及び國民の愛國心の三つに置いた。然し私は思ふにそれは三つの總和の如何にあるやうである。何故なれば、英國の如く三つ相當に揃つてゐる國は別とし、米國や日本のやうに一つの要素の及ばざるものを他の要素の優越に依つて補つて居る國もあるからである。



この點から日本はあわてゝ國民教育の方針をかへて愛國心を變化させることも、軍隊の組織、制度、内容をかへて度外れて愉快なものにして仕舞ふのも考へさせられる。

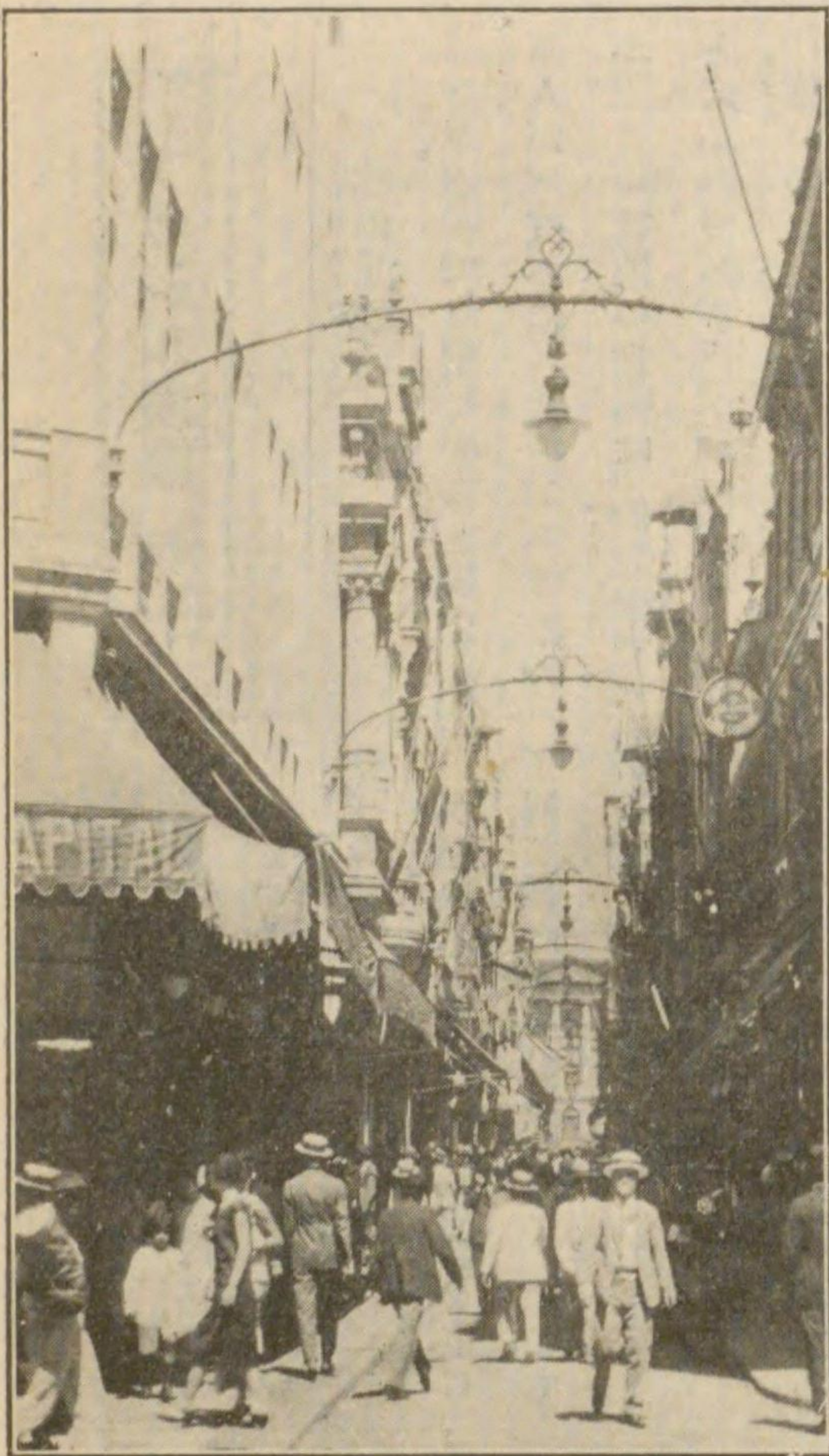
ツエペリン伯飛行船の世界一周に教へられる様に、人間は加速度に國際人、世界人となりつゝあるのであるが、決してそれと同じ速さを以て利慾心と鬭争心が、喪はれつゝあるのではない。

ブラジルが大きな國土と豊かな物資とを持ちながら、香氣極まる兵隊さんと、我儘勝手な國民としか持ち得ないことは少くもこの半世紀間に於て、ブラジルの國際間に於ける他位を今日以上に期待する事は出来ないであらう。

ブラジルの陸軍は一九二三年以來徵兵制度を施行し、公民は二十一才から四十才まで兵役の義務がある、平時の服役は第一線及び第二線にわかれて居て、第一線は二十一才より三十才まで、第二線は同じく三十才から四十才までとなつて居る。現役は第一線の内一ケ年乃至二ケ年である。

其他は、各州が随意に州兵と云ふものを作つて居る。主として雇兵で、州内の治安維持に任ぜられて居るのである。

オビドール街 (寫眞はその街の賑ひ)



オビドールを帶通と書けば、その意を得る様な、外國の市街には珍らしい狭い通りである。しかし、リオブランコ大通に次ぐ有名な賑な街で、大阪の心齋橋筋とでも云ふ様な通りである。人間は妙なもので、狭い街を賑にする習癖がある。群居の本能から来るものなのであらう、少し人込がすると、益々増加して、愈々雑踏するものである。若しそんな通りを廣くでもしてしまつたら、それが最後で必ず淋れて行くに決つて居る。東京の震災後廣くなつた下谷の佐竹通(昔の竹町通)が、令ちや昔の面影がなくなつてしまつた。 「帶通」何人も人込に混つて往來した思出の街である

ブラジル漫談 (四)

嚏の見舞

ブラジルでは嚏をすると居合せ
る人が、直ちに「サルト」と云
ふ。この言葉の意味は「御健康で」
と云ふのである。

嚏の時に見舞をして置いたら風
邪も引くまいと云ふものだ。

敬神

寛博士は電車に乗られて居ても
御宮の前を通られる時は、必ず脱
帽して敬禮されると聞いて居るが
ブラジルでは誰しも教會の前を通
る時は、電車の中でも帽子を取つ

て敬意を表する。

教會は殆んど街の辻毎にあるの
だから、少し長く乗る時は何度も
帽子を取らねばならない。

私達日本人も彼等の習慣を重じ
て同じ様に帽子を取ることにして
居る。

靴だけは光る

ブラジル人は仲々御洒落者であ
る。日曜等には、どんなに繼の當
つて居る洋服を着る身分の人でも
正しく折目をつけて、ブラシがか
けられ居るし、靴だけは必ず磨き
上げて光つて居る。

香水は日用品

或るブラジル育ちの日本青年に

「君は馬鹿に香水をプン／＼させ
て居るね」と皮肉ると、

「朝使ふ齒磨、好きで呑む煙草等
と同様、使えば心地が善いですか
らな」と答へた。實際ブラジルで
は香水は日用品である。

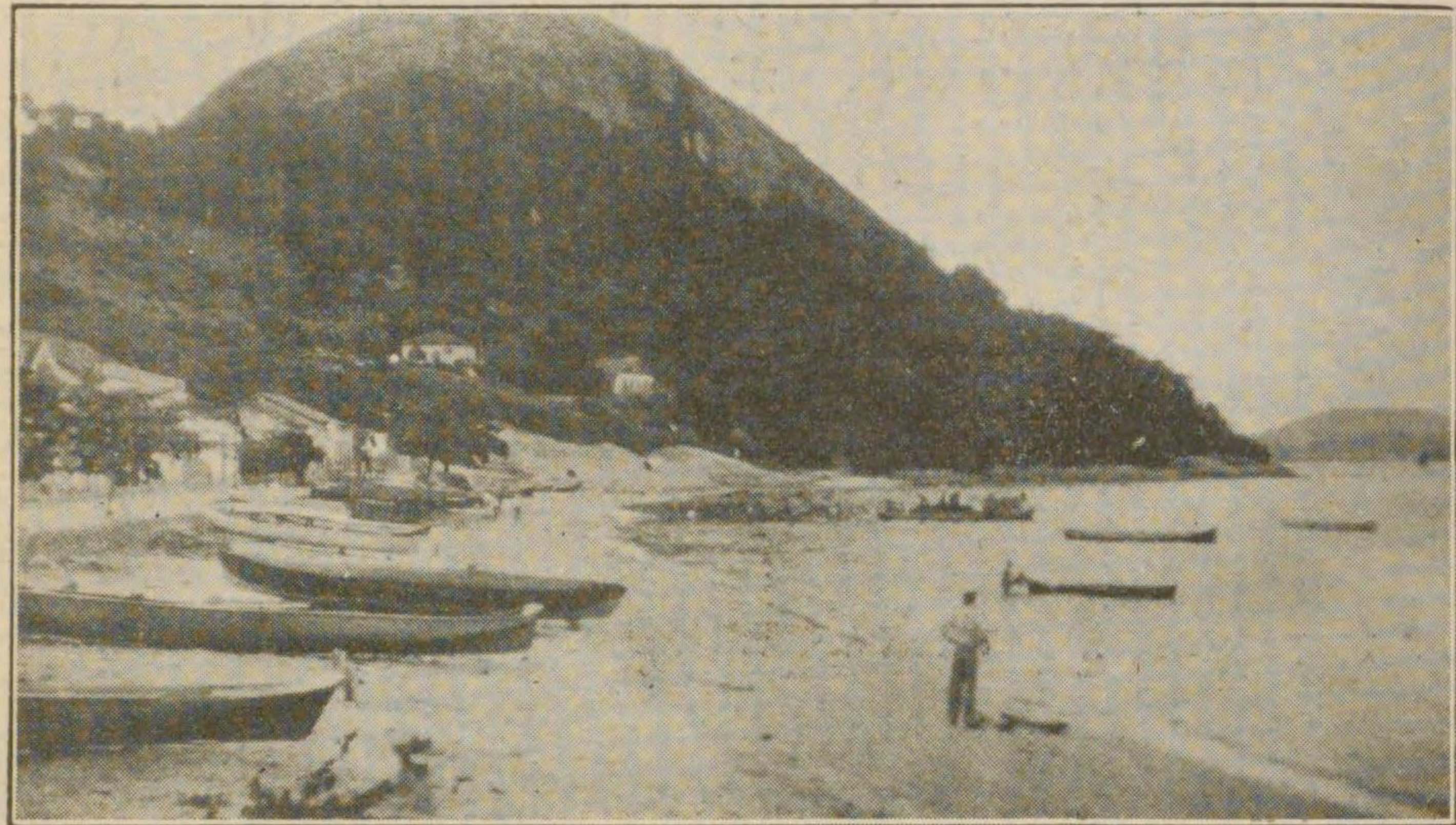
サンパウロ戀し

ブラジルから歸つて、東京の夏
を迎え苦熱に苦しめられ、涼しい
サンパウロ市が戀しくなつた。
實際サンパウロ市の氣候は善い
と熟々思ふ。

不景氣語

ブラジルも御多分に洩れず大不
景氣。而も流行語が「ピンドラサ
ヤ」腰巻を捲くるでは、いやはや

夢の岡デ・アルテイアに
山縣鹽田を訪ふ



ニテロイ市の宿 (寫眞はニテロイ市の海岸の一部)

坂本代議士をオランダの船で英國へ送ると、私は淋しい一人旅になつた。同時に重荷を下した時の様な氣輕さになつた。

正金銀行の支店に預けて置いた靴を受取りバルコ(渡船)に乗つて、リオ市の對岸のニテロイ市へ渡つた。翌朝七時の汽車でデアルディアの山縣氏の鹽田を訪ねる爲にそこに宿を取ることにしたのである。

ペンソン(安宿)のアルメダといふのに泊つた。鹽田の人達の常宿とかで言葉は十分に通じなくても親切にしてくれる。

床を作りに来た黒人の青年などは親しげに私の部屋で何時までも話して居て、近くに音楽があるから一緒にきくに行かぬかと頻りに進める。けれど断つて獨り部屋に閉ぢ込もつて、久しぶりで冥想到耽けることにした。

遠い異境の空の淋しい宿で、獨りベットの中で想ひに耽ける程哀愁の氣分に浸り得ることはない。そして、その氣分こそは、世界を家とする者が常にそれそのものを味はひ度いばかりに、遠い異境に一人旅を試みるのだとさへ思はれる所のものである。七十幾才の老クロボトキンが南歐の淋しい一旅舎に、何人とも人に知られず静かに瞑目したその事はやがて世界を家とする者の老いた將來に丁度同じ様にあるのだとさへ感ぜられもした。

最う十年前前にいとしい母親をなくした時の悲しみが、そつと窓から忍び込んで三十路を越した私の枕を濡すのであつた。最うこの世には影も形もなくなつて居る筈の母親が遠い南米の旅舎にまで、ハートのアンテナの響につれて胸一杯につまつて來るのであつた。

私は何時迄経つても母親——永遠に歸らぬにしても——に對しては可憐の子供なのだ。

夢の岡 (寫眞は夢の岡所見)

ニテロイのネーヴェス驛で汽車に乗つてから五時間、その間は手のつけられない雑木林であるか、牧場かで、稀にバナ、や密柑の作つてあるのを見受ける位のものであつた。汽車が驛に着く度に附近に住む人達が馬に乗つて新聞を買ひに來る。皆丁度活動寫眞に出てくる米國中部地方のカーボーイの様な恰好をして居る。

終點のイグアベ、グランデで下車して乗合自動車に乗替へる。

自動車は海岸の波打際の砂原を走つて行く、物珍らしいシヤボテンが海岸に緑の垣を作つて居るかの



様に、人丈の二三倍にもびて立並んで居る。

約一時間もすると、海岸傳ひの岡の上に五六十軒の家が一つの教會を中心にして、軒を並べて居る。静かな夢みるやうな田舎街である。

豫め自動車の運轉手に頼んで置いたので

「デアアルダイヤだから降りなさい」と教へて呉れる。

鞆を提げて降りると街の子供達が

「ジャポネス〜」と口々にさゝやく、旅人らしい私の姿が特に彼等の目を引いたのであらう

其時、麥藁帽子を被つた日本人らしい青年が素足のまゝで街を此方に向つて急いで来る。

私は多分山縣鹽田からの迎えの人だと思つて喜ぶ。

青年は帽子をとつてお辭儀をする。街の子供の笑つて居るのも忘れた様に私も頭を下げる。

青年は私の鞆を引取ると、

「鹽田は極く近くですから」と云ふて先に立つて歩き出す。

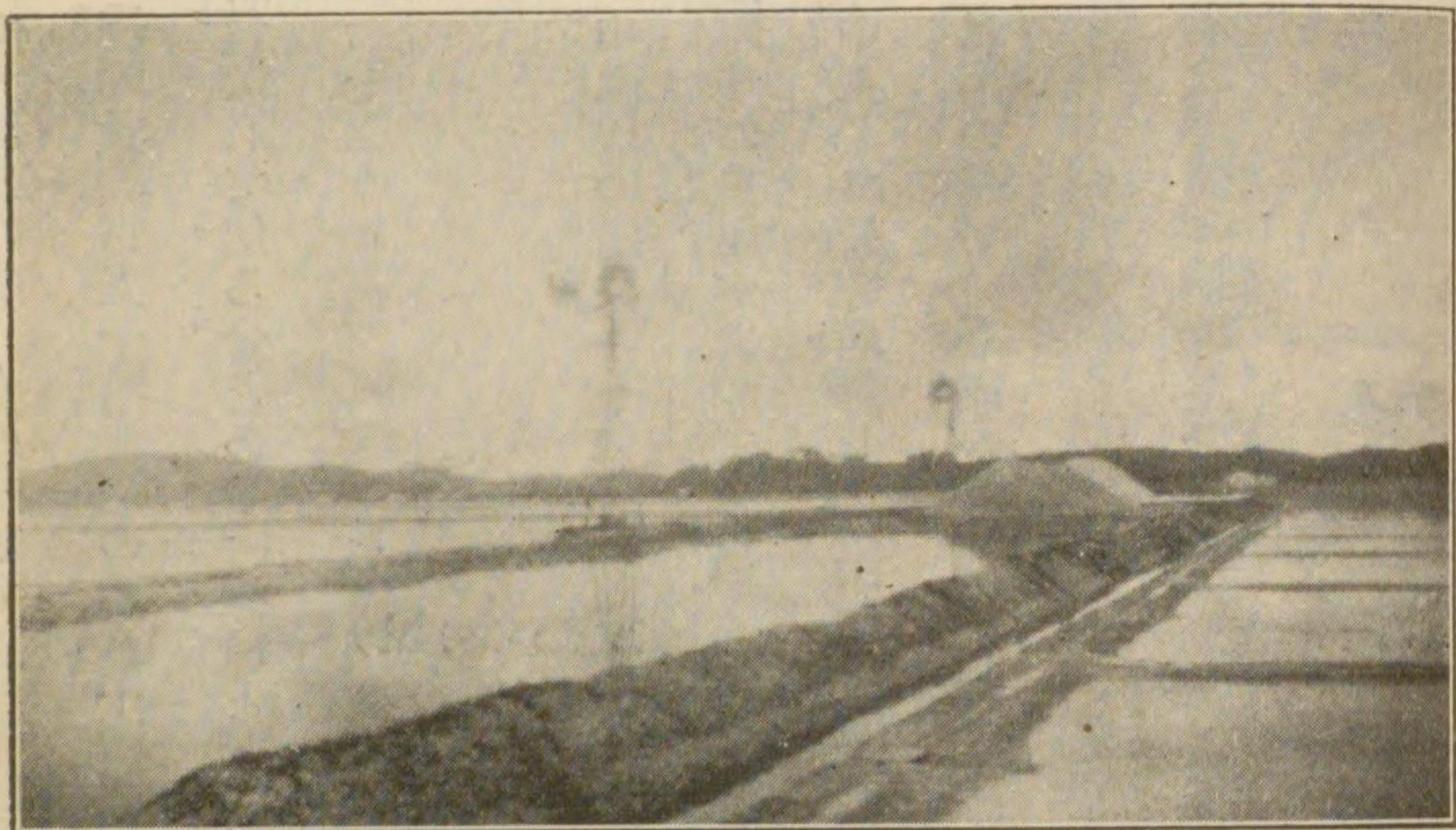
夢の岡、夢みる街、夢心地で私も歩く。

故山縣勇三郎氏の遺業

(寫眞はその鹽田)

雑木の繁つた中を通つて居る道を七八町程行くと荒い柵のめぐらしてある牧場の前が出る。案内の青年は「こゝです」といふてS字形に牛馬の出られぬ様に作られて居る入口に入る。のんびりと廣い牧場は一方は向ふの岡まで、他方は延びて海岸まで續いてゐる。その一隅に果樹園に取りまかれて、平家作りの鉤形の建物がある。これが鹽田の事務所でもあり、又住家でもあるのだ。

家に入ると、最う五十を越えた老母が愛嬌よく迎えてくれる。この方が山縣勇三郎氏の未亡人信子刀



自で、同氏歿後、女の細腕で遺業を繼續されて居られるのである。

總坪數約百五十町步その中八十町步程が鹽田になつて居る。鹽田も直接經營して居る分と、請負はして居る分とある。鹽田としてもこの附近では大きなものゝ一つで年に約七萬俵（一俵は七十二キログラム入）を産出する。十年程前に三十數萬圓で既製のものを買取つたのだといふ。

山縣氏の遺業としてはこの外に、其處から十餘里離れたアルメダペレイラといふ所に約四千餘町步の農場があつて、以前は盛んにピンガ酒（甘蔗から造る）を作つて居たのであるが、今は中止して留守居として二家族五人の人達が住んで居るのみであるといふ。

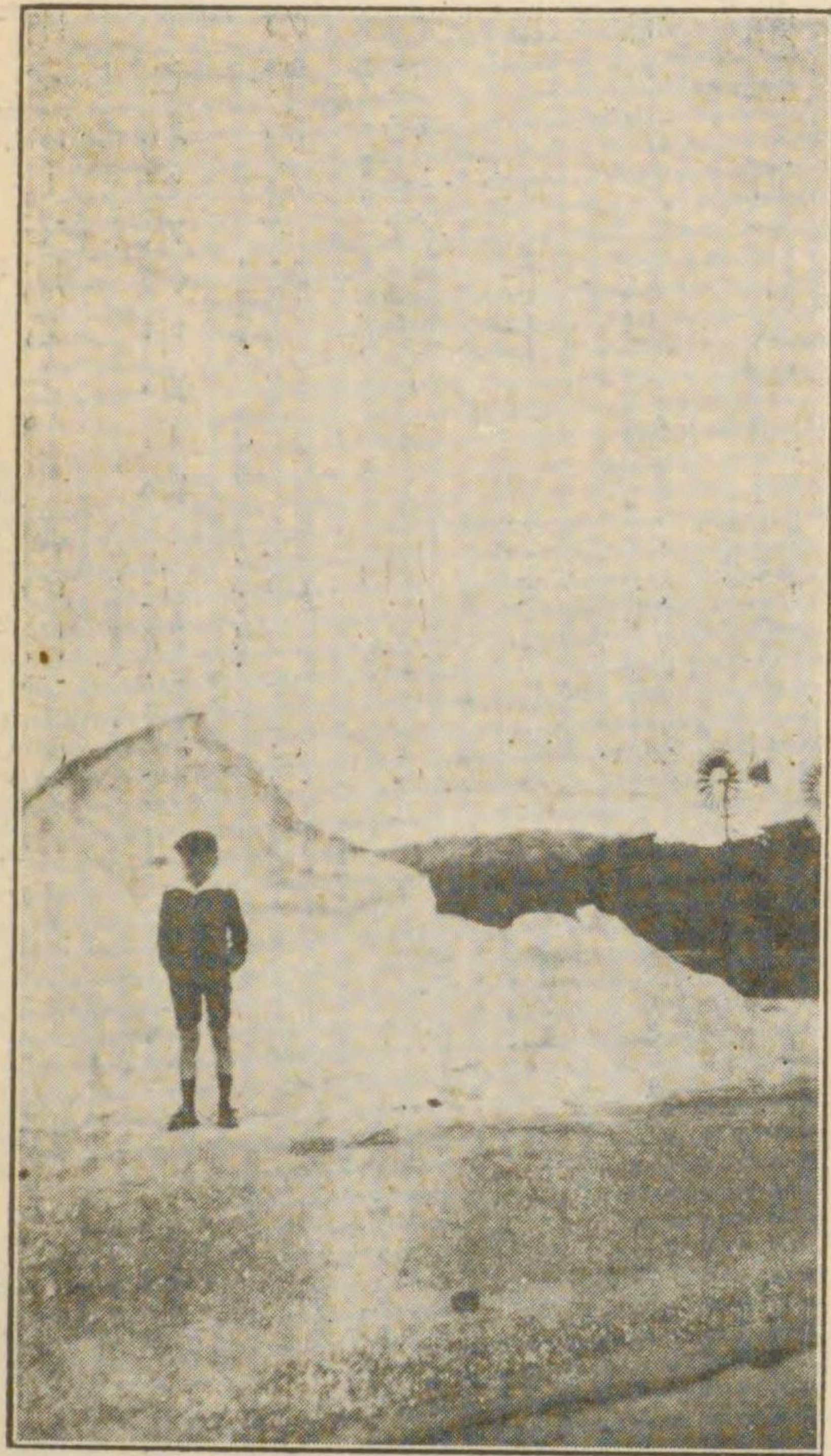
私達の船で、令嗣の操氏が一緒に來たので、同氏に進められてこゝを訪問したのであつた。

天日製鹽

（寫眞は鹽の山とブラジル少年）

南米航路の船が最初に南米大陸の影に接する所がカボ・フリオ（涼しい岬の意）である。この岬の所に僅十五間位の入口を持つた奥行四里、幅一里弱の内海ラゴア、アラルアマといふのがある。

此の内海は極く淺くて入つた海水が蒸發し、殆んど鹽分の飽和状態に近いまでになつて居る。



この海水をタバチンガと稱する白色の粘土質の土とこの附近の海底に澤山ある小形の貝殻とでかためた鹽田へ風車でくみ込み、三寸位の深さにして五ツ六ツの

田を流して居ると、最後の田で海水中の鹽分が結晶して鹽になるのである。

これを水の中からかき上げて約三四ヶ月程、水分と苦鹽とを浸出させ、且つ乾燥させて賣るのである。結晶は大豆位の大きさで中には梅の實位大きなものもある。

この鹽は精製して食用にすることもあるが、多くは結晶を粉にして牧場用に供するのである。一俵(七十二疋)ニミル(一ミルは約二十五錢)乃至五ミルを上下してゐる。一俵についで

の消費税を調べて見ると、國稅一ミル四百レース(千レースが一ミル)州稅百六十レース、郡稅(百レース)他に運輸稅も加はるといふ。消費税と輸入稅で國家經濟を立てゝゐるブラジ

ルの一面がこの一事からも窺はれると思ふ。尙鹽田業者の販賣組合ができてゐて現在は一ヶ月の賣高を制限してゐるために、値の安い上

に野積みの鹽を雨に流してゐる有様であつた。鹽は皆カボ・フリオの町まで運ばれて、其他で賣買がされるのである。

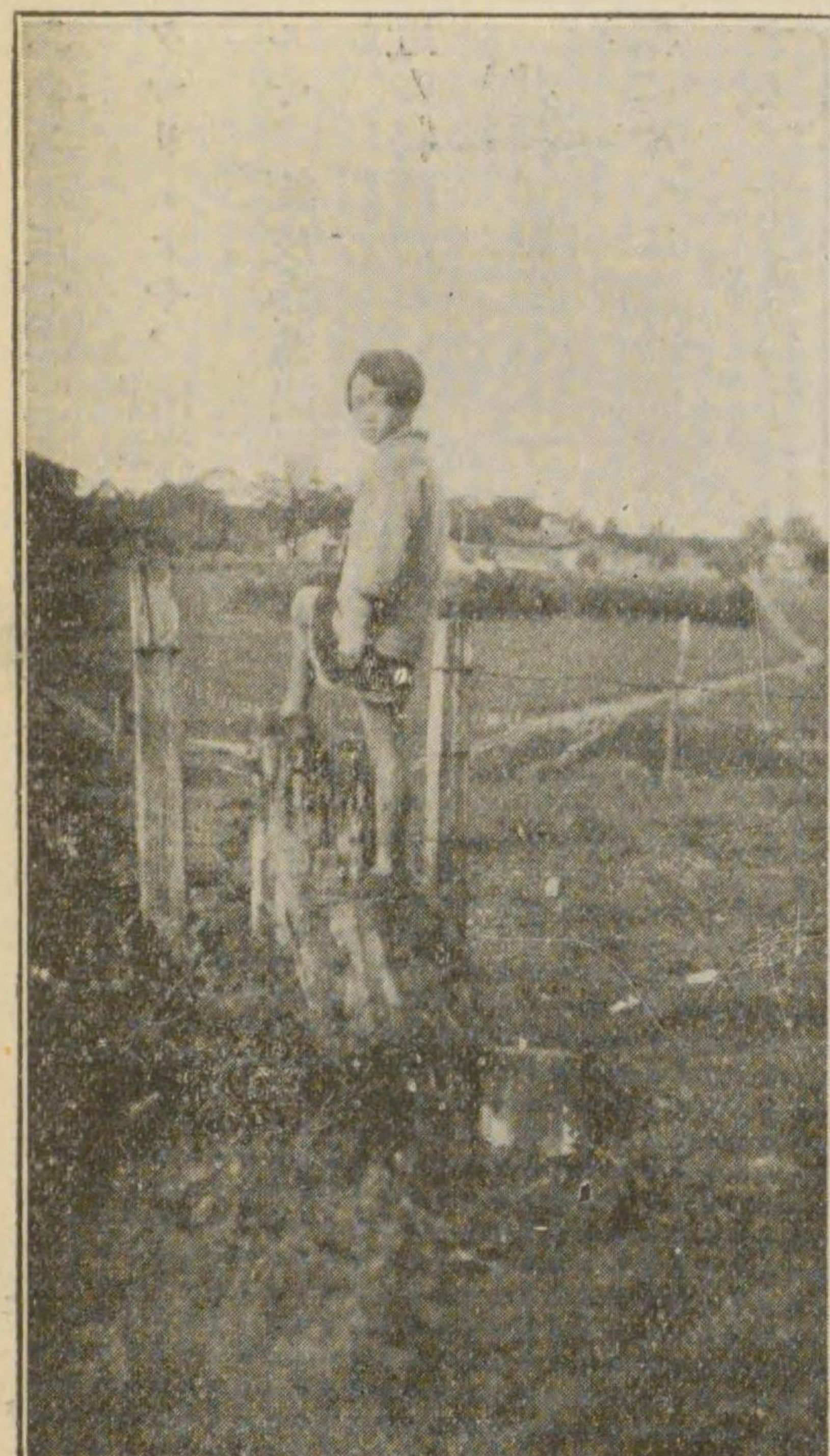
果樹園 (寫眞は牧場の柵を越える踏台と日本少女)

山縣家には十才になる末女の、のり子さんといふ可愛娘さんがあつた。デ、アルデイヤの公立小學校の三年生で、最う近く卒業するのだといふ。(田舎の小學校は二年乃至三年である)

十時の朝飯が済んでから(食事は朝十時、夕六時の二回のみ、それに早朝と午後とにカフェーとパンとを二回攝る)學校へ行く。日本語よりはブラジル語の方が達者で、日本人の私を相手に遊ぶよりは、ブラジル人を相手にする方が愉快らしい。

それでも着いた日には一日私を果樹園に連れ廻つて珍らしい物を見せて呉れた。

日本では台灣や琉球にの

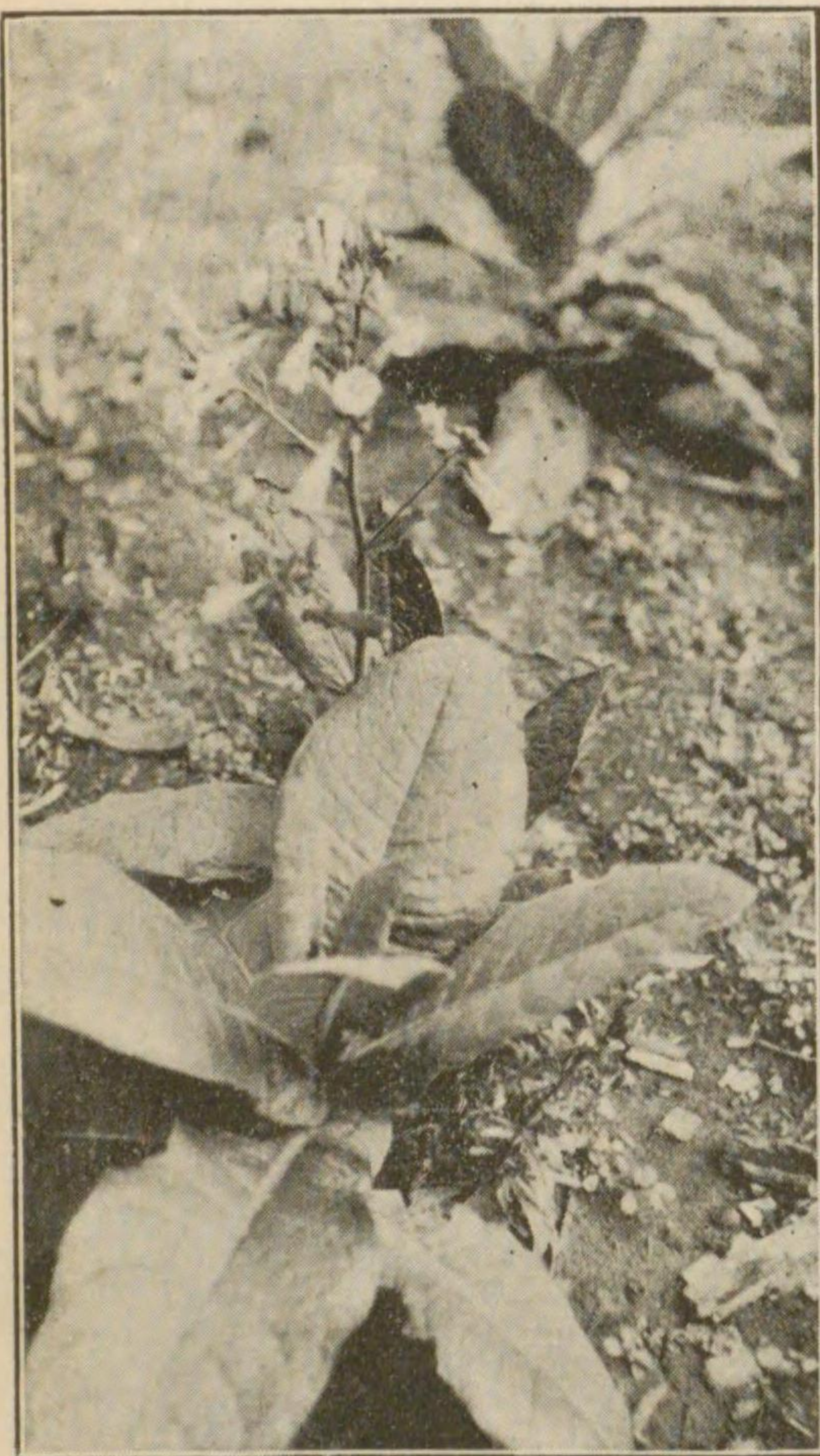


みある木瓜(蘭語でマモン英語でバ、イヤ)やアカシヤに似た木に大角豆の様な實のついてゐる
タマリナヤ、南米ぐみとでもいふべきピツタンガーヤ、すもゝの小さい様なジャゴチカパー
ルヤ、樹皮から出るやにが糊の代用になるといふカジュー樹の櫟の實に似た實、それにこの附
近の特産だといふフルユタデコンテ(直譯すると伯爵の實)等を次々に見せて呉れた。
其他、野生のトマトがほうづき程の實を持つて居るのや、紅胡椒が三年も枯れずに一見木の
様になつてゐるのや、瓜の原種と思はれるマシシユヤ、色付こうとして居るアバカシー(パイ
ナップル)等が作られて居る。それに畑の隅に日本から取り寄せた竹が繁つて、今が竹の子の
出盛りと見受けられた。

ブラジルは十一月が春たけなわといふ時なのである。

カボフリユオ (寫眞野生の煙草)

カボフリユオは直譯すると「涼しい岬」となる。デ、アルデアアから二里程の所にあつて、
今から四百二十餘年前にアメリカ、ペシユブシユオが最初に発見した所である。
當時この附近に紅を取るブラジルといふ木が澤山あつたのでこの地をブラジルと命名したの
だとも傳へられて居る。



発見されて以來百年程は
この地が中心都市となつて
、アフリカ奴隸等も皆こゝ
から輸入され、又、附近に
は珈琲も作られて、一時は
非常な繁榮を見たものであ
るといふ。

其後リオデジャネイロの發見と共に中心地がそれへ移つたので、全く衰微してしまひ、昔の面影を留めない程になつた。

そして二度鹽の集散地として街をなしたのは、千八百二十二年にドンペーデロ一世の軍に従つて居たドイツ人の武官ルイス・リシデンベルゲが、このアラルアマ湖が天日製鹽に適することを發見して、鹽田が作られる様になつてからのことであるといふ。

町へ行つて見ると新しい街の中に舊都を偲ぶ可き砲台の跡や、古い大きな教會の殘骸が残つて居て、帆船に積まれたアフリカ土人が、紐で幾人も結び付けられて、賣買されて居る様子が眼に浮んで來る様な氣がする。

この町にはたつた一ツの日本人の店がある。それは田中と云つて洋服の仕立を渡世として居た。何でも二十年程前に、故山縣勇三郎氏と前後してこの地に入り、洋服屋の他に鹽田も少しは持つて居ると云ふ事である。

ブラジルの名著
「オー・ガラニー」(上) (寫眞はジョセア・アレン
カーの墓)

鹽田の夜、それは異性を求める慕蛙が鳴き歌ふ聲に包まれて靜かに更けて行く。
一ツのランプを取り圍んで九人の日本人が物語りに耽ける、支配人の福井氏は卅才にならうかと云ふ北海道育ちの青年で、北國に見る熱情と文才とを豊に持つて居る人である。渡伯以來既に六年、善くブラジル文學に親しんで居る。



或る夜、先年百年祭のあつた、ブラジル文豪ジョセア・アレンカー(カポフリユーの近村に墓あり)の代表作である小説「オーガラニー」の話に及んだことがあつた。日本向きの悲劇で聞いて居る私も非常に感に

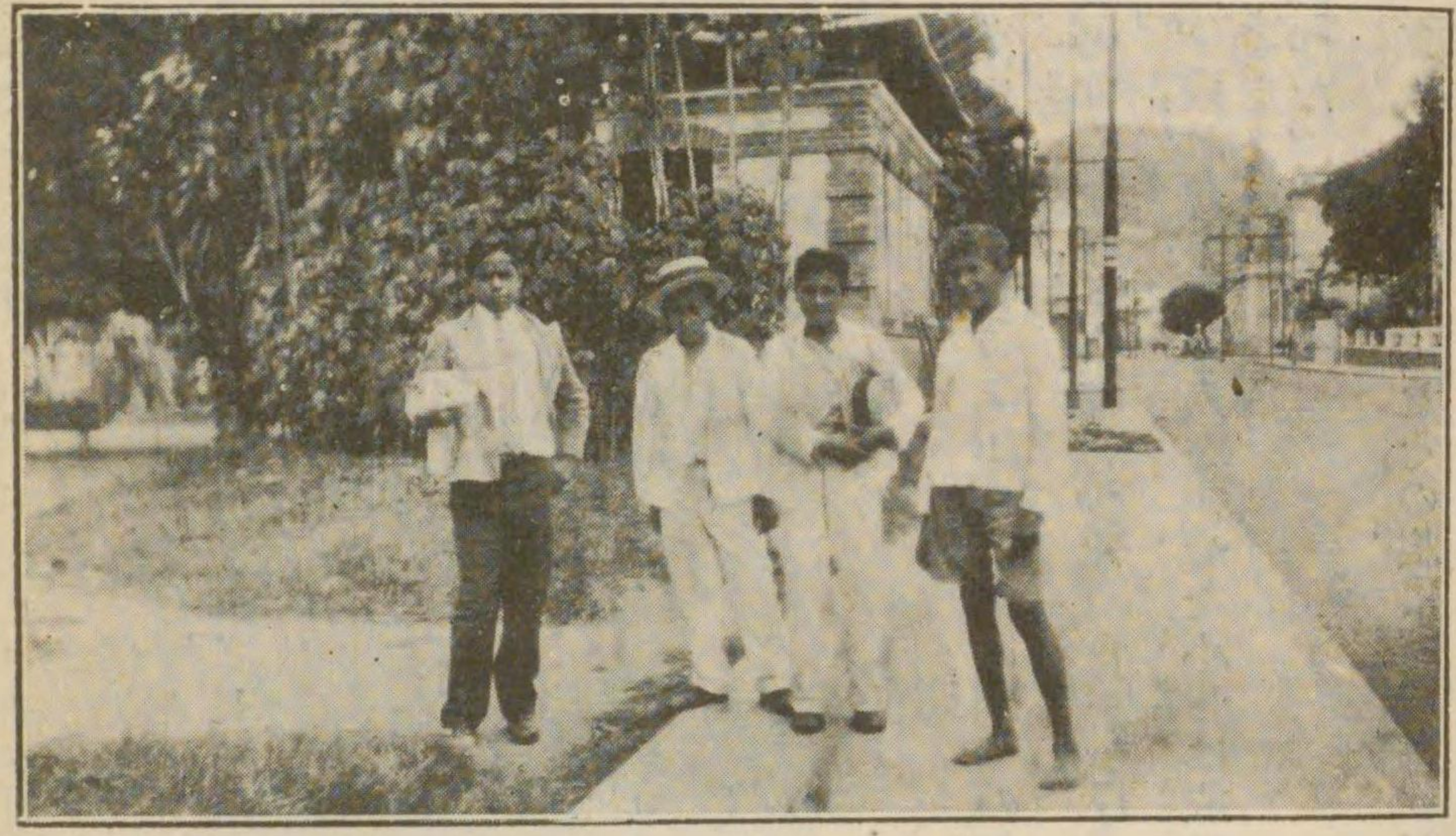
打たれたので、こゝでそれを紹介しやう。(恐らく日本へ紹介する最初のものであるかとも思ふ)
ガラニーとは在來の土人のことでインデアン種に屬するものゝ呼稱である。その土人青年の戀物語りをポルトガルの植民と結び付けたのがこの小説である。

『ブラジルが未だ帝政時代であつた頃のことである。皇帝に盡くした一人の帝臣が、エスピソットサントスに廣大な土地を貰つて隱遁生活をしてゐた。

彼には、一人の息子と一人の娘があつた。そして彼自身がブラジルの土となり永劫にその子々孫々をこの地に残す事に依つて、植民の目的を果さうとの堅い決心を持つて居た。その家にガラニー族の肌こそ淺黒いが眉目秀麗の立派な青年が收場監督として使はれて居た。

此の青年は心密に美しい娘——金髪と、瑠璃色の眼とそして色付きかけた林檎の如きチークとを持つた異人種の娘——に想ひを寄せて居た。けれど自から己が肌の色を見る時、悶々としてその日／＼を送る他何の術もなかつたのであつた。

云ふ迄もなく、その頃には奴隷が賣買されて居り、植民地開拓の原動力は奴隷なりとして、牛馬同様に使用されて居たのであつた。従つて、白人と奴隷とは天と地程の差があつて、苟且にも奴隷の分限で白人に戀する事は夢にもならぬ事であつた。



ブラジルの名著
「オー・ガラニー」(下) (寫眞はブラジル少年)

或日娘の父親は一寸したことから怒つて、ガラニー族の者を鐵砲で撃殺した。之を聞いたガラニー族の者達は部落の人々を集めて、手に手に弓矢や槍を持つて大舉して押し寄せた。父親はそれと知ると息子を馬に乗せて、ポルトガル軍の屯所まで救援を求めにやつた。

怒り狂ふた、ガラニーの軍は今にも家を取りまいて一撃に殺到仕様といふ氣配である。父親は最早覺悟をきめた、けれども雄々しい拓人としての精神は尙去らなかつた。それはたとへ今、自分や、自分の妻がガラニーの手に殺されても、自分の二人の子を

残すことが出来れば、自分の永遠の生命を、この新天地に残すことになるといふことであつた。

援軍を呼びに出した息子が果して無事かといふことについては父親には自信が持てなかつた。残るのは眼の前に居る美しい娘である。この娘を無事にこゝから逃がすことこそ彼の最後の願ひであり、拓人としての最後の願ひであつた。

彼は日頃使ふて居るガラニの青年を呼びこの切なる望みを、その青年に打明けて娘をつれてこの場を逃れること、そして將來この娘に親の精神を受継がしめることを托した。

彼等の落ち延びたのを見届けて父親は雄々しくも應戦して、群がり狂ふ、ガラニ軍の殺戮の飢た刃に斃れて果た。

落ち延びたガラニの青年は雨後の濁流逆巻くペンデンチ河をカノワー（丸木舟）に乗つて矢の如く流れ下つて行つた。けれども小舟を岸に寄す可き術もなく、流れ流れて幾日か過ぎた。疲れ果てた二人を乗せた小舟は或日氾濫に依つて水の中に浸されて居る大木の根に引つ掛かつた。

二人はカノワーをその根に結び付けて大木の根の上に憩ふた、青年は亂れた娘の金髪が美し

い頬にたれかゝつて居るのを見て、血潮が烈火の如くもえ上るのを覺えた。總てをあきらめてゐる美しい娘は、見とれてゐるガラニ青年を笑顔で見やると、つと立つて結びつけてあるカノワーを解いて流してしまつた。これを見て驚いて立ち上ろうとするガラニ青年に、總てを捧げた美しい娘の五体が投げ掛けられた。

濁流は益々狂ふて其量を増すばかりである。臆て堅く相抱かれた娘と青年をも、流れて行つたカノワーの後を追ふ如く押し流してしまつた。



これは説明する迄もなく悲劇である。そして善く外國物に見るパピーエンドと聊か趣を異にして居る。其所にカトリック教に培はれた、東洋味を帯びたブラジル色があるのである。

(寫眞はブラジルの娘)

ブラジル漫談 (五)

苦しい一つ

米國人はノーハット、ノーネクタイ、ノーコート、時にはノーシヤツ迄善くするのであるが、ブラジル人は仲々上衣だけでも取らない。

鳥打帽禁物

米國では鳥打帽の軽快な紳士姿は隨所に見られるが、ブラジルでは鳥打帽では、芝居、活動、フロントン等上等の席には入れない。

鳥打帽は紳士の被るものに非ず

ブラジル娘

ブラジル娘は非常に眞面目で、法律も満二十一歳以下の處女を保護する爲に、處女を遊ぶものは三年位の徴役に處せられることになつて居ると云ふ。

葬式に脱帽

歐米は何處でも左様であるが、ブラジルでも葬式に對しては必ず脱帽して敬意を表す。日本でもこの習慣は作り度いものである。

薬では治らぬ

用事があつてブラジル人を連れて旅行した所が、宿で風邪引いたからとて寢込んでしまった。早速

日本から持參の風邪薬を取出して進めると

「風邪は薬では治らぬ。コンニャク(強い酒)をコップへ半分程呉れ直ぐ治るから」と云ふ。

この男風邪を酒で治しよつた。

蜂雀

ハンミングス・バード(蜂雀)を初めて見受けたのは米國桑港の公園であつたが、ブラジルにも澤山居る。可愛い彼等の巢も卵も見た。ブラジルではベーチヤ・フロールと呼んで居る。

蜂雀は花の中の蜜を吸ふものだと思つて居たら、やはり花の中に居る昆虫を食べるのだと云ふ。

ロツテリヤニコフロントン

バカブンドウの仕事

ブラジルでは毎日仕事らしい仕事をせず、のらくらして居るのらくら者の事を「バカブンドウ」と云ふて居る。それが發音と意味とが日本語の馬鹿に通ずるので、在伯日本人は「馬鹿分童」等と當字をしたり、發音したりして居る。馬鹿分童、即ち、のらくら者は田舎に居ないとは限らないのであるが、概して都會生活に附物である。殊に「時は金なり」主義の北米人と異なり、労働を尊しとしない風のあるラテン系アメリカには馬鹿分童と看做され易い嫌ひがある者がまゝあるのである。

然らば、馬鹿分童は毎日何をして居るのであるか、素より「のらくら者」に仕事のあり様がないのであるが、ブラジルは馬鹿分童に缺く可からざる二つの條件を付けて居るのである。その一は富籤札を買ふことであり、その二はフロントンへ行つて競技の賭札を買ふことである。従つて一定の仕事もなく、富籤の札を買つたり、フロントンへでも行つて居る者をバカブンドウと云ふのである。

在伯日本人にも、馬鹿分童に屬する人々がないでもない。安宿に泊つて居て、馬鹿分童の二條件を果して居る馬鹿分童でもある。勿論、馬鹿分童等と云ふ言葉は上品な部類の言葉ではない、丁度日本の「のらくら者」と同じ事で自ら馬鹿分童なりと稱する者のない事は自らのらくら者なりと力む者が日本にないと同様であつて、批判的、嘲弄的言葉である事は豫め御了承ありたい。ブラジルの一面を物語る爲に是非この馬鹿分童の二條件となる、ロツテリヤとフロントンを紹介する必要があると思ふ。

ロツテリヤ

ロツテリヤとは富籤の事である。日本にも昔は有たとか聞いて居るが、若い吾々は實際に見た事がない。ロツテリヤは各州大概一つづゝ位ロツテリヤ會社の設立を許可して居て、ロツテリヤの札を賣り出して居る。

首府リオ、デ、ジャネイロのロツテリヤ札は普通二枚一組になつて居るのであるが他州のは皆十枚一組になつて居る。首府のは毎日抽籤があつて、一等の金高は二十コントス（約五千圓）（二等五コントス、三等二コントス、四等一コント順次低下して最下等二ミル（五十錢）迄約八千組程當り籤がある様になつて居る、總賣出しの札数は八萬組十六萬枚であつて、一組二ミル一枚一ミル（二十五錢）である。一週間に一度位一等五十コントス乃至百コントスの事があ

る。

サンパウロ州始め、其他の州は毎週大概一回で、一等二百コントス（約五萬圓）月に一度位五百コントス（約十二萬五千圓）と云ふ事である、この方は最低の富籤十枚組で五十ミル、賣出札の總數一萬八千組十八萬枚、値段は一組四十ミル一枚四ミル位である、當り籤は三千二百餘組で首府のものより當りの割が善い譯である。

ロツテリヤに關する法規は各州共にあつて會社の富籤賣出價格の割を税金に、一割五歩を會社の費用及利益に、残り七割五歩が富籤の賞金とされることになつて居る。會社から賣出す富籤の札は、市内各所にこれを専門に商ふ店があつて、定價に幾分の利益を附けて賣り出すのである買手は何組買ふも、一枚買ふのも自由に出来る様になつて居るのである。そして抽籤は警察署長や、新聞社員立合の下に公平に行はれて、その結果は新聞紙上や番附となつて發表さ

れるのである。當つた人はその札を持つてさへ行けば、何れの札賣場でも直ちに賞金を呉れる様になつて居る。何十コントスのもの等は、銀行へ行つても、現金に換へて呉れるとの事である。何しろ、官許の富籤であるだけに、正確なものである。小賣店の他に、手に何枚か持つて立賣りして居る人も多く、カフェー等で珈琲を飲んで居る所へ善く賣りに來ることもある。街頭で立賣する半數迄は、大概不具者の人が多くて腕のない人、脚のない人、眼のない人等他に働き得ない人が物乞ひ代りに富籤の札を賣つて居るのが澤山ある。

抽籤の方法は首府リオ市では、零から九まで記してある丸い盤が五つあつて、各々を廻轉させて止つた所の針の指して居る所の數字を、順に何萬何千何百何十幾と讀む様になつて居ると云ふサンパウロ市のは、大小二つの硝子の大きな玉があつて、大きな方には一から何千迄の札の番號の記してある木の球が入れてあり、他の小さな方には、同様に一等から最下等迄の賞金の數だけ、賞金額を各個に記入した球が入れてあつて、双方が電気仕掛で同時に廻つて各々の口から一つ宛同時に球が轉り出る様になつて居る。そして出た番號と賞金高とがその番號の賞金と決定される様になつて居るのである。この抽籤場は、前記の様な人が立合ふ他、一般に參觀し得る様に、大きな廣間に、何百と云ふ程腰掛が備付けてある。

當つたら大變 (寫眞はロツテリヤ店頭の富籤札)

富籤に當つたら大變である。二ミル(約五十錢)のリオ市の富籤札で二十コントス(五千元)から、とても復興債券や、勸業債券の騒ぎではない。



しかし、前者は八萬人に一人、後者は一萬數千人に一人である、當つたら大變であるが當らないから大丈夫である。私の知つて居る六十近くのブラジル人の老人が言ふ事に、三十何年間

と云ふものは生活費以外、月給の大半をロツテリヤを買ふのに費してしまつたのであるが、未だ曾つて、大きなのが當つた事がない、今若し當つたとしても、元金に利子つけて自分の札を買つた金を返して貰ふ様な物だと嘆息して居るのであつた。大概の人が、金は皆ロツテリヤへ預けてあつて未だ返して貰へませんと言つて澄して居る。太るのはロツテリヤの會社と税金を取る政府と、札を賣る店ばかりである。

けれども、當つたら大變である。昨日迄生活に窮して居た者が、一躍、自働車を買つて生活し得る身分になれるのであるから。それで皆「當つたら」と思ひながら、毎日、毎週幾程かの金をロツテリヤへ献上してしまふのである。昨年クリスマスの大ロツテリヤ千コントス（廿五万円）がリンス市のその日稼の靴直しの爺さんに當つて、その富籤の札を買ふ時戯談半分に、ロツテリヤの主人に若し當つたら自働車一台買つて御禮を仕様等と云ふて歸つた所が當るも當つたり、その爺さんに廿五萬圓が當つて早速幾千圓かの新しい自働車を買つて御禮したと云ふ話がある。所が當つて欲しい等のロツテリヤに當つて、一時に大金が入り、爲に發狂してしまつたと云ふ様な御目出度い様な不吉の話もある。けれどもロツテリヤは獨り馬鹿分童のその

日々の仕事になるばかりではなく、一生浮び上り得ない人々が、時にその札を買つて、せめて楽しみにする事は確かに大きな慰安ともなる事だと思ふ。

當るかも知れぬが當らぬかもしれぬ、しかし當つたら大變と思つて居れば、時に小使錢を節約して、札一枚を買つて、抽籤の結果の發表を待つて居るのも善い楽しみである。しかし、それを日常の事とする時には馬鹿分童といはれる様になるのである。

競技としてのフロントン (寫眞は日本人の選手原君)

フロントンは壁に打ちつけて受け合ふテニスの様な競技でスペインから渡來して來たものである。但しアマチュアのものがなく、選手は皆職業として居る商賣人であり、又選手へ競馬の様に出る様になつて居る點は運動としての競技と異なる所である。

フロントンにもコートの大いに依つて二種になつて居る。大きな方は四十四米に十一米、小さな方は三十四米に八米八十である。そして三方が石壁になつて居り他の一方とホームの二階三階が觀客席になつて居て此所には石壁に打つけられて恐ろしい勢で跳返つて來るボールを除

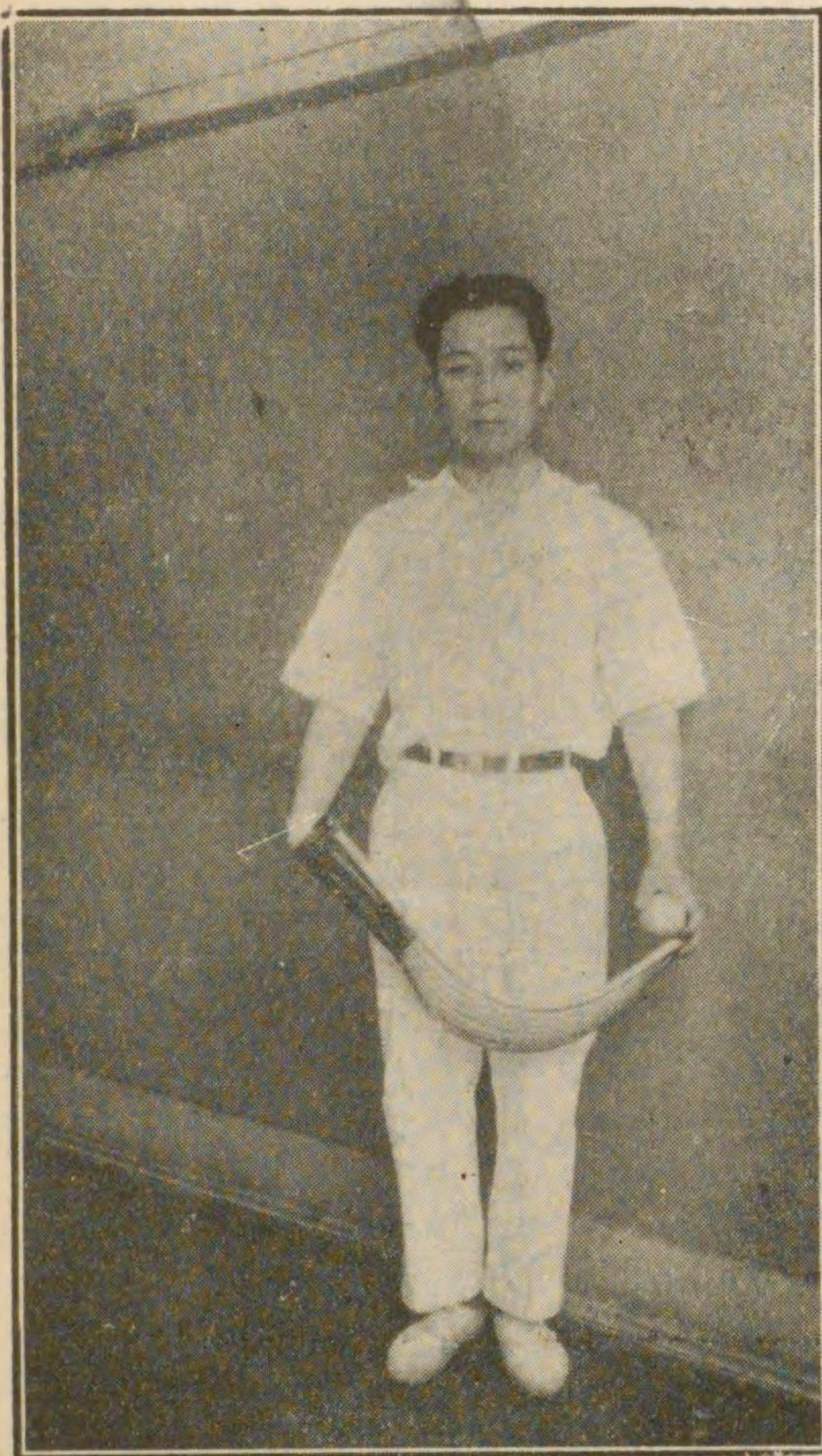
ける爲に丈夫な金網が張つてあるのである。

選手は普通の試合では六人、五點とれば優勝して退くのであつて、二人が順次優勝する迄續けられるのである。賭はこの二人の選手の番號と、買った賭札の番號とが合へば當つたのである。使用するボールはテニスの硬球位の大ききでベースボールと同じ様な作り方で一層固いものである。このボールを受けたり、投げたりするのは右手にはめて結び付けてあるセスタと呼ぶ籐で作つた鎌形の籠である。大きなコートで使ふセスタは七十四センチ米、小さなコートのは六十二センチ米である。コートには三分する二つの線があつて三分の二の所がサーブ線で、最初の球はこの線と線との中に落ちる様に石壁に打ちつけねばならないのである。又石壁でない方には約一間位の間があつてこのラインの外に落ちたものはテニスのアウトと同じ様に負けとなるのである。六人の選手は審判官が徳利様の籠の中から出す木の玉に記してある番號に依つて試合の順次が決するのであつて、負けたものは順次に退き、勝つて早く五點に達すれば優勝するのであつて、續いて勝たなくとも、得點が積んで五點になれば善いのである。

一勝負附くまでの時間は、その時の試合の工合にも依るのであるが、大概三十分内外である。フロントンはサンパウロ市に三ヶ所、リオ市に一ヶ所、バラナ州のクリチーバ市に一ヶ所ある。コートに金が掛るので田舎には全くない。

試合のいろいろ (寫眞は日本人の選手原君)

試合は六人の選手が五點を先占すべく競ふ外に、小さなコートの方では同様にして八點を取り合ふのがあり、大きなコートの方では、二人づゝ組んで前衛後衛となり四人づゝ出て競技し、六組(十二人)が八點を取るのを争ふがある。この場合は最初のサーブのボールがライン内に落ちなくとも前衛はセスタで取つて投げられるのである。一寸テニスに似て居るのであるが



四人とも一つ石壁に對して、同じ所に居るので觀衆にはどの選手とどの選手が組んで居るのかが見紛らしい事がある。この試合も勿論賭けられる様になつて居る。しかし日曜や祭日には人氣を呼ぶ爲に眞赤な上衣と眞青な上衣とを着た、二人組の二組が連続に試合をして廿點を取り合ふ競技をすることがある。この場合は勝つて居る方がサーブを續ける様になつて居るので、サーブの上手な者の入つて居る組が守衛の上手なものより勝味が多い。これは人氣取りだけであるから賭はないのである。見て雄壯で面白いのは何と云ふてもこの試合で勝負の数の決する迄の猛烈な試合は、テニスでは一寸見られぬ男性的な活躍振りが見られるのである。試合の成績は二階の一隅に電燈で透して見える様になつて居る名札と得點數とが提示される場所があつて觀客席の何れからも明らかに見える様になつて居る。觀衆は小さなコートの方でも千人位は入れる様になつて居り、大きなコートの方は三階建てで三四千人の人が優に入れる様になつて居る。何れも入場料は取らない。そして習慣からであらう、珈琲を飲むカフェーと同様婦人が入つて居ることは極く稀である。

競技の賭札

競技の賭札は競馬のダブルと同じ事最初に上つたものと、次との番號を組合せてある札を買つて居るものが割戻賞金を得るのである。札は一枚ニミル、欲しいのを欲しだけ買ふことが出来るのである。買つて居る人が少なひ様なのが當れば割戻賞金は多いのであつて、一枚に付き六十ミル以上の賞金を得ることは稀れである。

割戻賞金の決算法は法律の規定に基くものであつて、全賣上高の二割は費用として差引き（この二割の中より費用を引き残り三割が選手の給料残り七割が職員給料と株主の配當となる）八割を勝札の數で割つて、勝札一枚常りの賞金を決定し、勝負が終れば直ちに支拂つて呉る様になつて居ることは競馬の馬券と同様である（但し勝札一枚に對し二百レースはサンタカーザ慈善病院に寄附する事になつて居る）。

一番から六番迄、六人の選手を取り組ませた數は十二より五十六迄十五通りであるのであるが、なか／＼二三通り位買つて當るものでない。況して、屢々競技を見て或る選手に最負氣分

でも持つ様になれば、その氣分の爲に却つて當らない様になつてしまふ。選手に上手、下手の差もあるが、その時々で當る日と當らぬ時があつて、紛れの番狂せもあるものである。競馬と同じ事、八百長は嚴禁してあるのであるが、選手への心附や、賭札をやるのも自由なれば、又ビールやピンガを奢つて元氣を附けるのも自由であつて、最負客や、フロントン狂が應援、聲援を手をかへ、品をかへてやつて居る。

フロントン狂

フロントンは平日であると午后三時過頃から始まるのであるが、日曜や祭日だと、午后一時から始められる。晝の間は角力も同じ事、下級組が試合をするのを例として居る。入場無料の上に、競技そのものがテニスより荒く、男らしく、石壁に打ちつけられるボールがカーンと響く音が屋内だけに一層高く、強く響き、ボールを籠の中で轉がせば、負けになる程機敏を要す競技だけに、退屈凌ぎには持つて來いの場所である、従つて獨り「のらくら者」のバカブンドーのみが行く場所ではなくて、獨身者の經濟的閑潰しに何よりの場所である。

あのカーンと響くボールの音を聞かれると、その音を聞かぬ夜はとても寢附かれない等と云ふ中毒性の常連もあつて、見物半分、賭半分で毎夜の様、不景氣知らずの混雜を極めて居る。

少くともベースボールのファン諸君ならば二三度見れば競技の方法も判り、一度位夕食を抜いても等と言ひ出す様になる。

フロントンも、夜散歩を兼ねて出掛け、三試合約一時間半位をネット越に立つて見る位にすれば、湯上りの歸りに芝居の立見をする位の通振りと申してよからう。それを明けても暮れてもフロントンへ通ひ、ロツテリヤ買ひにフロントン行きが日常の仕事となれば、これぞバカブンドーとこそ申すのである。

ブラジル漫談(六)

仲々どうして

日本でも來年あたりから、東京市内の商店の營業時間に制限を加ふるとか云ふが、扱てブラジルではどうかと見ると、仲々どうして朝七時半より午後六時半迄と云ふ營業時間が厳守されて居て、レストラントや其他カフェー等夜遅くまで店を開いて居るものはその爲に特別税が課せられて居る。

美しくければ

サンパウロ市では着色電球の廣告は差支えないが、無色の電球を

用つての廣告には税金を課して居る。美しくければ、まあ許せと云ふ、ラテン系の國民性が如らしめるのであらう。

歸化權

ブルジルでは滿二年在住せる人間には、何れの國人たると、何かなる人種たるを問はず、歸化を許容して居る。

但し犯罪人、不良分子、危険人物はこの限に非ず。

代議士にもなれる

歸化後滿四ヶ年を経過すれば、下院議員に、同じく六ヶ年を経過すれば上院議員に選舉さる資格が得られる。其他官公吏にも就ける

然し、職邦の大統領及副大統領だけは就かれない。

呑氣な日本人

こんなに簡単に歸化出来るのに日本人は面倒だと云ふて、仲々歸化の手續をとらない。

左様して居る間に排日を喰はされたのは米國に於て前例がある。

先驅者

ブラジルで進んで市民權を得た日本人はサントス附近の漁夫(主として沖繩縣人)であつた。これは市民權がなければ漁業權が得られなかつた爲でもあるが、兎に角、先驅者である。

X X X X X

カトリック教に就いて



カトリック教

(寫眞はサントスのモンテ・セラにある古い寺)

ブラジルは憲法に信教の自由を認めて居る。しかしラテン系民族の國家に共通なるカトリック教が盛んであつて、社會の各方面に亘り偉大なる勢力を有して居る。

カトリック教は説明するまでもなく、基督教の舊教に屬して、非常に儀式を重じ、信徒たるものは生れるから死ぬ迄、幾多の教會儀式を受けなければならぬ他、年中行事も多く且つ儀禮を盡さねばならぬ。カトリック教はブラジル全土を十の大僧正領に分ち、その下に四十三の僧正院と、三つの管長院と、四つの宣傳事務所とを置いて宗政を執つて居るのである。



カトリック教の祭日

(寫眞は教會の寄附金を集める田舎の信徒達)

カトリック教の年中行事ともなつて居る宗教祭日の主なるものに就て紹介して見よう。

救世主割禮祭—一月一日—降誕後七日目に行ふた昔の洗禮の日を祭るのである。

東方博士救主禮拜祭—一月六日—基督降誕の翌年不思議な星の導きに依つて、三人の博士が東方より來つて、基督を救世主なりとして禮拜したと云ふのである。

聖母潔めの日—二月二日

聖母靈告祭—三月廿五日—聖母マリヤが神より神の子を受くとの御告げのありし日。

復活祭—三月廿日以後の満月の次に來る日曜日—



この日には信者は必ず教會へ行つて、年に一度のコンフェツソン(懺悔)をする事になつて居る。又この日曜日の前の木曜日には、街の各所に藁に檻褸を着せた人形を吊り下げて置き、鞭で打つた後、石油をかけて焼いてしまふ。之は木曜日の夜基督を偽つて敵の手に渡したユダスに象つたもので、打ち懲らしめる心算なのであらう。

謝肉祭—復活祭の前四十日間を四旬悲節とし、その前三日間が謝肉祭である。(謝肉祭の夜参照)

洗禮者ヨハネ祭—六月廿四日—基督が卅歳の時聖ヨハネから洗禮を受けた。

使徒ペテロ及パウロ祭—六月廿九日—十二使徒の中の二人の殉教の日である。洗禮者ヨハネ祭から、この日の間には、バロン(石油玉を附けて上る風船)

(寫眞は宗教的集ひ)



や花火を上げたり、家の前で薪木を焚いたりする。
丁度日本の盂蘭盆の頃を思出すのであつて、東洋色の濃いものである。殊にバロンも花火も全く日本の昔（廿年程前まで）あつたものと同じであるのも面白。

聖体行列—六月十九日前後—私は聖体行列をリオ市でも、サンパウロ市でも見た。各教會聯合で、聖体を象つた旗を押し立て、婦人は純白の服装をし男子も白い袈裟をかけて、讚美歌を合唱し乍ら街を教會から教會へ徐々に練り歩くのである。

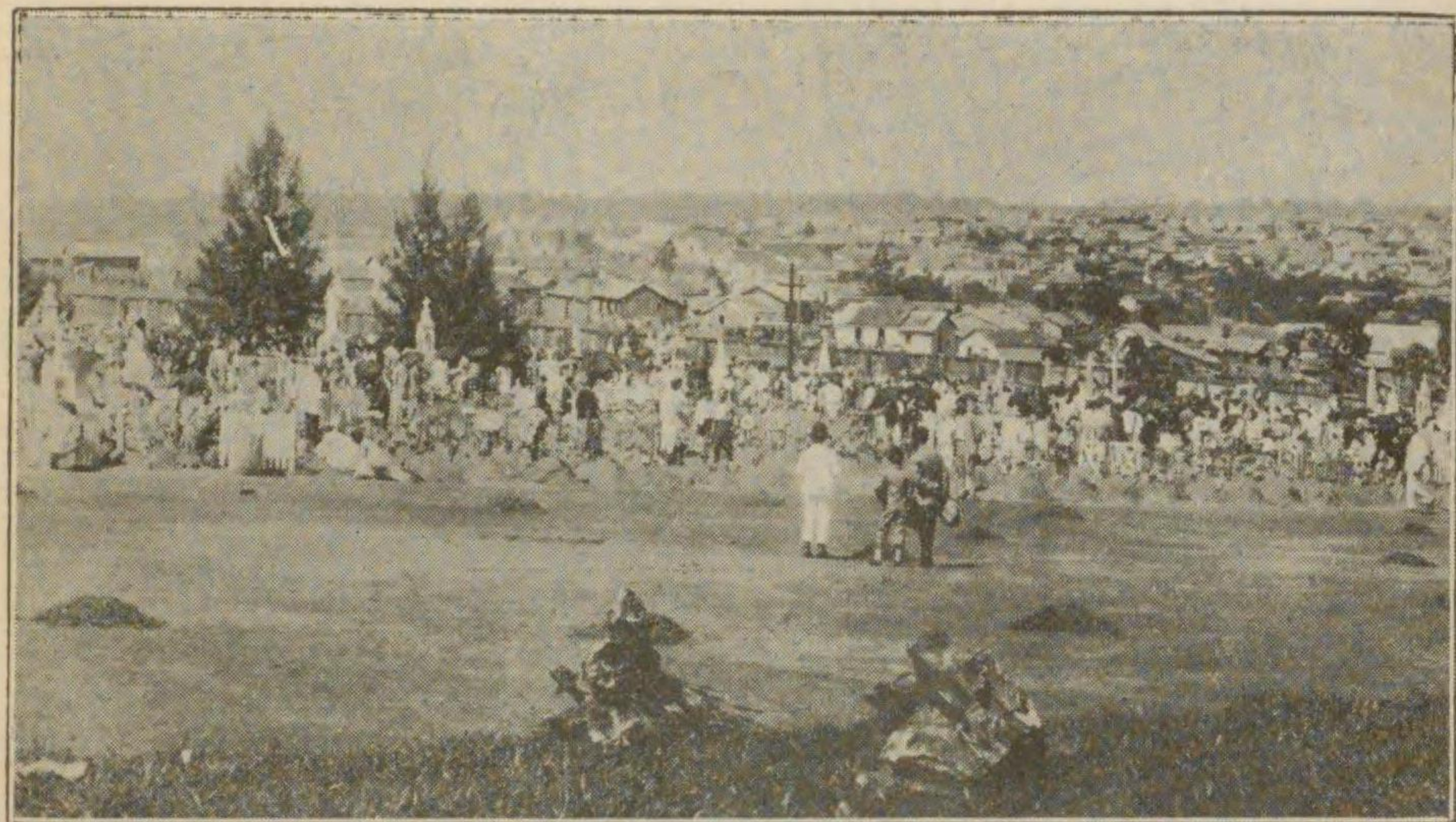
聖母昇天祭—八月十五日

聖靈降臨—昇天後十日目

聖母降誕祭—九月八日

全聖徒祭—十一月一日—聖徒、聖人を祭る日。

（寫眞はリオ市に於ける聖体行列）



花輪祭り—十一月二日—デイヤ・デ・モルト（亡き人の日）と稱して、丁度日本の盂蘭盆會に相當する日であつて、國內の墓地は全く花輪と香煙に満さる日である。（寫眞はリンス町の花輪祭りの光景）—（二一五頁参照）

聖母懷胎祭—十二月八日

救世主降誕祭—十二月廿五日—クリスマスである

この他に各教會（カトリック教のみ）に、祭があつて。丁度日本の御寺の祭の様な騒ぎである。

以上の宗教祭日には、會社商店が全部休む日もある。従つて、他の國祭日と一緒にすると實に休日が多いのである。

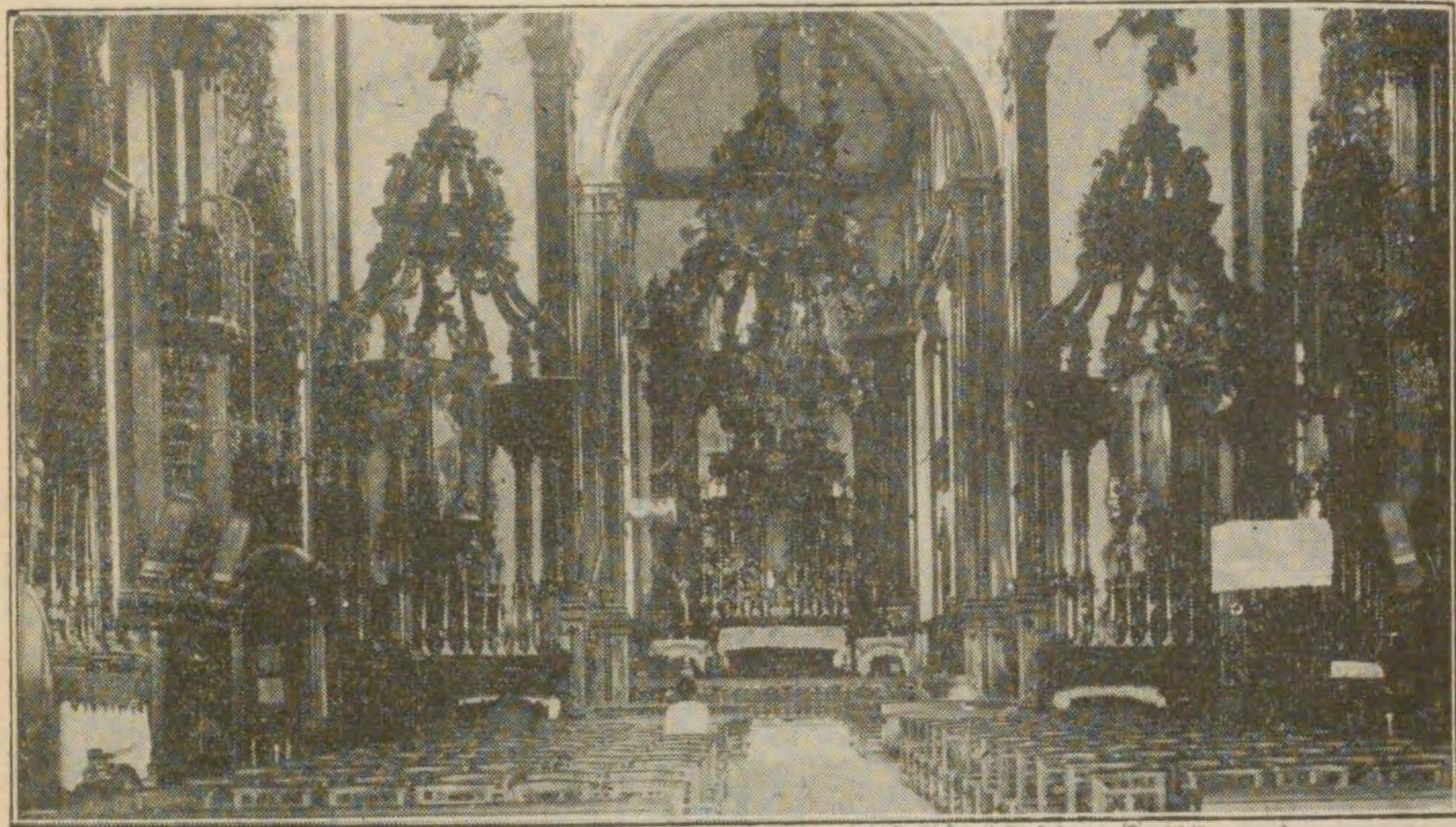
革命新政府はこの點を考慮したものであろう、官廳の休みを非常に減じて居る。



信徒の儀禮

ブルジルを旅行して居て、一番目に附くものは、眞黒い服装して、眞黒いベールを掛けた婦人と寫眞(向つて左)の様に洋服の襟に黒布を附けて居る紳士の多い事である。それ等は説明する迄もなく喪服と喪章とであつて、喪中の者は四十日乃至一ヶ年間これを附けるのであつて、それ等の喪中の人達に對しては特に言葉を慎しまねばならぬのだと云ふ。

其他、洗禮の時の名附親に似た洗禮補導者の如きは、一生その人の面倒を見るのであつて、場合に依ては兩親以上の世話をも爲すのであると云ふ。其他カトリック教には新教に見られぬ儀禮習慣がある。



カトリック教と日本移民

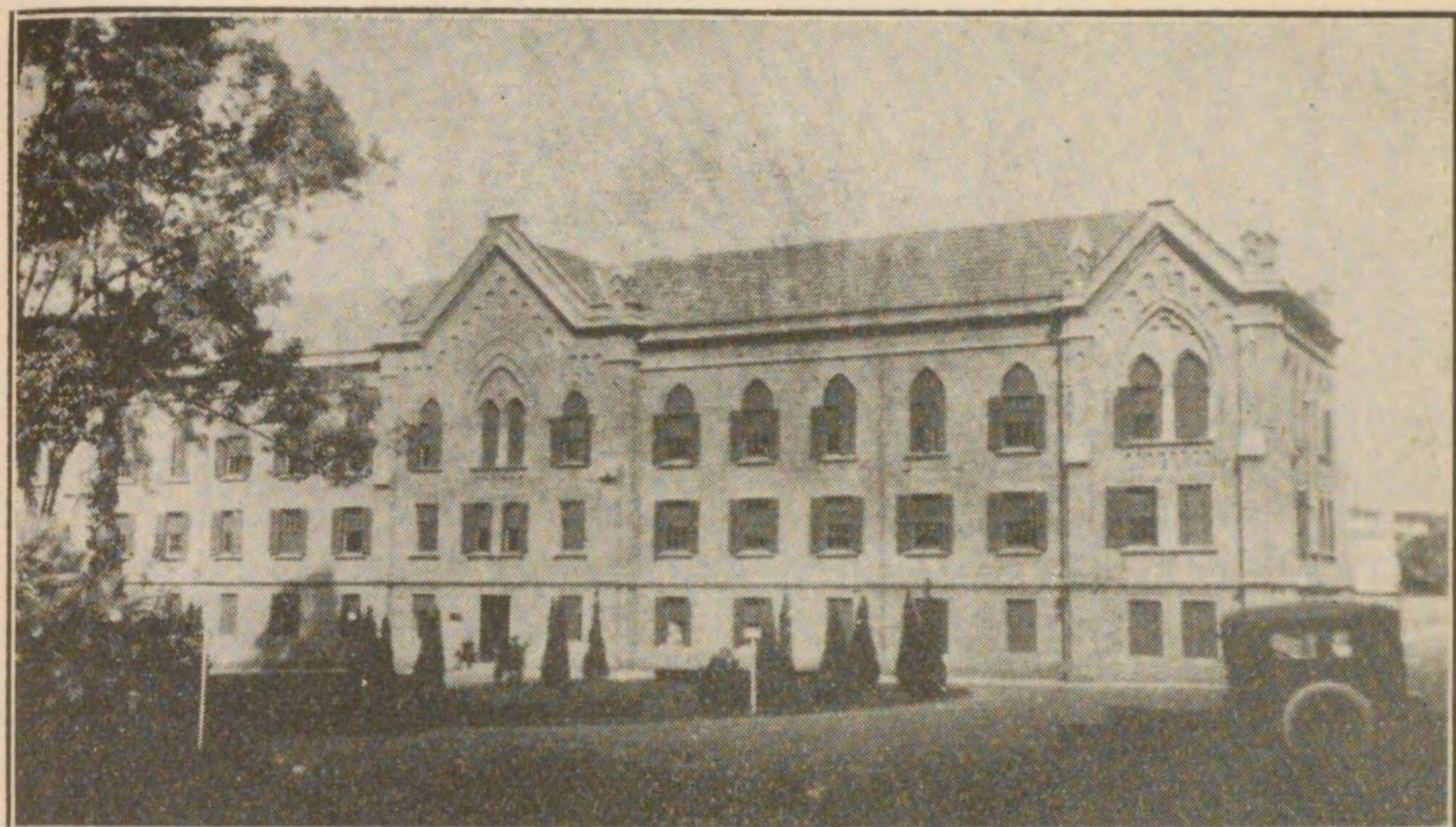
(寫眞はカンピナスの寺院の内部)

日本移民でカトリック教に歸依して居る人も相當多くなつて居る。實際、サンパウロ市に住んでブラジル人と親密な生活をして居る人達は、何かとカトリック教に歸依するの必要を感じるのである。殊にブラジルで生れた人達は、自然周囲の還境からカトリック教の感化を受けて、信徒の手續を爲さぬにしても、カトリック教的になつて居る。

サンパウロ市にはカトリック系の聖フランシスコ學園と云ふのがあつて、小學生を寄宿舎に收容してブラジルの小學校に通學する餘暇に、日本語を教えたり、宗教教育をして居る。尙サンパウロで日本人の信徒の一番多いのはラルコダ・デ・セの後にあるサンゴンサロ教會である。

謝肉祭の夜

①



カトリック教の社會事業

(寫眞はサンパウロ市のサンタカーザ)

カトリック教のブラジル國家への功績は、學校と慈善病院の經營であらう。

殊に慈善病院たるサンタ・カーザは何れの田舎の町にも經營されて居て、その普及して居る點に於てその設備の整ふて居る點に於て、世界各國にも餘り類を見ないものがある。それは、一つは醫者の不足からも來たのであらうが、何と云ふてもカトリックの勢力の偉大なるが爲であらう。

私もサンパウロのサンタ・カーザを見たのであるが、日本では見られない、大規模なものであつて、多數の日本人の病人が世話になつて居た。

日本にもこの様な中産階級の行き得る慈善的病院が欲しいと思ふ。



カーナバル

(寫眞はカーナバルの
日装ひをした乙女の)

ブラジル語のカーナバルは英語のカーニバルと同じ意味の言葉で、日本語で謝肉祭と譯して居る。

キリスト教徒の一年中で一番馬鹿騒ぎをする日である。現に英和辭典築には、カーニバルの所に馬鹿騒ぎと云ふ譯もつけてある位である。

それではカーナバルは如何なる意味のある日かと調べると、これは又意外に教會では重き意義ある日とはしてゐない。従つて、この日教會では改まつて式等はしない。しかしキリスト教徒殊にカトリック教徒に取つては忘れられない日だ。それは前にも述べた通り一年中で一番馬鹿騒ぎをするお祭り氣分の

する日だからである。

この日キリスト教徒は、何故にお祭り騒ぎをするかと云へば、キリストが受刑された日の四
十日前より四旬悲節と云ふて四十日間、娯樂、肉食を廢して、大いに謹慎して居ると云ふ古い
習慣があつたのである。それでその謹慎に入る前に、大いに肉食もやり、娯樂のあらん限りを
盡して置かうと云ふのがこの日なのだから馬鹿騒ぎの程も知られると思ふ。實際は四旬悲節は
行はれず、お祭り騒ぎが年々盛大に行はれると云ふ好都合なプログラムになつてしまつて居
る。

カーナバルは毎年日が決定して居る譯ではなくて、四月の第三日曜日を、イースターデー（
復活祭）として、その前の金曜日がキリストの受刑の日、それより四十日前に、カーナバルの
日が決められるのである。それで二月の末のこともあれば、三月初めになることもあるのであ
る。

今年三月四日がその日に當つて居た、そして、その前二三日は、日本の鎮守の祭の宵祭と
同じことで、前騒ぎとでも云ふのが行はれるのである。

前 景 氣 （寫眞はカーナバルの假裝道具を賣る店）

カーナバルと云へば、氣の早い者は正月の頃からぼつ／＼今度のカーナバルにはどんなこと
を仕出かしてやらう等へ考へ始める。

リオデジャネイロに一月の末、十日程居たのであるがもうその頃から 皆仕度にかゝつて歌
を習つたり音楽を練習するやらして居た。安芝居等はカーナバルが済む迄休業をすると貼札等



を出して居るのさへ見受け
た。

サンパウロは何んと云ふ
ても、珈琲の都だけに、珈
琲が値無しの大暴落して、
火の消えた様な大不景氣で
、例年と違つて二月の末に

なつてもそれらしいお祭り気分も見えなかつた。

それでも、カーナバルの假裝道具や、飾り品や、香水等を賣る店は、賑はしく店頭を飾つて景氣を附けて居た。

大不況と云つても、流石に、町の者だけに三月一日の大統領選舉が済むと、急にお祭り気分になつて、街のどの隅からも、ラツパや大鼓や、笛の音が、キヤキヤと騒ぐ子供や、女の聲に交つて流れて来る。

カーナバルの買物に出る人達も浮き腰で、今にも踊り出しさうにみえる。

二日の晩あたりには氣の早い連中が、着飾つたり、假裝したりして、ちら／＼出始めて来た。自動車も花や、色テープや花毛氈で飾り立てて、そろ／＼その日を想はしめる様になる。

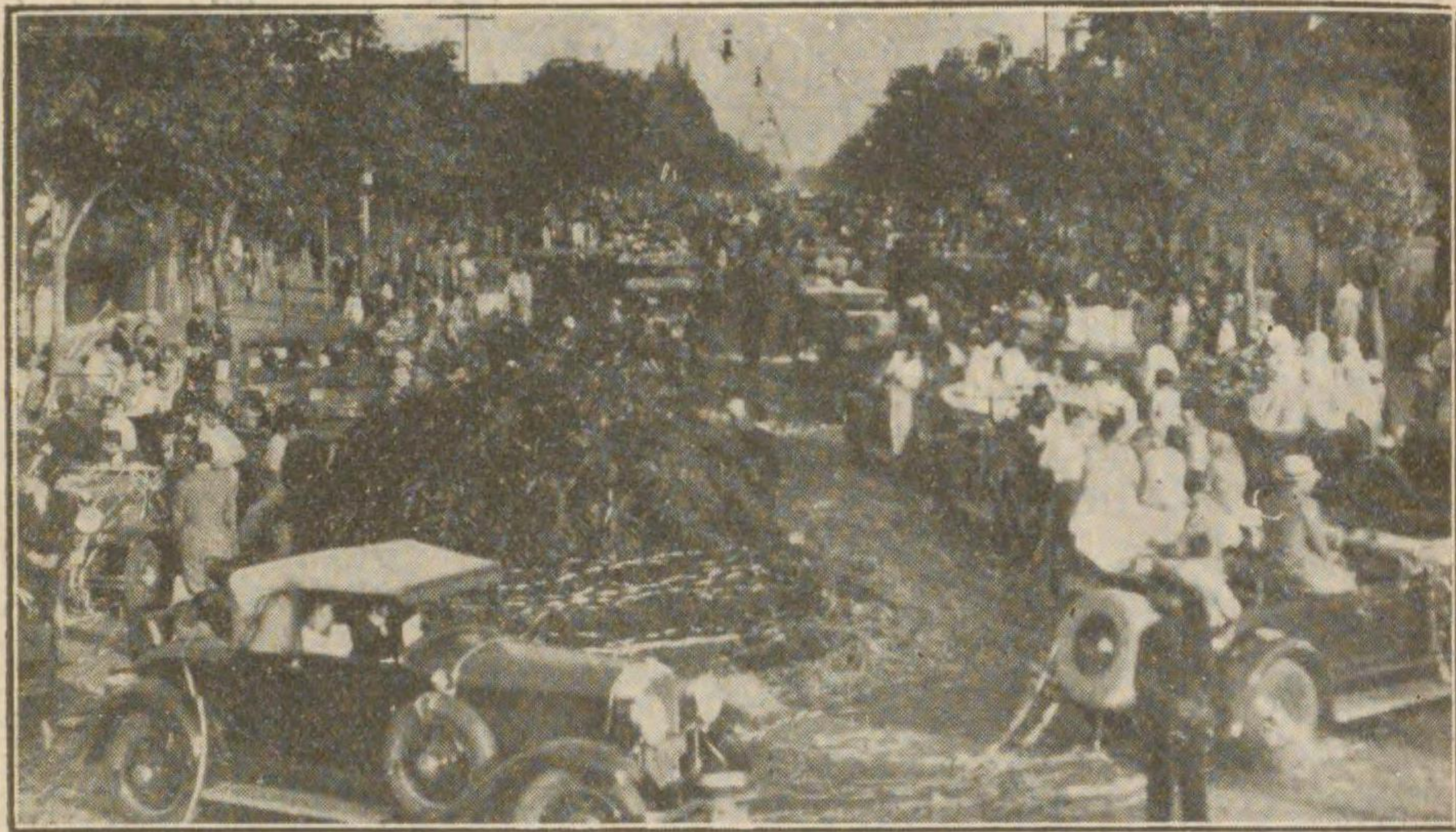
カーナバルの前夜等は確かに豫行演習そのもので澤山な假裝者が出る。そして幾つもの劇場が、假裝して居る者を入れて、ダンスやら踊やらをやらせて、無料で見せる所もあれば、滅法に高い入場料を取つて見せて居る所もある。これ等の劇場や踊場は夜を明して騒いで居る。

その夜

(寫眞はカーナバルの夜のセ
ルソ・ガルシヤ通の騒ぎ)

一年中取つて置き、馬鹿騒ぎの素を一時に引繰り返へすカーナバルの日が来た。午後二時、三時と云ふ頃から自動車のあるものは自動車で、無いものは歩いたり、電車で、ぞろ／＼盛場へ集つて来る。

十七八世紀の女王に扮して出て来る者もあれば、女であり乍らナイトを氣取つて出て来る者もあり、ビエロになつて来るものもあれば男の女裝、女の男裝等は數知れずある。男で孕み女になる者もあれば、夫婦でこの日は服装を取り換へ、男裝の女房の後にしほらしく従つて来る女裝の亭主もある。海水着に飾を附けた程度で、素手で、素足で、遠慮もない



若姫もあれば、生れて始めて着る日本着物を左前にした親日派の令嬢もあり、一日でよいから、白い人間になりたいとの念願の黒ん坊が、顔を眞白に塗り立て、見る者に淡い寂しみを與へる様な黒姫もある。

何頭もの騾馬に引かした山車も、例年に比較すれば甚しく少いと云ふのであるが、なか／＼金を掛けて凝つたものもあつた。

これ等は皆各所にある度場を集つて煌々と電燈の光り出す頃から、下町へと集つて來るのである。そしてその頃の行列を通す、東京で云へば銀座通りや昭和通りと云つた様な、キンゼ・ノウベンプロ街や、サン・ベント街や、セルソ・ガルシヤ通り等は、電車を止めて、澤山な交通巡査が出揃うて、道路にはちける程集つて、押合ひへし合ふ、觀衆の中を假裝の列を通すのである。假裝者は何千何萬と續いて來る上に、同じ道を一度や二度では、飽足らず堂々廻りをして居るのであるから、一寸やそつとの事でない。殊にセルソ・ガルシヤ通りは道の兩側にイルミネーションを付け、廣場々々には、軍樂隊や、オーケストラ團を配置して、氣勢を擧げて居るのであるから一通りや二通りの騒ぎではない。

香水合戦 (寫眞は假裝の娘さん二人)

さてこの物々しい騒ぎの中に、行列の者と見る者とは、色テープを投合ふたり、細く切つた色紙を投げつけ合ふたり、硝子の瓶の中に香水とアルコールとを混ぜて入れ、エーテルや壓搾空氣が小部分に入つて居て、口を開けると中の香水が一間以上もとび出す様な仕掛になつて居るランサービュームを各自が持つて居て、これぞと思ふ男は女に、女は男に掛け合ふのである。それも着物や手に掛けた位では徹へないから、目や耳を狙ふ、大きな口を開いて笑うてゐるものなら口の中へ注込む。

堂々めぐりをして居る行列の自動車が一時留りで、



もしたら大變だ、色テープは飛び、紙は散る、香水は亂射されて、車上の姫等は、自動車の中に頭を空込まねば防ぎ切れなくなる。それを善いことに香水一瓶を女の首筋邊りを狙つて流し込み、その上に良紙を投つけてキヤツくと云はして喜んで居るものもあれば、眉目善き若い男が色テープを互に幾條も投合ふてその兩端を握り心をテープに寄せて、いゝ氣になつて居る者もある。

人道を往來して居る人達も、皆懷ろに香水の瓶や、色紙を用意して置いて、これぞと思ふのに合ふと投げる、かける大變な騒ぎだ。そして氣の合ふた若い男女が互に香水をかけ乍ら明日逢引する場所や、時間等を話し合つて居る者もある。

何しろ女たらしが不良なら、ブラジルの青年も老年も皆不良になつてしまふ程なのだから、女房持も、藥罐頭も、浮氣の有らん限りを盡して居る。貰ひたての若女房を運れた焼餅焼の亭主が若い男達に女房が香水や色紙で挑戦されて居るのを必死に防いで居る圖などは、到底日本では見受けられぬ光景だ。それでも先年英國に遊んであの嚴肅そのもの、オックスホード大學街を訪れた十月何日かの「フエヤー(市)の夜」見た、接吻自由の夜よりはましである。

更け行く夜

(寫眞は踊り明す劇場の入口の裝飾)

宵から始つたこの行列と、この騒ぎは十一時になつても十二時が來ても、益々狂つて來こそすれ止みそうにもない。

それでも一時頃になると、テープも色紙も香水も皆使ひ果してしまつて、いよいよ最後のいたづらにかゝる。觀て居る者が、自動車で通る行列の、美裝した男や女を手でいたづらする。



皆若い男がづらりと並んで居て、女の裾を引張つたり尻を抓つたり、帽子を取つたり、自動車を運轉して居る親爺の帽子を取つて、禿頭をなで廻したり、道に山になつて居るテープの屑を

自動車に投込んだり、悪口悪評、彌次のあらん限り盡した亂闘振りである。

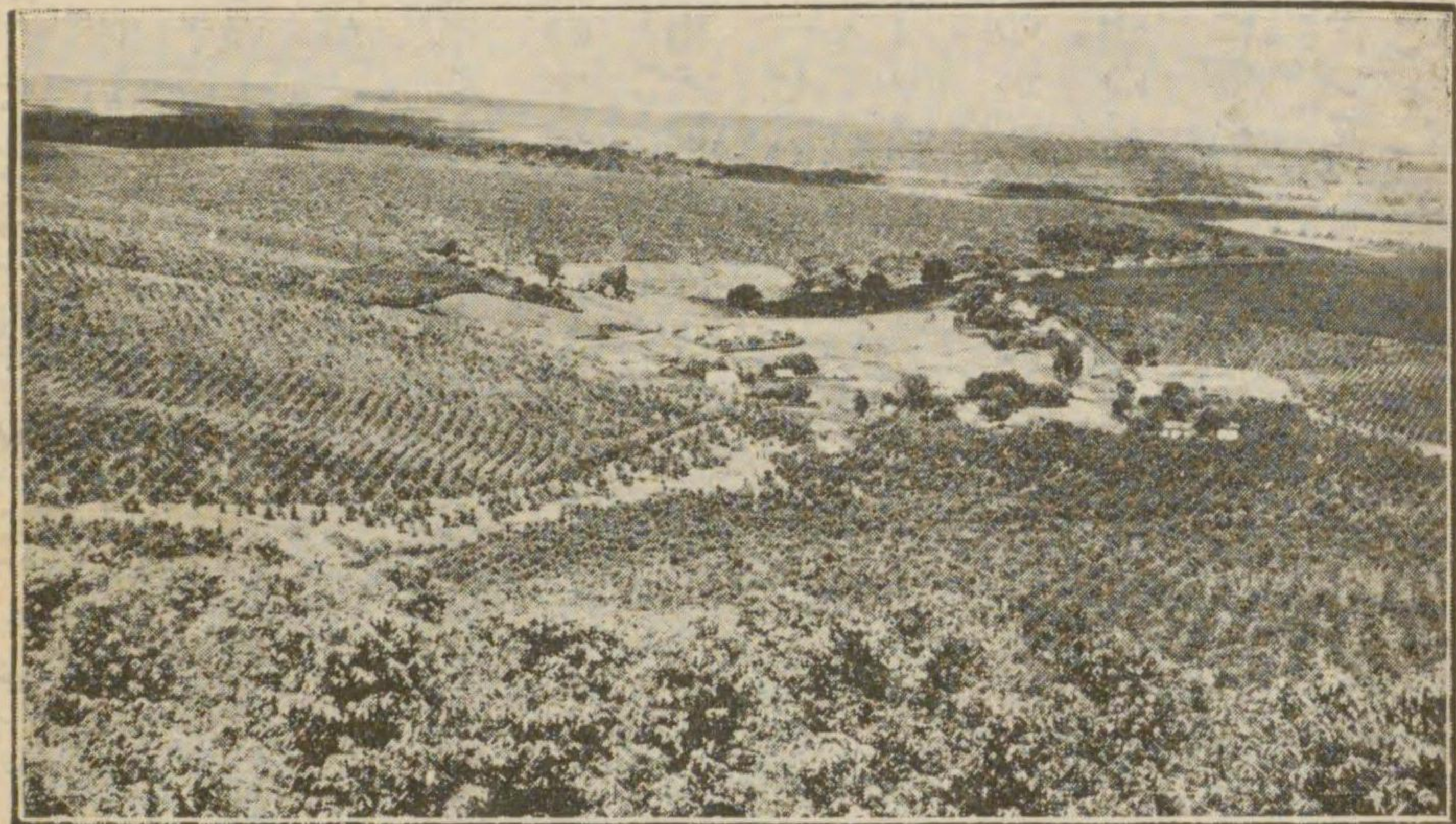
これがカーナバルの最後の大團圓で、見て居て面白いのはこの一時過ぎから二時過ぎ頃までの亂闘騒ぎである。何しろ熱狂し切つて居る群衆がやり出すのだから、實に言語に絶する有様で、見兼ねて出て来る巡査も容易に手を出し兼ねて居る有様である。しかし、喧嘩一つ見受けないのは流石に氣の長いブラジルではある。

二時過ぎる頃、今迄中止してあつた電車を通し始めると、黒山の人間を一臺毎に滿載して、思ひ／＼に運んで行つて一時間とたゝぬ間に淋しくなつてしまふ。

その頃、毎夜道掃除をして居る市役所の人夫が、道に山になつて居る色テーパーの屑をかき集めて火を付けて處分をする。道路が一時に焼出して、亂闘の後を清淨にするかの様に思はれる。

一年の馬鹿騒ぎを一時にやつてのけたカーナバルが終ると、翌日から皆忘れた様に、娘達は口紅を眞赤につけて、乙に澄して街を通つて居る、昨夜の騒ぎなんかまるで忘れたかの様に。

珈琲の話



珈琲樹の歴史 (寫眞は珈琲園の遠望)

亞刺比亞の珈琲に關する傳説として、こんな話が傳つて居る。

「昔、或る修道院の山羊番の爺さんが、山羊が毎夜一睡もせず躍廻るので騒がしくて困る事を院長さんに申上げると、院長はそれ以來、山羊の眠らずに騒ぐのは何故であるかと氣を附けて居ると、珈琲の實の落ちるのを喜んで食べて居るのであつた。それで院長もその實を拾つて煎じて呑んで見ると、夜眠る事が出来なかつたので、眠らず働ける藥として之を人々にわかち與へた。」と云ふのである。

然し、學者は珈琲の原産地は熱帶アフリカであつて、後に、南アラビヤ地方に移植されたものだと言

ふ。そして、一六五〇年にアラビヤより、ジャワ嶋のバタビヤ地方に移植栽培を試み、爾後數回の失敗の後、一六九六年に漸く成功したものである。それから順に栽培區域が擴つて、スンダ列嶋及セイロン島等にまで及んだものあつた。降つて、一七一〇年に、瓜哇のバタビヤから送つた苗が、和蘭のアムステルダム植物園の温室で栽培され、その一部分が更に佛蘭西のパリーの近郊にあるマルリー花園に培植された。そして、其所で出來た種子から養生した苗木を、西印度のマルチニケ嶋に送つたのが生長繁殖して中央アメリカの珈琲栽培の動機になつたのである。南米に於ては一七二五年に佛人が秘露に珈琲栽培を試みたのが嚆矢で、ブラジルに入つたのは一七二七年（一九二七年にブラジルでは珈琲二百年祭を舉行した）に兵曹フランシスコ・デ・メーロ・パソエータ氏が佛領ギアナ地方から珈琲の實や苗木を取り寄せ、パラ州に試植されたものが初めて、その翌年マラニオン州に移植されたものが漸次南進し、一八〇〇年にサンパウロ州のジュンジャイ町及びカンピーナス地方に移植栽培され、今日のブラジル珈琲として全世界に驕を唱えしめる基となつたものである。

従つて、今日ブラジルにも野生の珈琲樹を山に見ることがあるとの説は、移植以後の物であらう。



土地の選定と開墾（寫眞は開墾後二年目）

珈琲はブラジルならどこでも作れるものであると思つたら間違ひである。第一に珈琲は霜に最も弱い木であるから、霜の降りる所は絶対に不可能である。それで一般に海拔五百メートル乃至それ以上の地が善いとされて居る。しかし、附近が五百メートル以上に高い地方、例へばサンパウロよりサントスに至る高地々帯の如きは標高五百メートル位の所は未だ低い所で霜がよく降りるので珈琲作には不可能である。それに引かへて邦人の集團地たるノロエステ沿線は五百メートル以下の所も多いのであるが、附近に高地が無く、低地があるので霜が來ても多くその低地で結ぶ様になつて少し位の霜には害を受けないのである。（大体珈琲地帯の地形は前にも屢々述

べた如く小丘陵が重複して居て、従つて一畑にも高低がある譯である)

第二に、珈琲は地味の肥沃な所でなければならぬ。テラロシヤといつて赤味を帯びた、粘土質の沃土が善いのであつて、肥料なしに一定の土地に何回も植かへて栽培することは不可能である、普通地方の経済的年限を二十五年乃至三十五年までと謂はれて居る。第三は氣候の如何である、珈琲そのものは熱帯地に原生して居たのであるが熱帯地に珈琲を栽培するのでは耕作に苦しまねばならぬし、又年中一率に暑いので花が年中咲いて收穫期が一定しない不便がある。殊に、珈琲栽培の中のおもなる仕事は除草と收穫との二つであるからこの點からサンパウロ州が氣候に幾分の變化もあり、冬になれば相當寒く、雨少く、草も伸びず、一時に實取りが出来ると都合な氣候に恵まれて居るのである。右の様な條件から現在には奥高地の原始林を開墾して珈琲園を作るのを通例として居る従つて新に珈琲園を始めるには原始林の伐採(山切り)とそれを焼くのが付きものである。

伐採は乾燥期に入つた六、七、八、九月頃になしそれを約一ヶ月位枯らして山焼をする。若し焼け方が不十分であれば小枝を集めて焼きなほすのである珈琲園の開墾はこれだけで日本の畑の様に鋤、鍬を入れて土を起す様な事はないのである。

種蒔と補足 (寫眞は補足用苗木の仕立)

開墾が終ると蒔き付する爲に列を作る。これは前の寫眞にも見える通り、縦横十文字に美しく作るのである。普通木と木の間が、十四パルモ(一パルモは約二十二センチ米)乃至二十二パルモになる様基盤の目形に作るのである。その間の隔りは肥沃な土地ほど廣いのであつて、生長した珈琲樹が枝の交はらぬ程度を見計らふのである。列が決まると蒔き付けるコーバと呼ぶ坑をほる。これは太陽の強い直射と適當な濕氣とを保たしめる爲と今一つは生長して後の根張りのよい様にする爲である。コーバは縦二パルモ横一パルモと二本指、深さ一パルモと二本指位にほるのであるがこれをほるのにはエンシヤイ



ダにロツサノ一ボと稱するコーバ堀り専用の鍬があつてその一幅と、鍬の長さによれば大体前記の寸法に當はまるのである。(一人一日コーバを百作れば上の部で木の根の多い所は三四十位しか作れぬといふ)

このコーバに種を入れるのはセツカ(乾燥)時期の終り頃十月乃至十一月頃(所に依つて違ふ)で一コーバに八粒乃至十五粒縦に兩側へ一行づゝ入れるか、所に依つては四隅に三四粒づゝ入れるかするのである。そして芽生、生長等の具合を見て四本乃至六本の完全な物のみを残すのである。そして蒔付けたコーバの上にはコーバ木と云ふて六七本の割木を載せて日除けとするのである。この種にする珈琲の實は上枝や下枝に付いたのでなく中枝に付いた善い實を選び取る様にして居る。

扱て、蒔付けても皆完全に發芽する譯でもなく、雨の爲や、虫の爲に、枯れる場合もあるので之を補足しなければならぬ。蒔き付けた翌年までは多く蒔き直しをするのであるが、それ以後は別に苗床で仕立てた苗を植える様にして居るのである。この苗を仕立てるには寫眞に見える通り木蔭か陽の直射を除ける様におほひをした下で、小さな竹作りの籠(ブラジルには竹は澤山ある)で仕立てるのである。



珈琲の種類 (寫眞の若木満一年位の珈琲)

珈琲にも種類がある詳しく分類すると數十種もあると云ふ。普通栽培せられて居るのはアラビヤ種、リベリヤ種、ロバスト種、ハイランド種、カネフホラ種の五種である。その中でも前三者が世界各地に栽培され、その實は世界の珈琲市場に潤澤に出て取引の中心商品となつて居る。

ブラジルで栽培して居るものは主としてアラビヤ種に屬するものであつてナシヨナル、ブルボン、デロイ、ボツカツ、マラゴジツベ、ヅウトラ、ムルタ、スマトラ、コンタリカ、ジャバの十種類である。しかし一般に栽培されて居るものはナシヨナルとブルボンとである。ナシヨナル種は普通の珈琲と呼ばれる程普及して居るもので、ブラジルでは一番古く

から栽培され、二百年以上の歴史を有するものである。サンパウロ州ではこの種のものが約六七割を占めて居る。このナショナル種の特長は野生種であつて強健で生育が速かで、樹齢も長く他の種の様には隔年成が甚だしくない。従つて一本より得る平均收穫量は一番に多いのである。その上にこの種は土地のかたい石山地帯や山嶺地帯にも栽培が適すると云ふ。モヂヤナ線及びソコカバナ線に沿ふて多くこの種が栽培されて居る。

次に多くの收穫を得るのはブルボン種でナショナル種に次いで廣く栽培され、歴史も古く百三十年に及んで居る。この種の特長は最も早生であつて、生育極めて旺盛で成り盛りに於ける收穫量は之が一番多いのである。しかし甚だしい隔年成をすることが欠點である。この種はテーラロンヤカマサツベ等と呼ぶ心土の深い場所に最も適するのであつて、サンパウロの珈琲栽培の中心たるリベロンプレート附近を中心として廣く栽培されて居る。名から面白いマラゴジツベ種は實の大きさが他の物の二倍程もあり、品質も優良で非常に香りもあるのであるが實の成りが少くそれに樹丈も大きく他の物の二倍近くに成り、收穫に不便であると云ふ。現在では暑いバイヤ州やマラゴジツベ地方に栽培されて居るのみである。其他の種類は多く改良種か最近試験的に新に輸入された物で未だ多く栽培されてない。

手入れ (寫眞は草取り)

珈琲の手入れは普通除草、山立て、山散らしの三つを云ふのであるが、之は契約移民のなすべき手入れだけの事であつて、珈琲園を持つて居る者から見れば、そのみでは足りないのである。即ち幼苗の世話(コーバ内の手入れ) 病虫害の豫防並びに駆除、剪定及び整枝までを加へねばならないのである。

次に手入れに就て順を追ふて説明して見よう。コーバ内の手入れ—これは前章で述べた通り珈琲はコーバを作つて種を蒔くのであるからこのコーバ内の手入れを仕なければならぬのである。雨の後に流込んだ砂を出したり、中に生える草を取たり、澤山芽生えたものを選んで抜き取りするのである、そし

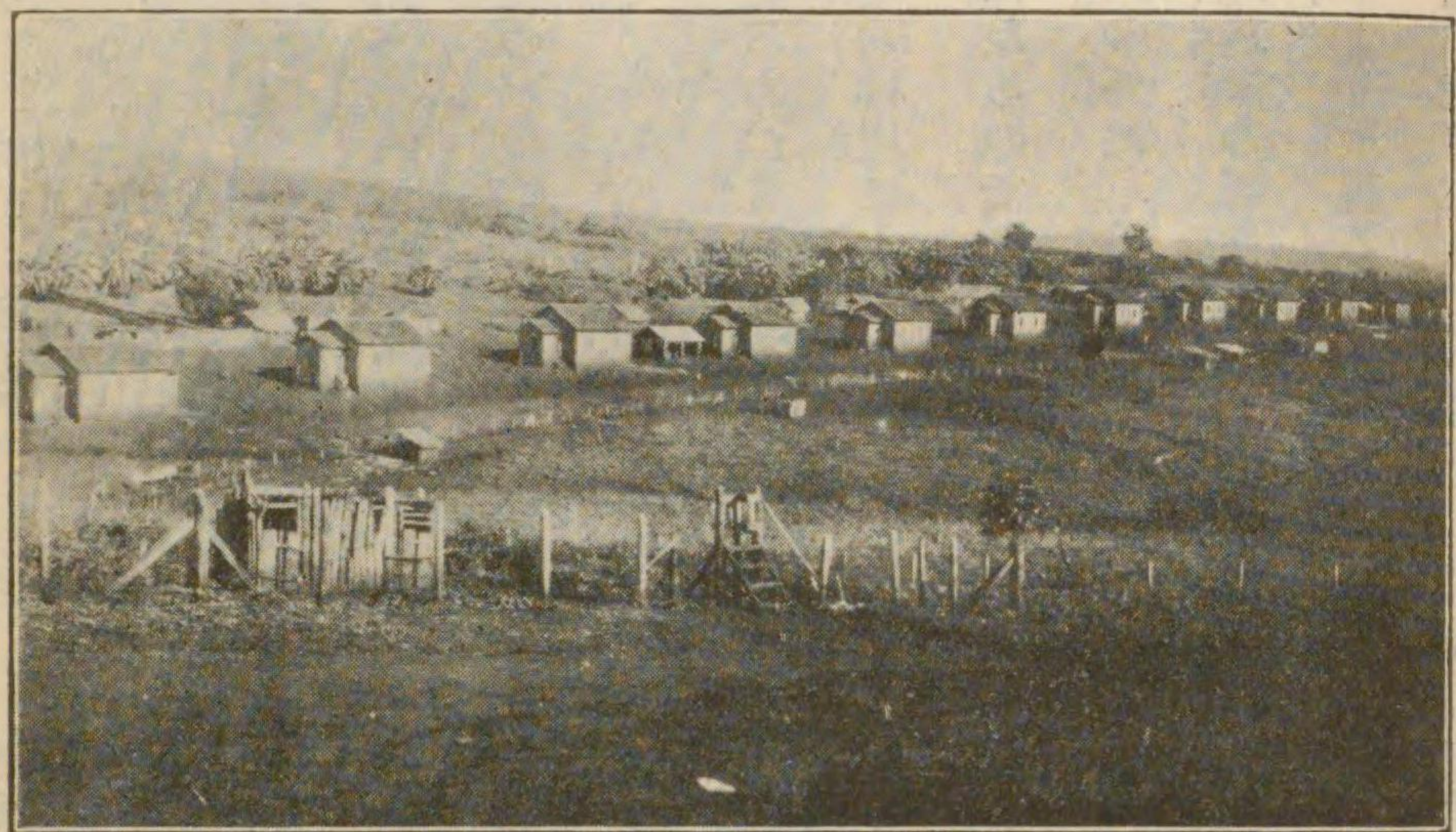


て此コーバは三年目になつてから埋めるのが通例である。除草—除草の回数はその年又は土地の雑草の生え加減に依つて、三回乃至六回迄行ふ。新しい珈琲園は山焼きの時、草の根も種も一緒に焼き盡して仕舞ふから草は生えないが、古い山になると、氣候のよい上に兩期に入ると雨が多く見る間に雑草が繁つて、流石の人間も打ち負かされてしまふと云ふ。山立て及び山散らし—山立てといふのは珈琲樹の周囲の土を掻き寄せて盛立てる事を云ふのであるこれは墮て落ちる實を集め取る目的の土地準備で、毎年繰返される作業である。大概二、三月頃の三回乃至四回目の除草の時、除草をかねて假山立てをして、五月の實取り迄に本山立てをするのである山散らしは珈琲の實取りが終つてからその山を散らしつゝ除草もかねてすることを云ふのである。これが年々契約移民の最後の仕事になるのである。剪定及び整枝は實取りが終つた十一月から翌年二月頃までの中行はれる、その目的及び方法は共に日本の果樹に爲すのと同様である。即ち主枝の剪定、結實枝の剪定、上向枝の剪定、交雑枝の剪定、下垂枝の剪定、主幹更新の剪定等である。病虫害の豫防及び驅除—病虫害で一般に多いのは立枯病（根朽病）と貝殻虫とである其他病菌には煤病、炭疽病、斑點病、斑葉病、黒星病、黒斑病、痘瘡病、雲紋病、果實赤黴病、害虫にはブローカ、はむぐり虫、蟬類、バッタ類等がある。

間作（寫眞はコロノの家）

此所でいふ間作とは、珈琲樹間の農作の事であつて、與作地（珈琲手入請負樹數一万本に付き各自の收入になし得る耕作地として土地一アルケル—二町五反—の割合にて貸て下れる）の農作の事ではないのである。

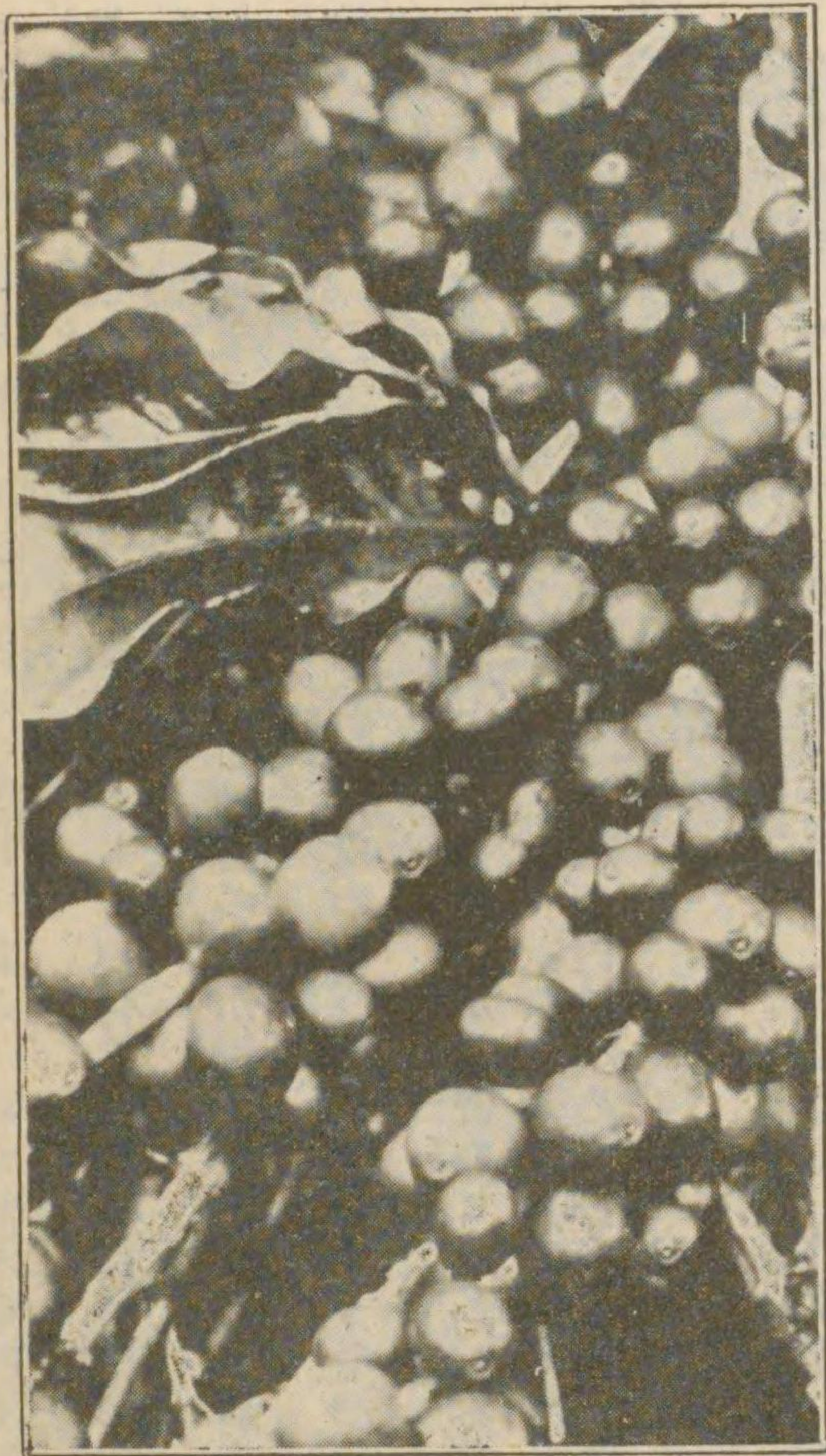
間作は自作農であれば珈琲樹の害をなさぬ程度に任意にすれば善いのであるが、契約移民である場合にはその農場で規定してある以上に作る事が出来ないものである。大概新樹五六年物までは各畦に玉蜀黍ならば一筋、豆ならば二筋、米ならば三筋乃至四筋位作る事が許されて居る。それに氣候が善いので一



年に二作取る事が出来るので、一度取上げた後に、又豆等を作る事にして居る。五年以上の古い珈琲園では畦一つ置に玉蜀黍一筋（即ち珈琲樹四株の間に玉蜀黍二株の割に）乃至豆か米の二筋位を許して居る。間作は契約移民にとつては、除草賃以外の重なる収入になるのであつて間作如何が契約移民のふところ加減を決定する譯である。モヂヤナ線の古い珈琲園（三十年以上の）地帯では間作が許されて居る所が少いのみならず、例へ許されて居ても土地がやせて居て、殆んど出来ない所が多いのである。それが爲に他の興作地、牧場、養蠶室等が興へられて居るのが普通である。間作の出来ない珈琲園の除草賃は高いのが例である。間作は前記の如く契約移民に大切なのみでなく自作農の人にとつても珈琲の實の成る迄の四五年間の唯一の収入になるのであるから珈琲栽培には必ずなくてはならぬ付物である。間作は前述の玉蜀黍、豆、米の外に草棉、小麦（或地に限らる）粟、煙草、麻等が作られる事もある。間作物の収入高は珈琲園の新舊と、その家族の勞働力に比例するものである。今新らしい珈琲園の珈琲樹千株の中より取得る收穫高を調べて見るに、玉蜀黍なれば五斗入三十俵、米なれば五斗入四十俵乃至五十俵、それに二回作として豆（南米豆）六七俵は取れると云ふことである。

開花と結實（寫眞は珈琲の實）

珈琲の花はその實の採收が終つた九月から十月、十一月迄に咲くのであるが、季節から云へばブラジルの春は日本の反對に九、十、十一月の三ヶ月であるから、春咲いて秋實のる世間並の花である。しかし、花の美しくしさは、嗜好飲料の女王だけに、流石に美しく、立派な、氣品のあるものである。



梅程の香もなく、櫻程の濃艶さもないけれど、梅や櫻に見られぬ純白の細瓣が房々と賑はしく連らなつて細く長い枝をたわゝにしてゐる風情は丁度貴婦人の髪を飾る駝鳥の胸の純白な柔

毛にもまさつて何とも云ひ得ぬ美しさである。花が節々に咲く通り、實も節々に群がり付いて眞青い碧玉か赤珊瑚の玉の様に美しく色付く時は眞白い花の時と同様、珈琲園に働く人々の目と心とを樂しましめる時である。櫻の實が青から赤に、やがて紫紺に色付いて行く様に、珈琲の實も二、三月頃から色付き始めたのが眞赤になつて、やがて四月の末頃から濃茶褐色に變つて行く。こうなれば充分熟したのであるから賣取りにかゝるのである。最初咲く花から終りの花まで一ヶ月以上もかゝる通り、實が色付始めて皆終るまでには一ヶ月以上二ヶ月近くもかゝるのである。

花も實も、やはり木盛りの物程多く付くのであるが、前述の通り樹の種類や、隔年成の木の性からも種々變化があるのである。土地の肥沃の程度もあるがコーヒー樹の壽命は五十年乃至六十年といはれ、所に依つては七八十年以上に及ぶ所もあるといふから、丁度人間の壽命に等しいものであつて、従つて木の盛りは十年代から三十年代までである。

盛りの木は一株（四本乃至六本が一緒になつて居ることは種蒔きの所で説明した通り）で一俵（皮付百リットル）も實が成るのがあると云ふ。

收穫（寫眞は實取り）

珈琲の實取りは、何と云ふても珈琲園に於ける最大の仕事である。サンパウロ州では珈琲の實取りは乾燥の季節である五月中旬から十月の初め頃までに行はれる（澤山成つた年には十一月に入ることがある）この時期はブラジルでは冬季に當るので、日が短く、競争心も手傳ふので、實取りは忙しいものとされて居る。中南米地方及びコロンビアでは實取りは年二回行はれ、且つその何れもが雨期である爲に非常な手数を要するとの事であるが、ブラジルでは年一回のみであり而も雨の降らぬ乾燥期であるから、屋外天日乾燥が出来るので非常な勞働力を省き得て、ブラジル珈琲事業の發展の一大原因になつたので

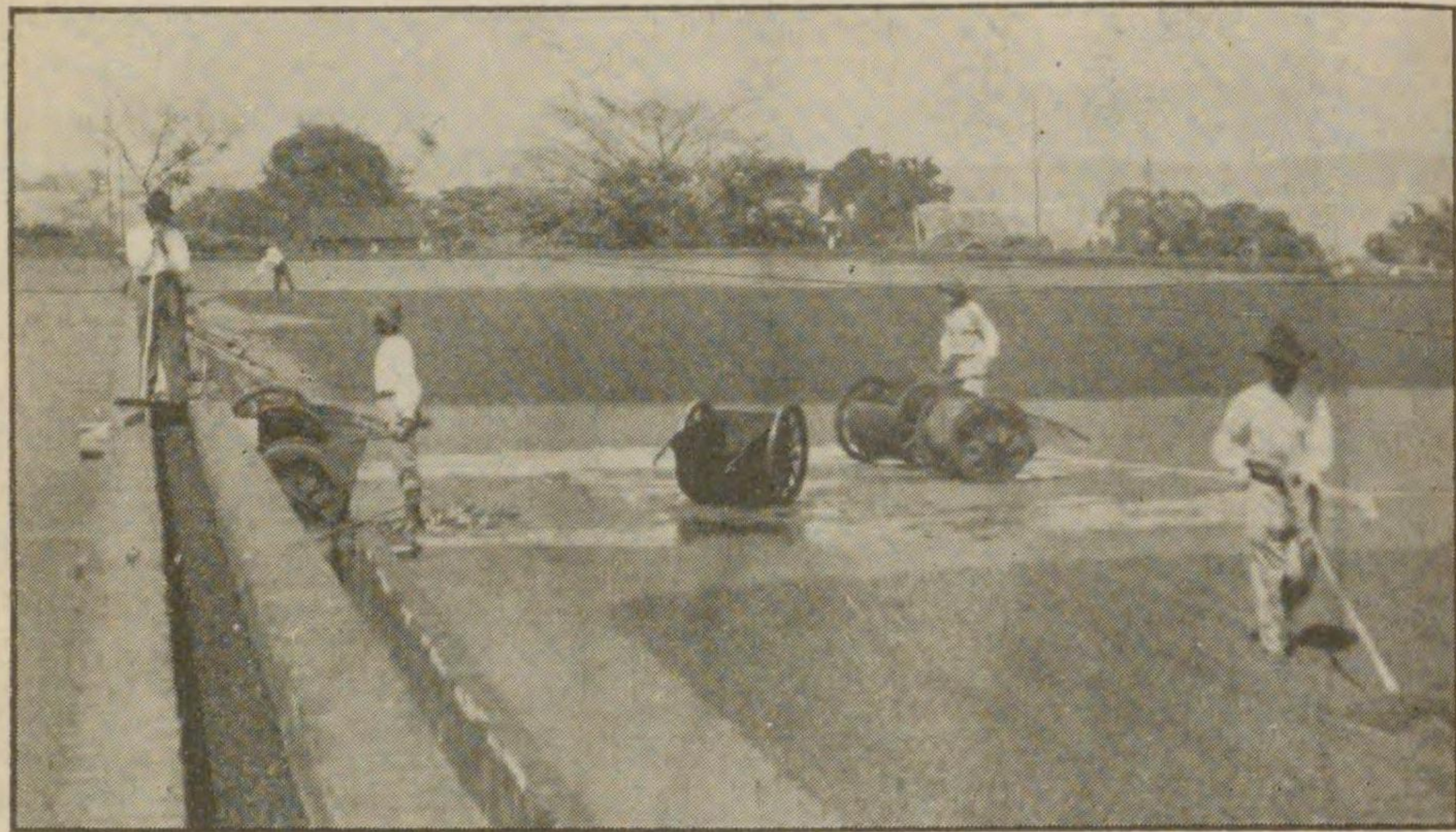


あると云ふ。

珈琲の實取りの前には山立をして、その準備をする事を手入の所で述べて置いたが、それは實を手でこき落としたのが遠く散らない様に、且草やごみとまじらない様にする爲のものなのである。しかしモジヤナ沿線の様に小石の多い地方では、山立をせずに樹下に布をしいて置いて、實を落とす様にして居る。落した實はそのまゝ三四日から長い時は一週間程も干して置いて、篩にかけてゴミや砂を除き、規定されて居る自分の家（ユロニヤ）の番號の付いてゐる袋八百リツトル（所に依つては百十リツトル）づつ入れて道まで運び出して置くのである。實取りは契約の仕事以外の仕事であつて、昨年迄は一袋に付き三ミル（約七十五錢）の賃銀を支拂つて居たのであるが、今年には珈琲の下落の爲に二ミルに下げられて居る。實取りは一人での位出来るものであるかと云ふに良く成つてゐる年ならばよい働き手で十袋乃至十二袋、普通六七袋だと云ふ。ならぬ年では二袋か三袋多くて四袋までだといふ従つて珈琲園の實のならぬはコーヒー園で働く契約移民の人達は収入上甚だ不利であるのである。實取りに用ふる三脚梯子は、大概地主の方で用意してあつて、貸して下れる事になつて居る。又道路の傍まで運び出した袋は、地主の方で馬車を使つて乾燥場へ運ぶのである。

乾燥より賣渡し迄（寫眞は乾燥場の作業）

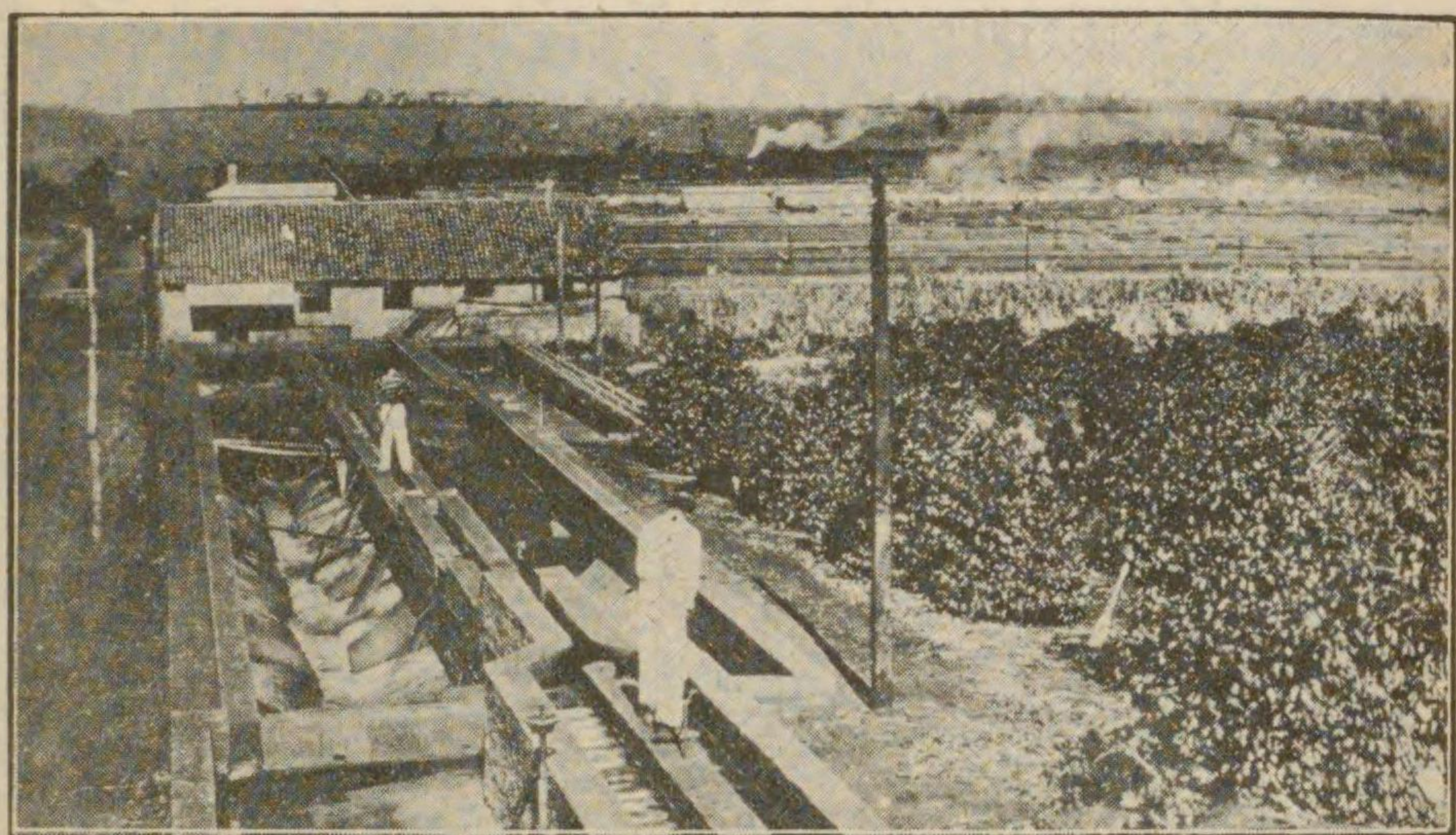
袋に入れられて乾燥場に運ばれた珈琲は一先づ水槽の中へ入れられる。この水の中に珈琲を入れるのは單に洗つたり、石や芥を取り除くのみが目的なのではなくて、實の善悪も選り分けるのである。先にも實の色付くには一ヶ月以上も早いものと遅いものとの間に隔たりのあることを述べて置いたが、仕事の都合上全部が熟し切るまでは待ら切れないので茶褐色の善く熟したものと中へ赤いのや、青いのが一緒に入つて居るので、水に入れて選り分けるのである。熟して居る程軽いので善く浮くから、これを水の流れを利用して分け、その如何に依つて、乾燥の時間の短長をも決する譯である。



乾燥は黒く見える様になつて居るものは五六日、赤味のあるものは十日乃至十五日、青いはそれ以上といふ様に區別してするのである。珈琲の香ひと味とはその種類にも依るのであるが、最も影響するのは、この乾燥の加減如何であつて、中の實が全部一様に薄飴色になればよいのである。それが乾方の加減で同じ一粒の實でも、一方は青白く、一方のみが飴色になつて居る様ではどうしても上等品にはならないのである。況して青い中に取つた實はどんなに上手に乾しても、下等品の域は脱せられないのである。乾燥中特に注意しなければならぬ事は、付著して居る水分の乾き工合であつて、それまでの手返し時期と、水分の全く取れぬ間は夜間掻き集めて、實の暖かみで、全體が同じ様に乾く様にするこの手加減が最も呼吸を要するのであるといふ。乾き上つたものは、乾燥場の近くに作り付けてある、精選機にかけて皮を取り、正味六十キロづゝ袋に入れて中買商人に賣り渡すのである。しかし實際はこの時始めて正金を受け取る程餘裕のある人は少なくて、多くはそれ前未だ畑に青い實の成つて居る頃、青田貸と云ふて大よそ收穫高を豫想し、その時の見越相場の幾割かを前借し、合議の上きめた、品物引渡し後の或る期日の値段で仕切つて勘定するのが普通である。

格付 (寫眞は珈琲の實の流す選擇場)

日本では米をその品質外形、其他色々の特性に因つて等級別にして、商品としての便宜を計る様に、ブラジルでも珈琲を一定の規定に當従つて格付をするのである。大体珈琲の格付は一八八六年、今から約四十五年程前に佛國のアーブル取引所に於て制定されたのが初めである。そして現在も歐洲諸國に於ては、多少の差はあるがその格付法に従つて六等級に分けて居るのである。しかしブラジルでは米國紐育の等級別に準じて九等級に分けて居るのであつて、如何に米國が世界の商業市場に實勢力を握持して居るかをこゝにも雄辯に物語つて居る譯である。ブラジルのコーヒーの格付はサントスの珈琲取引



所に於て行はれて居る。等級はチツボ(格)一からチツボの九まであつて、チツボ四が標準級となつて居る。けれども實際サントスの市場で多く取扱はれて居るのはチツボ二からチツボ六までであつて、而も總取扱ひの四分の三までがチツボ四以下の物だといふ。それではどうしてこのチツボ(格)が定められるかと云ふと、四百五十グラム(但しこれは輸出向きのもので、内國用は三百グラム)の中にデフェートといつて、芥や石や不良なものが幾程入つて居るかに依つて決するのである。即ち何も入つて居ないものを一級とし、八百五十點入つて居るものを九等級としてその間を八つに區畫してあるのである。而して同じ砂で、米粒大のものなら三つで一デフェートであるが、大豆大のものは一つで二デフェートに數へる様に規定してあるのである。

其他に、煎種鑑定法と云ふて百グラムの珈琲を煎つてデフェートを數へて四等級に分けたり、嗅飲檢定法といふて嗅覺や味覺に依つて丁度日本の酒の如く鑑定して五等級に分つたりするのもあるが、普通チツボとポンドから格付するのである。この格付には相當手數を要するので一千俵を單位とし二百ミルレース(約五十圓)の手數料を取るのである。



世界市場とブラジル珈琲

(寫眞は倉庫内の珈琲)

私は本文の冠頭に於てブラジルは世界珈琲全産額の約八割を占めて居ることを述べて置いた。今此處で詳しくブルジルの珈琲が世界市場に如何なる關係を有して居るかを調べて見様と思ふ。

珈琲に關する統計表に依れば一九二七年の全世界珈琲産出額は三千六百卅三萬七千袋、其中ブラジル産出分は、二千八百三十三萬四千袋で總高の七割八歩に達して居るのである。(そのブラジル産出分の約六割は邦人の多いサンパウロ州より産出されて居る)而して同年ブラジルが海外に輸出した珈琲は一千四百四十八萬五千三百五十二袋であつて夫を内譯

すれば、米國の七百九十四萬六千二百二袋歐洲諸國の五百七十八萬四千四百四袋、其他七十五萬九千六百袋となる、夫を尙詳しく調べれば、米國は全珈琲消費額の七割歐洲諸國は同じく六割をブラジルの珈琲に待つて居る事になるのである。

次に珈琲の産出に最も關係の深い珈琲樹に關する統計を見るに一九二八年の全世界の栽培珈琲樹の總數は三十三億三千六百八十八萬六千本その中ブラジルが廿二億五千七百二萬五千七百五本を占めて居るそして最近五ヶ年間の一年平均新樹増加數を見れば全世界の總額一億一千三百萬本中ブラジルは九千八百萬本に及んで約九割を占めて居るのである、従つてこの數より考ふればブラジルは將來に於て全世界珈琲生産額の九割を占むる時代がある事が豫測される譯である、珈琲の國ブラジルの面目がこの統計表の上に躍如として現れて居るのを見受けるのである、最後に世界各國に於ける珈琲消費量を見るに、一九一八年に千五百九十六萬八千袋であつたものが、十年後の一九二七年には二千三百三十三萬六千袋に増加し、實に倍加近くの數に達してゐるのである。殊に米國は禁酒法實施以來、珈琲の消費額が著しく増加したとの事であるが、ブラジルにして見れば意外な儲け物をしたわけである。

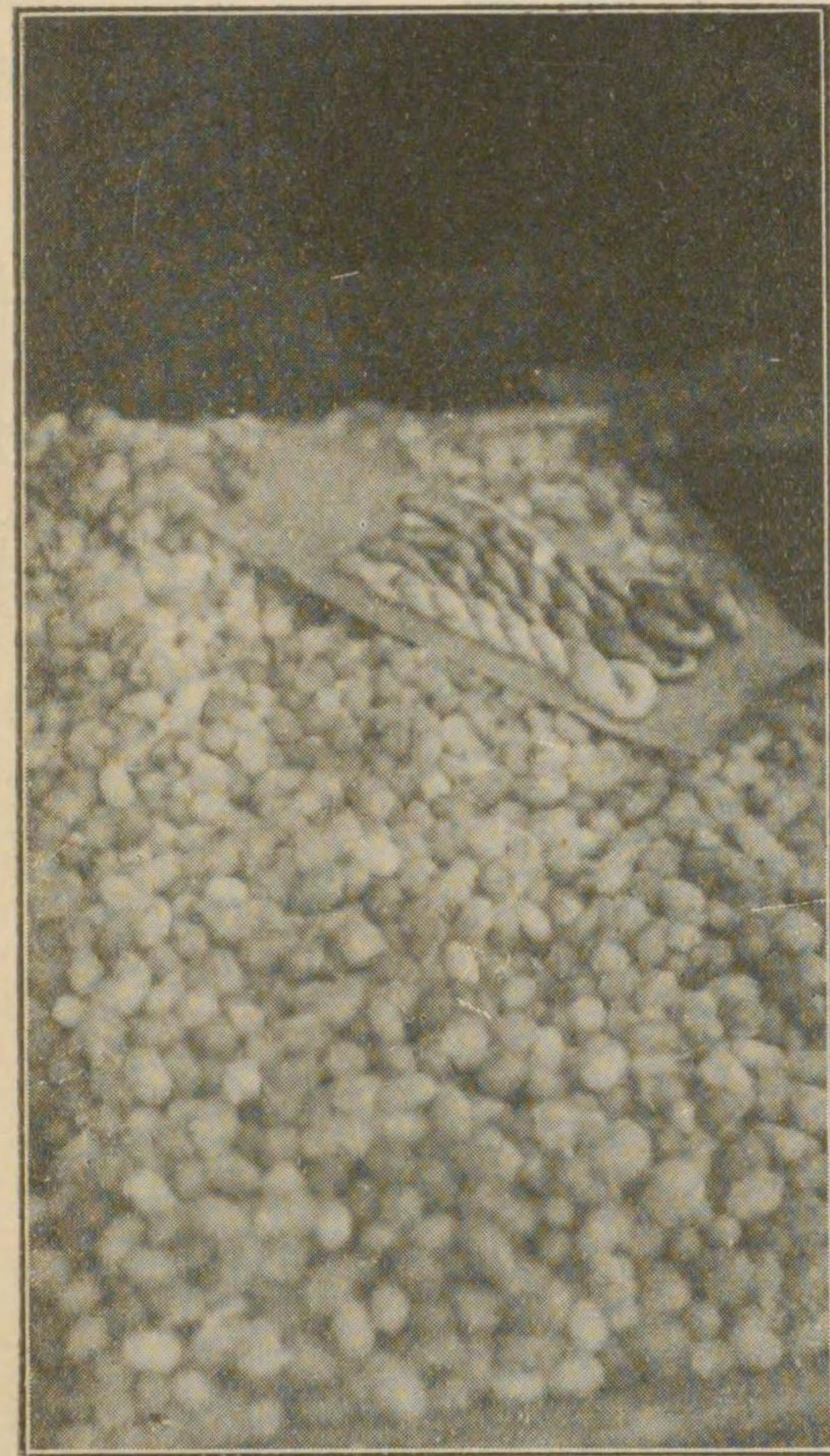
將來あるブラジルの養蠶

珈琲より養蠶へ

(寫眞はブラジルの邦人の手に出來た繭と絲)

珈琲の生産過剰と大下落はブラジル農民に何を教えたか。それは單一農業の危険と、新に有利なる副業の並行の必要とであらう。

殊に珈琲栽培を唯一の仕事として居た日本移民は、珈琲不況に塗炭の苦し味を嘗て居るのであるから、今こそ日本移民には恐らく幾分の知識を持合せらるであらう所の養蠶を、珈琲農業に



加味して複式農業と爲す可き時であらうと思ふ。珈琲栽培の中、最も忙しい實取りの時機は、桑の葉の落ちる時で養蠶の手の空時であるから二者を並行せしめる上にも都合が善いと思ふ。その實取りの約三ヶ月は養蠶を休むにしても、尙

一年に四五回の養蠶は困難でない。

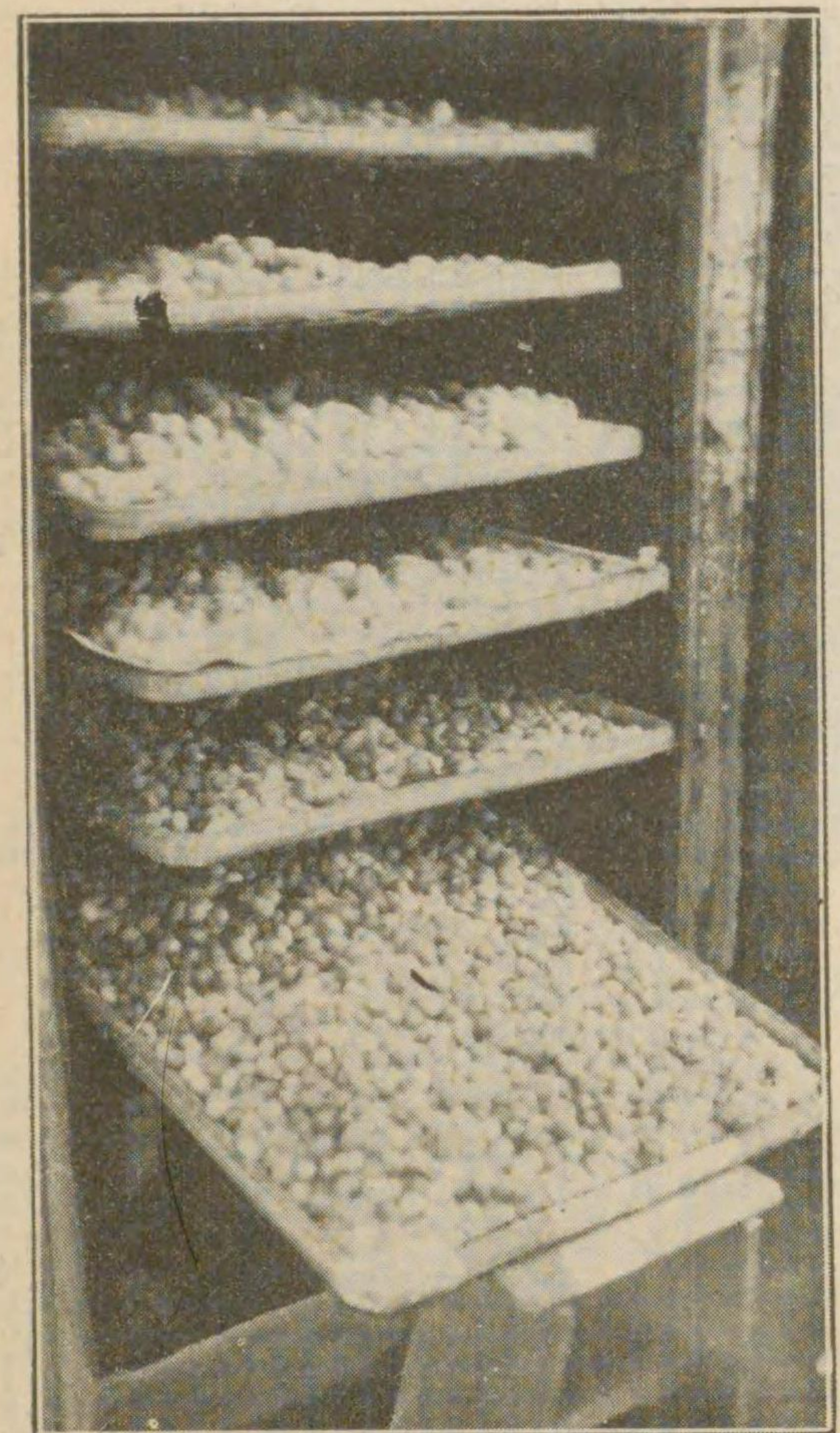
それに、養蠶に必要な桑は、珈琲樹に適しない低地にも善く育つのみならず、無肥料で十分美事に成長するのである。其他飼育の方面に於ても、氣候が善き爲に非常に容易く、且つ日本の如く炭を使つて部屋を暖める必要がない。従つて手數も省け又費用を少くして済む譯である。若し、斯くして年に四五回、繭代として現金が入つて来るものとしたら、今迄の取入れる珈琲を抵當に前借りして居た農家經濟に如何程の潤ひを興へることであらうか。即ち食ふ米、豆、豚、鶏等を自ら得、又買はねばならぬ日用品の金額だけを養蠶に依つて得、珈琲の收穫を餘分のものとして貯蓄し得る様努めたならばブラジルの農家は如何に裕福な暮らしが出来事であらうか。

そして、それは蠶の國、生絲の國たる日本の移民のみが最も容易に取り得る手段なのではないか。或人は謂ふ

「ブラジルで養蠶が盛になつたら、日本の生絲を如何にするか」と、誠に尤もな言分ではあるが、若し、日本人が手にせず伊太利人乃至佛國人等がブラジルで養蠶を盛大にして、日本の養蠶を壓せしむる日があるとしたらどうであらう。それなら寧ろ邦人の手にその生産事業を收めて置き度いと思ふであらう。現にブラジルの生絲、絹織物業は殆ど伊太利人の手に獨占されて居るではないか。

ブラジルの養蠶 (寫眞はブラジルで豊に穫れた繭)

ブラジルに養蠶が入つたのは一九〇四年のことで、サンパウロ州のピラシカバ郡に於て始めて試みられた。又一九一二年にはミナス郡バルベナ町に郡立養蠶試験場が設立された。しかしこれは遂に見る可き程の事もなく終つた。



今日のブラジル養蠶の發達は何と云ふても、一九二三年にサンパウロ州政府の補助(五ヶ年

間に邦貨約卅萬圓)に依りて創設されたカンピナス内國絹織物工業會社が、補助條件として年々希望者に、蠶種及桑苗の無償配付をなし、養蠶法をも傳習せしめ又一方取上げた繭に對しては會社が運賃を負担し、保證最低價格一疋に付六ミ

ルレースの買上助成法等をも講じた爲である。即ち同會社創立後四年目の一九二七年(一農年)には配付桑苗數、百一萬七百四十七本、配付蠶卵量十萬六千瓦、買上生繭量十三萬五千疋、又飼育者數五千八百五十人に及んだと、同社は發表して居る。

尙同會社は政府補助の終つた今日と云へども、桑苗、蠶卵等を無料で配布して居る外、繭の購入價格を一疋に付一等品十二ミル、二等品十ミル、三等品八ミルとして買付けて居る。

同會社は農業部、養蠶研究部、製絲織物部等に分れ、製絲機械百六十台、織物機械五十台を有し、約千名の従業員を有して居る。(會社のあるカンピナス町はサンパウロ市より約七里)又、一九二七年のブラジルの絹織物類の輸入額は約五十萬疋、約一万九千コントスに達して居るのである。

前記の事から見て、ブラジルに於ける養蠶は前途洋々たるものがあるのみならず、南米諸國が皆絹織物類を輸入して居る國のみなる事を思へば、決して日本移民全部十萬人の人々が養蠶を始めたとしてもその生産品の捌口に困る様なことはないと思ふ。

しかし、實際に多數の邦人が養蠶に従事するならば、現にイグアペ植民地に見るが如き養蠶組合も必要であらう。蠶種の改良及製造も必要であらう。共同製絲組合も必要であらう。又それ等全般に亘つての研究及指導も必要であらう。

桑に就て (寫眞はアリアンサ百瀨氏の畑)

桑苗は前述の通り、カンピナスの會社へ申込み貰えるのであるが、自分の手で増殖するには挿木にすれば容易に得られるのである。

挿木は、一年位伸びた枝を一尺程に切り、二芽程出して斜に挿すのである。勿論、植換える手数のいらい様、豫定の畑に挿付けるのである。時期はブラジルの冬である六、七、八月頃が良いとアリアンサの養蠶専門の百瀨氏は云ふて居るが、例の會社から發行して居る書物に依ると、挿木は雨期の十二月から二月頃までに行ひ、移植は七、八月頃にするが良いと記してある。之はアリアンサの土質は粘土質なのに、カンピナス附近は砂土質なるが爲に來る相



異であつて、アリアンサに於ては雨期に挿木をすれば、皆腐つてしまふとのことである。
親指位の太いものを挿せば、六七ヶ月頃から収穫する事が出来る様になるが、普通一ヶ年
後が良く、丸二ヶ年も経てば、樹の太さは直徑二寸五分乃至三寸位までにはなると云ふ。
桑は年に三度まで同じ株を切取る事が出来るが、二度位が適當であらうと云ふ。何しろ、霜
の降りる年が珍しい位であるから、桑の葉は年中青々して居る。切取らずに捨てゝあるもの
は六、七月頃に落葉するのであるが、葉の落ちた後には已に若芽が脹れて居る。

桑の栽培で恐れなければならないのは、頭の大きな葉摘み蟻（カベツサ・デ・グランデ）がつ
くと一夜の中に、見渡す程の所を丸坊主にしてしまふことがあることである。そして、この蟻
は退治の方法もあるけれども、地下深く巢を作つて居るので仲々完全なる駆除が困難である。
其他には貝殻虫を見受ける位なもので、恐る可き病害は現在まで見受けられない。

多くの人々は桑に施肥をせずに適當な時期に輪耕の方法を以て、新地に移るのであるが、若
し、各期の養蠶の際の蠶糞を簡単な堆肥場へ堆積して、善く踏み付けて置き、適當に腐敗し、
病毒等の死滅した頃に桑畑に入れば非常な好結果を得ると云ふ。

養蠶専門の百瀬氏

（寫眞は開墾當初
の山かけ小屋）

ブラジルに於ける邦人間に於ける養蠶の始祖は、
アラサツバの小林伊助氏か、モジタスクルーゼス
の小野豊藏氏だと云はれて居る。

アリアンサ移住地にも養蠶をして居る人に、百瀬
木村、藤森の三氏がある。その中百瀬氏は家の働手
たる二人の息子を入植の時汽車顛覆の厄に遇ふて喪
ひ、それが一つは動機にもなつて、珈琲に全く手を
附けず、信濃海外協會で計畫して居た養蠶試育所を
借りて、専念に養蠶をして成績を擧げて居る。尤も
食糧品たる米や野菜類の耕作や、養鶏等は自分の手
でして居るのである。

同氏より前後八回に亘る成績を聞いて養蠶の有望
なる裏書を得た。



ブラジル漫談 (七)

ブラジルへ志す人々の爲に、是非心得て置く可き五つの鐵則。

第一は健康

先づ何よりも、健康である事である。殊に農業の目的で渡航する人は健康体が第一條件である。

第二は信念

何事も善い事ばかり、又悪い事ばかりの事はない。出發前に出来るだけ十分研究して、この點が目標の中心であるとの信念があつて欲しい。

第三は忍耐

事を成し遂げしむるものは堅忍不拔の精神である。「精神一到何事か成らざらん」とは尙今日も處世上の一大哲理である。

第四は工夫

外國の事は聞いて極樂、見て地獄、實際行つて『なるほどな』と笑顔をする様な事が多い。従つて、成功の遅速を論じてはならない。

不平のない生活が已に成功なのであるから、新天地の生活を期して、精神生活に一大革命をも起す事である。——實際、新しい生活はその精神革命の最も善い時である。

第五は善徳

外國に出たものの心掛く可きことは、世界人としての認識と、人類への奉仕の快感である。

即ち、利の爲に隣人を賣らざる事である。

××××××

○ この世は己が獨りのものに非ず吾亦人と共に生きるに過ぎず。

○ 大金を背負うて、三途の川を渡らんとする者は、地獄に陥込む恐れあり。金は程善く持つべきもの大金は恐ろし。

ブラジルの教育



ブラジルの普通教育

(寫眞はサンパウロ
大正小學校の生徒)

ブラジルの文化程度に就ては「ブラジルの政治を語る」の中の「國民と文化」の所で已に説いてあるが、今改めて現大統領ゼツリオ・バルカス氏が一九二五年下院に於ける演説に引用せる十五才以上の文盲者百分率を見るに、最も甚しいのはピアウイ州の八一%、一番成績の善いのがリオ・グランデドス・イル州の四四%、首府のある聯邦府が六四%、サンパウロ州が五八%で全國平均が六七%と云ふ數である。

従つて普通教育の普及されて居ないことは詳説するまでもなく又不完全なものでもある事も説明するまでもない。

普通教育は各州政府に一任されて居るのであるが最近聯邦政府が普及獎勵の目的の爲に教員の俸給を直接支給する様になつた。しかし普通教育の學齡を

八才乃至十歳と定めて居る程度で、各州各様で、完全なる義務教育制度を實施し得て居る州は少い。

今、サンパウロ州の教育令を見るに、八才乃至十才を義務學齡、十一才乃至十二才を隨意學齡とし修養年限は、學園四年、都市學校三年、農村學校二年と規定して居る。この學園と云ふのはグルーポ・エスコラールと稱して小學校課程全科を完全に備へたもので、都市にのみ設けられるものである。

教授課目の中で日本の小學校に見られぬものは、歴史に附隨した偉人傳と、聯邦及州憲法の大意とで他は略同じである。

學年が二月一日に始まり十一月卅日に終り、後二ヶ月が暑中休暇になつて居る。之は南半球の氣候の相異の爲である。

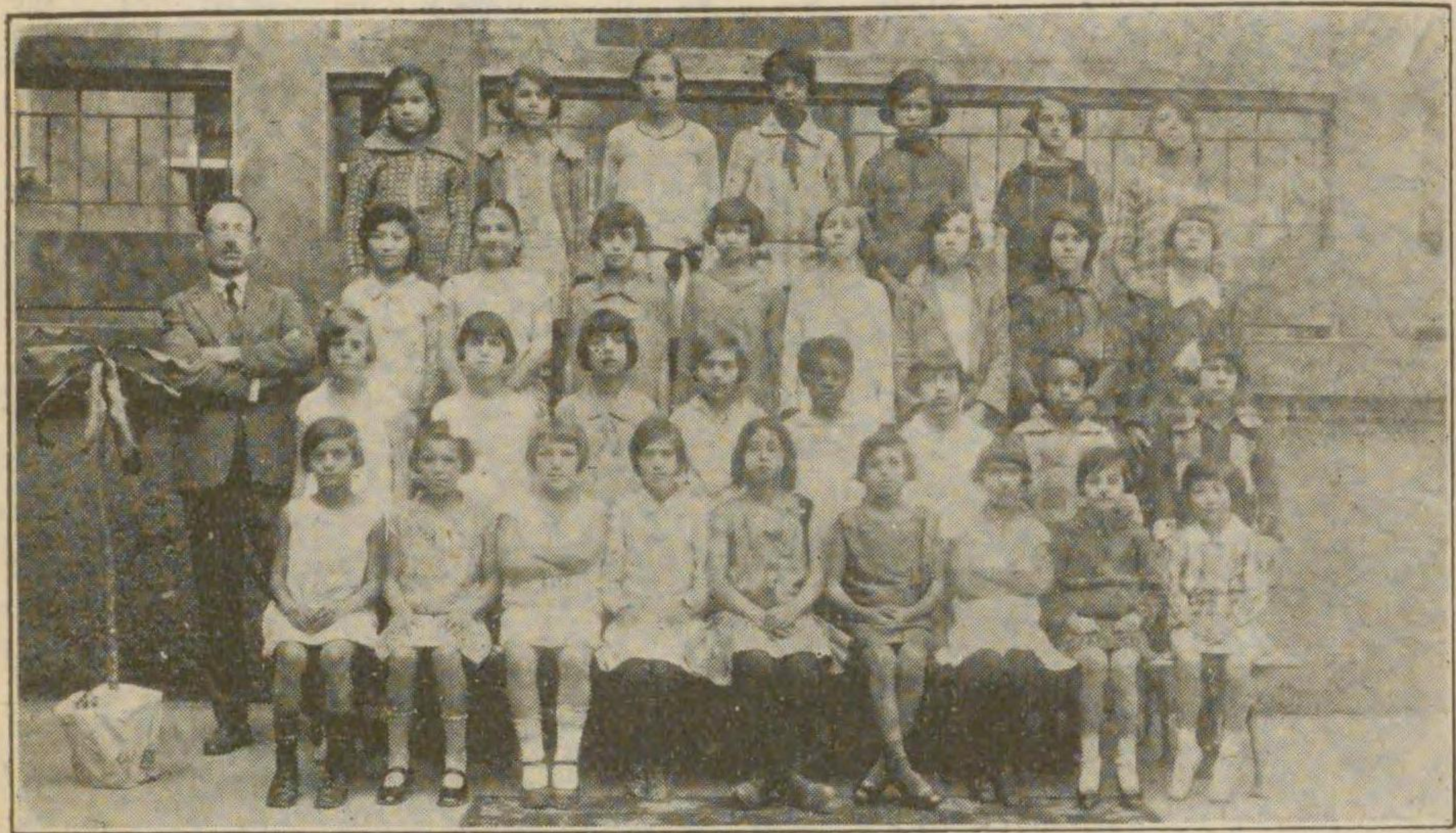
教育令の中には義務教育免除なる簡條があつて、或る條件の兒童に義務教育を免除して居る

その中、ブラジルらしい一・二のものを挙げれば、

- 一、學校から二軒以上の遠方に居住する者。
- 一、學校に空席がない場合、
- 一、貧困で見苦しくない。不潔でない衣服の支給の道の無い者、

等である。

尙、變つて居て面白いのは採點法で十二點滿點、六點が及第點と云ふ制度である。



ブラジルの小學校を觀る

(寫眞はその學校の校長と二年女生徒)

サンパウロ市で、日本兒童の比較的多く入つて居ると云ふカンポスのサーベス小學校を參觀に行つたことがあつた。所謂學園組織で、全生徒千九百五十九名、四學年四十八學級であつた。その中日本兒童は六十三名あつた。

丁度、訪れた日が、成績品の展覽會をして居る時で、多數の父兄、母姉が押かけて居たが、校長ロドリコ・ローザ氏は心快く應待して呉れた上に、校内全部をも案内して呉れた。

日本學童に就いて批評を聞くと、一人生れ附きの低能兒があるのみで、後は皆中以上の成績を占め、